

物品出納命令官ハ第三條ニ據リ確定シタル物品出納ノ命令ヲ次等命令官ニ委任スルコトヲ得但
 第十八條ノ物品受排報告書ハ物品出納命令官之ヲ複製スヘシ
 第八條 物品ヲ要求スル者ハ第二號甲物品要求票ニ式ノ如ク品名數量ヲ記シ捺印シテ物品出納命
 令官ニ請求スヘシ出納命令官要求ニ應ジテ交付スヘキモノト思考スルトキハ要求票ニ捺印シテ
 物品會計官吏ニ附ス物品會計官吏ハ現品ヲ支出シ第二號乙物品受領票ニ受領者ヲ記シ捺印セシ
 ヲ之ヲ引換交付スヘシ
 第二號乙物品受領票ニ出納命令官ノ捺印アルトキハ之ヲ支出命令トス又現品ト引換タルトキハ
 該票ヲ以テ決算證明ノ證據トシ第二號甲物品要求票ヲ以テ其控トス
 第九條 物品會計官吏保管品ノ缺乏ヲ補フヲ要スルトキ又ハ支出ノ命令アル物品ヲ有セサルトキ
 ハ品名數量ヲ記シ見本品等ヲ添ヘ命令官ニ出スヘシ命令官ハ之ヲ調査シ購買ノ手續ヲ爲スヘ
 シ
 第十條 物品會計官吏物品ヲ受入ル、トキハ第三號物品納票ニ命令官ノ認印ヲ受ケ庫納スヘシ
 第二號物品納票ニ出納命令官ノ捺印アルトキハ之ヲ受納ノ命令トス而シテ乙票ヲ以テ決算證明
 ノ證據トシ甲票ヲ以テ其控トス
 第十一條 生産品戻入品又ハ他應ヨリ譲リ受品其他ノ物品ヲ受入ル、時ハ概テ第十條ノ手續ニ據
 ルヘシ但物品受入ノ場合ニ於テ第三號物品納票ヲ用ヒ難キ時ハ該票ニ準シ納品書ヲ作り命令官
 ノ認印ヲ受ケヘシ
 第十二條 不用ニ屬スル物品アルトキハ取扱主任者第四號甲物品還納票ヲ作り所屬長ノ認印ヲ受
 ケ現品ト共ニ物品會計官吏ニ出ス可シ物品會計官吏ハ命令官ノ認印ヲ受ケ現品ヲ受領シ第四號
 乙領收證ヲ交付スヘシ

第四號甲票ハ帳記ノ證據ニ供スルモノトス
 第十三條 不用物品ノ還納ニ際シテハ物品會計官吏ハ現品ノ毀損ナキヤ否ヤヲ検査シ毀損アル時
 ハ還納者ヲシテ其事由ヲ證明セシムヘシ
 第十四條 臨時物品會計官吏ノ保管ニ屬スル物品ヲ借用セント欲スルモノハ所要ノ事由借用期限
 ヲ明記シタル借用書ヲ作り物品出納命令官ノ承認ヲ得現品ヲ借受クヘシ
 貸借ノ爲メニ要スル運搬其他ノ入費ハ借受者又ハ借用人ノ支辨トス
 第十五條 物品會計規則第十條ノ物品出納帳簿ハ第五號及第六號様式ニ依リ各廳ニ於テ之ヲ製ス
 ヘシ補助簿ハ各廳ニ於テ便宜之ヲ定ムヘシ
 第十六條 備品ノ共用ニ係ルモノニ對シテハ各廳長其所屬員中ヨリ取扱主任ヲ命スヘシ
 第十七條 前條ノ取扱主任ハ其取扱物品ニ對シテ物品借用人ハ其借用物品ニ對シテ各官吏以下ハ其使
 用物品ニ對シテ故意怠惰ニ依リ亡失毀損シタルモノヲ辦償スルノ責ニ任スヘシ物品ノ受領者取扱
 主任借用人使用人ト別人ナルトキハ取扱主任借用人使用人ニ交付ノ前ニ於ケル亡失毀損ニ對シ
 テハ受領者其辦償ノ責ニ任スヘシ
 第十八條 物品出納命令官ハ第七號様式ニ依リ毎年度ノ物品受排報告書ヲ作り翌年度六月三十日
 迄ニ會計局ニ出スヘシ
 第十九條 會計局長ハ前條ノ報告書ヲ統理シテ物品會計規則第十四條ノ報告書ヲ作ルヘシ
 第二十條 物品會計官吏ハ物品會計規則第十五條ノ計算書ヲ第八號様式ニ依リ複製シ證據書類ヲ
 添ヘ期限内ニ會計監督部ニ送付スヘシ
 第二十一條 物品會計官吏交替ヲナシタル時ハ前任官吏ハ第二十條ノ計算書ヲ複製シ證據書類ヲ
 添ヘ直ニ會計監督部ニ送付スヘシ

第二十二條 物品會計官吏死亡シタル時ハ臨時命スル所ノ官吏前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十三條 物品出納計算書中品目ノ欄ニ品目ヲ記列スルニハ第一號類別表ニ依ルヘシ又其現在ノ部價格ノ欄ニハ受拂原簿ニ照シ供用品在庫品ノ總價格ヲ記入スヘシ

第二十四條 物品出納計算書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ但其原簿ヲ提出シ難キ場合ニ於テハ當該官吏ノ保證アル帳本ヲ以テ之ニ代フヘシ

一、買入品戻入品生産品及保管轉換其他ノ事由ニ依リ受入トナリタル物品ニ對シテハ第三號乙票若クハ之レト同一ナル證據書類又ハ之ニ代ルヘキ帳簿アルモノハ其帳簿

二、消耗品ニ對シテハ第二號乙物品受領票又ハ之レト同一ナル證據書類但物件又ハ人員ニ依リ數量ニ規定アルモノハ各其計算ノ基ク所ヲ詳記シタル仕譯書ヲ添付スヘシ

三、賣排品ニ對シテハ其事由ヲ詳記シタル書類

四、亡失毀損ノ物品ニ對シテハ其品名數量代價及亡失毀損ニ係ル事實ヲ詳記シ當該物品出納命令官ノ認定アル書類又辨償ニ係ルモノハ其辨償品數量代價ノ仕譯書

五、生産ノ爲メ消費シタル物品ニ對シテハ其消費ノ事由ヲ摘記シタル領收證書又ハ之ニ代ルヘキ仕譯書

六、保管轉換ノ爲メ仕拂ノ物品ニ對シテハ當該官吏ノ領收證書

第二十五條 前條ノ證據書類ハ計算書ニ掲クル各欄ノ順次ニ依リ品目毎ニ區分編纂シ其表紙ニ數量ノ合計及證書ノ枚數ヲ記載スヘシ但一品目ノ證書枚數僅少ナルモノハ合冊トナスモ妨ケナシ又一書類中異種ノ品目混合セルモノアルトキハ別冊ニ編纂シ其表紙ニ品目ノ數量合計ヲ記載スヘシ

第二十六條 會計監督部ハ物品出納計算書ノ下検査ヲ執行シ其下検査書ヲ添付シテ會計検査院ニ送付スヘシ

送付スヘシ

第二十七條 前條下検査書ハ物品出納計算書毎ニ區分調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一、物品出納計算書其他證據書類ノ件名冊數

二、物品出納計算書ノ現在高ト其現品ト符合ヲ認メタル保證

三、計數正確ノ保證

四、法規ニ背反シ若クハ事實ニ適合セズト認定セシ事項ノ事由

五、證據書類中必要ノモノニシテ検査終了ノ上返付ヲ要スル書類ノ件名

第二十八條 各屬ニ於テ物品出納ノ證明ニ關シ會計検査院ハ報告書又ハ答辨書等ヲ送付スルコトアルトキハ會計監督部ヲ經由スヘシ

附則

第二十九條 本規程ハ物品會計規則實施ノ日ヨリ施行ス

(第一號乃至第八號別添略ス)

○海軍省違第百二十六號

海軍機關學校條例左ノ通改正ス

明治二十二年九月七日

海軍大臣伯爵西鄉從道

海軍機關學校條例

第一條 海軍機關學校ノ紀律ハ專ラ艦内ノ例ニ準ス

第二條 機關學校ニ機械工場ヲ屬シ工業教授ノ用ニ供ス

第三條 機關學校ニ於テ教育スル機關手火夫ヲ機關練習生ト稱ス

第四條 機關練習生ト爲スヘキ機關手ハ左ノ諸項ニ適合ノ者タル可シ

明治二十二年九月 海軍省第三百三十六號

- 第一 年齢三十五年以下ノ者
 - 第二 二等機關手以上ノ者
 - 第三 品行善良ニシテ才幹アリ機關師タルニ堪フ可キ者
 - 第四 卒業後二等機關手ハ四箇年以上一等機關手ハ三箇年以上服役ス可キ者
 - 第五 處刑及賭博犯ノ處分ヲ受ケサル者
 - 第六 試験ニ合格ノ者
- 第五條 機關練習生ト爲スヘキ火夫ハ左ノ諸項ニ適合ノ者タル可シ
- 第一 年齢三十二年以下ノ者
 - 第二 二等火夫以上ノ者
 - 第三 品行善良ニシテ才幹アリ機關手タルニ堪フ可キ者
 - 第四 卒業後二等火夫ハ三箇年一等火夫ハ二箇年以上服役スヘキ者
 - 第五 處刑及賭博犯ノ處分ヲ受ケサル者
 - 第六 試験ニ合格ノ者
- 第六條 練習生ニ採用ス可キ人員ハ海兵團在籍人員ニ應シ毎年鎮守府コトニ之ヲ定ム
- 第七條 練習生採用ノ達アリタルトキハ艦隊校及各艦長ハ第四條第五條中第八項ノ外各項ニ適合スル者ヲ選拔シ其官職姓名ヲ機關學校長ニ通牒ス可シ
- 第八條 機關學校長前條ノ移擧ヲ得タルトキハ試験問題ヲ作り艦隊校及艦長ニ送付ス各長ハ試験ヲ行ヒ其答書ヲ機關學校長ニ送付ス可シ
- 試験ハ總テ筆記ヲ以テ應答セシム
- 第九條 機關手ノ試験科目ハ火夫練習生課程ニ依リ火夫ノ試験科目ハ五等火夫課程ニ依ル

- 第十條 機關學校長ハ各鎮守府コトニ合格者ヲ區別シ成績ノ順序ヲ以テ官職姓名ヲ記列シ入校期日ヲ定メ横須賀軍港司令官ヲ經由シテ横須賀鎮守府司令長官ニ送達ス可シ
- 第十一條 横須賀鎮守府司令長官前條ノ送達書ヲ受ケタルトキハ他鎮守府ニ屬スルモノヲ各共司令長官ニ送付スヘシ
- 鎮守府司令長官ハ合格者ニ就キ取捨ヲ加ヘ所定ノ人員ニ應シ練習生ヲ命シ艦隊校及各艦長ニ通達シ期日以内ニ入校セシム可シ
- 第十二條 練習生卒業試験ニ及第シタルトキハ機關手ニハ機關師適任證書火夫ニハ機關手適任證書ヲ授與ス
- 適任證書ハ試験ノ成績ニ依リ各一等及二等トス
- 第十三條 合格者ノ數所要ノ人員ニ超過スルトキハ試験成績ノ順序ニ依リ成績同シキ者ハ等級ノ順序ニ依リ練習生ヲ命ス可シ
- 合格者中機關手適任證書ヲ有スル者アルトキハ前項ノ順序ニ拘ハラズ練習生ヲ命ス可シ
- 第十四條 練習生ノ數則ハ別ニ之ヲ定ム
- 第十五條 大試験若クハ其再試験ニ落第シタル練習生及學科履行中怠慢又ハ不行狀ニシテ卒業ノ目途ナキ者アルトキハ機關學校長之ヲ鎮守府司令長官ニ
- 本條ニ關スルモノハ具申スヘシ
- 鎮守府司令長官前項ノ具申ヲ受ケタルトキハ調査ノ上練習生ヲ免ス可シ
- 第十六條 校長ハ練習生ノ教育ニ關シ陸隊ヲ要スルコトアルトキハ教官及部長ヲ會同シ會議ヲ開キ校長議長トナリ審議決定ス可シ
- 第十七條 校長ハ試験成績表ヲ製シ之ニ意見ヲ附シ軍港司令官ニ出ス可シ
- 第十八條 先任教官ハ校長ヲ補任シ校長ノ命令ヲ執行シ校内ノ定則ヲ維持シ校務ヲ整理ス又校長

(別表)

武藏定員表

官名	職名	人員	官名	職名	人員
大佐	艦長	一	上等兵曹	砲長	二
大尉	副艦長	一	砲長	砲長	二
少尉	航海士	一	砲長	砲長	二
少尉	分隊長	三	砲長	砲長	二
大機關士	機關長	二	砲長	砲長	二
少機關士	機關士	三	砲長	砲長	二
大軍醫	軍醫長	一	砲長	砲長	二
少軍醫	軍醫	一	砲長	砲長	二
一等看護手	看護手	一	砲長	砲長	二
二等看護手	看護手	一	砲長	砲長	二
三等看護手	看護手	一	砲長	砲長	二
一等水兵	水兵	十五	砲長	砲長	二
二等水兵	水兵	四十五	砲長	砲長	二
三等水兵	水兵	七十一	砲長	砲長	二
一等水兵(信銃)	水兵	一	砲長	砲長	二
二等水兵(信銃)	水兵	一	砲長	砲長	二
三等水兵(信銃)	水兵	二	砲長	砲長	二
一等水工	水工	三	砲長	砲長	二
二等水工	水工	一	砲長	砲長	二
三等水工	水工	一	砲長	砲長	二
一等火夫	火夫	六	砲長	砲長	二
二等火夫	火夫	三	砲長	砲長	二
三等火夫	火夫	一	砲長	砲長	二
一等看護夫	看護夫	一	砲長	砲長	二
二等看護夫	看護夫	一	砲長	砲長	二
三等看護夫	看護夫	一	砲長	砲長	二
合計		三百	合計		八

○海軍省違第三百四十九號

下士卒進級條例第十五條第一項ノ次及第二十條ニ但書ヲ加フルコト左ノ如シ

明治二十二年九月十三日

海軍大臣伯爵西郷從道

第十五條第一項ノ但書

但諸練習生タル下士ハ本籍海兵團ノ候補名簿ニ編入スヘシ

第二十條ノ但書

但諸練習生タル卒ノ進級ハ本籍海兵團長之ヲ行フヘシ

○海軍省違第三百五十號

海軍准士官下士増俸規則第五條ニ左ノ但書ヲ加フ

明治二十二年九月十三日

海軍大臣伯爵西郷從道

但練習生タル下士ノ増俸ハ本籍海兵團ノ屬スル鎮守府司令長官之ヲ專行スヘシ

○海軍省違第三百五十一號

上等技工ニ海軍々人手當金規則第四條ニ依リ手當金ヲ給スルニハ本省ヨリ辭令書ヲ下付ス技工ニ

同條ニ依リ手當金ヲ給スルニハ造船部兵器部ニ在テハ鎮守府ヨリ辭令書ヲ下付シ其他ニ在テハ本

省ヨリ辭令書ヲ下付ス工夫ニ同條ニ依リ手當金ヲ給スルハ部廠所長之ヲ專行スヘシ

明治二十二年九月十三日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省違第三百五十二號

海門定員別表ノ通改定ス

明治二十二年九月十三日

海軍大臣伯爵西郷從道

考	少佐	大尉	少尉	大尉關士	少尉關士	大尉醫	少尉醫	大主計	少主計	備
	航海長	航海長	航海士	機關長	機關士	軍醫長	軍醫長	主計長	主計長	總務ノ爲メ五等水兵ヲ乗艦セシムルトキハ一等水兵五名二等水兵十八名三等水兵十八名四等水兵三十三名 トス 總務ノ爲メ五等水兵ヲ乗艦セシムルトキハ一等水兵一名二等水兵三名三等水兵四名四等水兵六名五等水兵六十三名 水兵借附一名一等水兵一名二等水兵四名三等水兵七名四等水兵七名五等水兵十四名
	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
	三	三	三	三	三	三	三	三	三	
	四	四	四	四	四	四	四	四	四	
	五	五	五	五	五	五	五	五	五	
	六	六	六	六	六	六	六	六	六	
	七	七	七	七	七	七	七	七	七	
	八	八	八	八	八	八	八	八	八	
	九	九	九	九	九	九	九	九	九	
	十	十	十	十	十	十	十	十	十	
	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	
	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	
	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	
	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	
	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	
	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	
	十七	十七	十七	十七	十七	十七	十七	十七	十七	
	十八	十八	十八	十八	十八	十八	十八	十八	十八	
	十九	十九	十九	十九	十九	十九	十九	十九	十九	
	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	
	二十一	二十一	二十一	二十一	二十一	二十一	二十一	二十一	二十一	
	二十二	二十二	二十二	二十二	二十二	二十二	二十二	二十二	二十二	
	二十三	二十三	二十三	二十三	二十三	二十三	二十三	二十三	二十三	
	二十四	二十四	二十四	二十四	二十四	二十四	二十四	二十四	二十四	
	二十五	二十五	二十五	二十五	二十五	二十五	二十五	二十五	二十五	
	二十六	二十六	二十六	二十六	二十六	二十六	二十六	二十六	二十六	
	二十七	二十七	二十七	二十七	二十七	二十七	二十七	二十七	二十七	
	二十八	二十八	二十八	二十八	二十八	二十八	二十八	二十八	二十八	
	二十九	二十九	二十九	二十九	二十九	二十九	二十九	二十九	二十九	
	三十	三十	三十	三十	三十	三十	三十	三十	三十	
	三十一	三十一	三十一	三十一	三十一	三十一	三十一	三十一	三十一	
	三十二	三十二	三十二	三十二	三十二	三十二	三十二	三十二	三十二	
	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	
	三十四	三十四	三十四	三十四	三十四	三十四	三十四	三十四	三十四	
	三十五	三十五	三十五	三十五	三十五	三十五	三十五	三十五	三十五	
	三十六	三十六	三十六	三十六	三十六	三十六	三十六	三十六	三十六	
	三十七	三十七	三十七	三十七	三十七	三十七	三十七	三十七	三十七	
	三十八	三十八	三十八	三十八	三十八	三十八	三十八	三十八	三十八	
	三十九	三十九	三十九	三十九	三十九	三十九	三十九	三十九	三十九	
	四十	四十	四十	四十	四十	四十	四十	四十	四十	
	四十一	四十一	四十一	四十一	四十一	四十一	四十一	四十一	四十一	
	四十二	四十二	四十二	四十二	四十二	四十二	四十二	四十二	四十二	
	四十三	四十三	四十三	四十三	四十三	四十三	四十三	四十三	四十三	
	四十四	四十四	四十四	四十四	四十四	四十四	四十四	四十四	四十四	
	四十五	四十五	四十五	四十五	四十五	四十五	四十五	四十五	四十五	
	四十六	四十六	四十六	四十六	四十六	四十六	四十六	四十六	四十六	
	四十七	四十七	四十七	四十七	四十七	四十七	四十七	四十七	四十七	
	四十八	四十八	四十八	四十八	四十八	四十八	四十八	四十八	四十八	
	四十九	四十九	四十九	四十九	四十九	四十九	四十九	四十九	四十九	
	五十	五十	五十	五十	五十	五十	五十	五十	五十	

○海軍省第三百五十六號

横須賀與佐世保三鎮守府定員表中倉庫主管ノ下ノ「一等主帳」ト改メ備考中「主帳」ノ上
ニ「上等主帳」ノ四字ヲ加フ

明治二十二年九月十六日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省第三百五十七號

横須賀鎮守府定員表中知港事ノ下ノ兵曹主帳ノ欄ヲ左ノ通改正シ其下ニ左ノ通一欄ヲ加ヘ造船部
長ノ下ノ主帳ノ欄主計部工費課長衣糧課長及病院課長ノ下ノ主帳ノ欄ヲ左ノ通改正シ工費課ノ下
ノ筆生十三ヲ十三ト改メ備考ノ欄中「知港事」ノ下ニ木表ノ外所屬船艇乗員ヲ置クノ十九字ヲ刪除ス
明治二十二年九月十六日

海軍大臣伯爵西郷從道

造船部長ノ下ノ欄

一等兵曹	二	一等水兵	二十四
二等兵曹	二	二等水兵	三十一
三等兵曹	一	三等水兵	六
一等主帳	一	一等火夫	九
二等主帳	一	二等火夫	八
三等主帳	一	三等火夫	六

主計部工費課長ノ下ノ欄

一等主帳	一
二等主帳	三
三等主帳	三

大佐	少佐	大尉	大軍醫	少軍醫	大主計	少主計	備考
長	副長	官	軍醫長	軍醫	主計長	主計	一、前衛隊員二百二十名ヲ定ム
一	一	三	一	一	一	一	
一等兵	二等兵	三等兵	一等看護手	二等看護手	三等看護手	四等看護手	
一	一	一	一	一	一	一	
二	三	四	一	一	一	一	
八	十五	一	二	三	六	九	

○陸軍部第百三十五號
入病院患者及囚人へ支給スヘキ糶米ノ内へ雜穀混用スルコトヲ得

但木文施行ニ依リ其定置ヨリ生スル殘米代ハ患者ニ限リ各隊同僚附料ニ組入ルヘシ
明治二十二年九月十七日
陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍部第百三十六號
工兵操典第二版測地ノ部卷十別冊ノ通改定セラル (別冊略ス)
明治二十二年九月十七日
陸軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省第百六十號
迅鯨定員別表ノ通改定ス
明治二十二年九月十七日
海軍大臣伯爵西郷從道

大佐	少佐	大尉	大軍醫	少軍醫	大主計	少主計
長	副長	官	軍醫長	軍醫	主計長	主計
一	一	三	一	一	一	一
一等水兵	二等水兵	三等水兵	一等看護手	二等看護手	三等看護手	四等看護手
七	十二	二十七	一	一	一	一
四	十	九	一	一	一	一

本年三連第六十號下士卒履歷表取扱方第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

明治二十二年九月二十日

一新履歷表ニ事項ヲ記入シタルトキ等級及進級、善行章、行狀等級、乘船入營、退艦退營ノ件ハ艦隊及各廳長ノ捺印ヲ受テ其他ハ記入者捺印スヘシ

○海軍省令第三百六十九號

自今下士卒ノ入籍番號ハ左ノ例ニ依リ第一號ヨリ順次付與スヘシ

明治二十二年九月二十日

海軍大臣伯爵西郷從道

横須賀鎮守府海兵團入籍

〔徵兵 志願兵 横濱何號 吳鎮守府海兵團入籍 〔徵兵 志願兵 吳何號 佐世保鎮守府海兵團入籍 〔徵兵 志願兵 佐世保何號

○海軍省令第三百七十號

下士以下ニ轉勤ヲ命シ或ハ退院若シハ滿期放免等ニテ歸郷セシムルトキハ出發セシムル際ニ於テ行路ヲ指定シ其旨ヲ其者到着メハハ驛ニ通知スヘシ

明治二十二年九月二十日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省令第三百七十一號

海軍工場定時間外服業者及潜水者加給規則第一條規定時間外服業者ノ部自午後十時至午前四時ノ欄ノ次ニ左ノ一欄ヲ加フ

明治二十二年九月二十日

海軍大臣伯爵西郷從道

自停業時刻至始業時刻 〔下ノ欄ニ加フ 同三十分ノ一

○海軍省令第三百七十二號

海軍通常物品會計規程第一條第五項ノ次ニ左ノ三項ヲ加ヘ第七條表中鎮守府ノ内ニ主計部材料課長ノ次ニ主計部工費課長ヲ加ヘ倉庫主管ノ次ニ主計部工費課員ノ中ノ九字ヲ加フ

明治二十二年九月二十日

海軍大臣伯爵西郷從道

六、營業費中作場費ヲ以テ購買セル器具物品

七、營業費中器械費ヲ以テ購買セル器械器具物品

八、營業費中建築費ヲ以テ購買セル材料物品

○陸軍省令第三百七十七號

陸軍給與概則第二章並第五表中左ノ通追加ス

明治二十二年九月二十一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

第二章第三十四條諸生徒ノ上ニ衛生部士官候補生及ノ九字同「手」ヲ下ニ衛生部士官候補生ハ毎月十六日ニ又諸生徒ハノ二十字ヲ加ヘ其但書中「官物毀損ノ時」ノ下ニ衛生部士官候補生ノ八字ヲ加フ

第五表中「修校所生徒」ノ次ニ衛生部士官候補生一箇月 四圓ノ盡ヲ加ヘ備考「電信接生生徒」ノ上ニ衛生部士官候補生及ノ九字ヲ加フ

○海軍省令第三百七十三號

滿洲定員別表ノ通改定ス

明治二十二年九月二十一日

海軍大臣伯爵西郷從道

(別表)

用度品
消耗品及筆紙墨

食品

飼養品

被服品

工場備用品

製作品

製作物ノ原料及建築用材料

治療器械調劑器械及治療用消耗品藥物

第四條 前條ノ官備備用品トハ机椅子箆筒標本等其他總テ官備ノ器具器械書籍ノ類ヲ云
自ノ專用ニ係ラサル用便上ノ物品即鍋釜土瓶其他掃除具等ノ類ヲ云ヒ消耗品トハ薪炭燈油其他
總テ消耗スヘキ性質ノ物ヲ云ヒ筆紙墨トハ其名稱ノ物品及帳簿等ノ類ヲ云ヒ食品トハ米麥鹽糖
ノ類ヲ云ヒ飼養品トハ馬匹ノ飼養ニ要スル糶秣等ヲ云ヒ被服品トハ大小被服及器具履具ノ類ヲ
云ヒ製作品トハ生産物即製絨所ニ於ケル絨砲兵工廠ニ於ケル物品(兵器附屬ヲ除ク)ノ類ヲ云ヒ
工場備用品トハ製絨所砲兵工廠等ノ如ク物品製造又ハ活版事業ノ爲メニ要スル器具器械ノ類ヲ
云ヒ製作物ノ原料トハ製砲製絨等ノ爲メニ要スル地鐵又ハ羊毛ノ類ヲ云ヒ建築用材料トハ建築
ノ爲メニ要スル總テノ木材及各種ノ石材等ヲ云ヒ治療器械トハ患者ノ治療ニ要スル器械ヲ云ヒ
調劑器械トハ製藥調劑ニ要スル器械ヲ云ヒ治療用消耗品トハ患者ノ治療ニ要スル器械ヲ云ヒ
スルモノヲ云ヒ藥物トハ藥品及ヒ滋養品試驗藥消毒藥ヲ云フ

第五條 官備備用品ノ種類數ハ附錄表面ノ如クタルヘシ但該表面外ノ物品備附又ハ官吏ノ執務

上特別ニ物品ノ交付ヲ要スルトキハ其理由ヲ具シ順序ヲ經テ陸軍大臣ニ申請認可ヲ受クヘシ

第六條 物品ノ管理ハ陸軍省ニアリテハ會計局長各官廳ニアリテハ該長官共責ニ任ス

第七條 物品會計官吏ハ物品ノ保管及其出納ヲ明瞭ナラシメンカ爲メ左ノ事項ヲ備ヘ出納ノ事由

ヲ確實ニ記載スヘシ

物品保管簿

物品出納簿

第八條 千住製絨所及砲兵工廠附屬經理部ノ如キ作業又ハ建築上ニ要スル原料及消耗品等ノ出納

ニ付キテハ特ニ帳簿ヲ設ケテ其出納ヲ明瞭ナラシム可シ

第九條 物品保管簿ニハ部局ノ名稱品目價值等ノ區畫ヲ設ケ備品及被服品保管ノ實況ヲ明瞭ニ

スヘシ

物品出納簿ニハ買入生産消耗ノ失毀損消費賣却等及是等ニ對スル價值竝ニ其出納年月日等

ノ區畫ヲ設ケテ其出納ノ實況ヲ明瞭ニスヘシ

第十條 總テ物品出納ノ命令ハ陸軍省ニアリテハ會計局長各官廳ニアリテハ該長官之レヲ執行ス

ルモノトス但長官ノ意見ヲ以テ分任命官ヲ設クルモ妨ケナレ

第十一條 物品ノ保管及其出納ヲ掌ラレムル爲メ陸軍省ニアリテハ會計局長各官廳ニアリテハ該

長官物品會計官吏ヲ定メ物品ノ保管及其出納ノ責ニ任ス可シ尤モ物品會計官吏ト爲リタル者ノ

官氏名ハ當該長官ヨリ順序ヲ經テ陸軍大臣ニ報告スヘシ但各官廳ニアリテハ尙ホ當該監督部長

ニ通報スヘシ

第十二條 陸軍省會計局長及各官廳ノ長官ハ毎年度間ニ買入生産及官備ノ所有ニ歸シタル物品

又消耗賣却亡失毀損生産上ノ消費其他離離シタル物品ノ數量價格ヲ記シタル報告書ヲ調製シ
年度後三箇月以内ニ之ヲ陸軍大臣ニ差出スヘシ但一般ノ會計規則ニ據ルモノト特別ノ會計規則
ニ據ルモノトヲ區分スヘシ

第十三條 陸軍大臣ハ前條ノ報告書ヲ會計局長ニ下シ大藏省ヘ送付スヘキ報告書ヲ調製セシムヘ
シ

第十四條 物品會計官吏ハ物品會計規則第十五條ニ依リ物品出納ノ計算書ヲ製シ年度後三箇月以
内ニ陸軍省ニアリテハ會計局長各官廳ニアリテハ該長官ニ差出スヘシ

前項計算書ニハ會計局長ハ該局各課ノ中ニ下付シ各官廳ニアリテハ所管監督部ニ移スヘ
シ但千住製鐵所ニアリテハ會計局長ニ致スヘシ

會計局長ハ所管監督部長ハ計算書ヲ検査シ正確タルヲ認ムルトキハ下検査書ヲ作り
計算書ニ添付シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第十五條 陸軍省各官廳ニ於テ所要物品ノ中職員各自ニ專用スルモノハ當該省自ラ之ヲ監守シ又
各官廳内ニ於テ共用ニ係ルモノハ當該部局長其狀況ニ應シ一名若クハ二名便宜其監守者ヲ定ム
ヘシ但省中公用ノ各室ニ備置ク物品ハ會計局長ノ所管トシテ會計局長特ニ其監守者ヲ定ムヘシ

官倉備付品ノ監守ハ祕書官其責ニ任スヘシ

第十六條 各官廳中供用ノ物品モ亦前條ニ準シ當該長官其監守者ヲ定ムヘシ

第十七條 總テ所要物品ノ購入及賣却ハ陸軍省ニアリテハ會計局長各官廳ニアリテハ該長官物品
會計官吏ニ命ジテ其事ヲ取扱ハシムヘシ尤モ各官廳ニアリテハ賣却品アルトキハ先ツ所管監督
部長ノ検査ヲ受クヘシ但別ニ定メアルモノハ此限ニアラス

第十八條 總テ消耗品ハ陸軍省並各官廳ニ於テ該年度間ニ必用ノ數量ヲ買辦スヘキハ勿論ト雖モ

若シ各月中ノ消耗品ニ殘餘ヲ生スルトキハ之ヲ後月ニ又年度末ノ殘餘ハ翌年度ニ繰リ入ルヘシ
但翌年度ニ繰越ス殘數及其殘數ヲ生シタル理由ヲ會計局長又ハ各官廳長ヨリ順序ヲ經テ陸軍大
臣ニ報告スヘシ各官廳ノ長官ハ大臣ニ報告スルノ以前所管監督部長ニ通牒シ部長其意見ヲ開陳
スルモノトス

特別會計ニ屬スル物品ハ前項ノ限リニアラス

第十九條 總テ物品出納ニ就テハ傳票ヲ以テ證據トナスヘシ

第二十條 陸軍省各官廳ニ於テ物品ノ支給ヲ要スルトキハ其品目員數ヲ傳票ニ記入シ當該部局長
ノ檢印ヲ受ク之ヲ會計局長ニ移スヘシ會計局長ニアリテハ調査ノ上支給ノ命令ヲ執行スヘシ但各官
廳ニアリテハ該長官適宜支給順序ヲ定ムヘシ

臨時ノ支給ヲ要スルモノハ其必要ノ理由ヲ需用傳票ニ記入スヘシ

第二十一條 陸軍省各官廳ニ於テ物品ノ交換ヲ要スル時ハ其理由ヲ記シタル傳票ヲ其部局長ヨリ
會計局長ニ移スヘシ

會計局長ニアリテハ前項ノ移牒ニ依リ物品會計官吏ニ命ジテ交換ノ扱ヲナサシムヘシ亦各官廳ニ
於テモ之ニ準シ適宜交換ノ手順ヲ立ツヘシ

總テ物品ハ他ノ物品ト直ニ交換スルコトヲ得ス

第二十二條 陸軍省各官廳ニ於テ不用ニ屬スル物品アルトキハ還納傳票ニ其員數ヲ記シ會計局長
之ヲ返付スヘシ該局長ニ於テ之ヲ審査シ爾後使用ニ堪ムヘキモノハ返納品トシテ保管シ其使用ニ
堪ヘサルカ又ハ否ヲサシム向來所要ノ目的ヲ認メタルモノハ賣却スル等適宜其處分ヲナス
ヘシ

各官廳ニ於テ前項ノ事由アルトキハ該長官適宜其處分ヲナスヘシ但賣却ヲ要スルトキハ第十七

條ニ依ルヘシ

第二十三條 總テ物品ノ保管ハ物品會計官吏ノ責任ナルヲ以テ保管上不完全ノ虞アルトキハ其體
重ニ依リ物品會計官吏其責ニ任スヘシ既ニ交付ノ物品ハ該品專用者又ハ監守者前項ノ責ニ任
スヘシ

第二十四條 物品會計官吏ハ陸軍省ニアリテハ會計局長各官廳ニアリテハ該長官ノ命令アルニ
ツツシテ物品ノ出納ヲナスコトヲ得ス

第二十五條 物品會計官吏ハ物品ノ出納アル毎ニ必ス賬簿ニ記載スヘシ

第二十六條 物品會計官吏物品ヲ領收スルトキハ其領收證ヲ納入ニ交付スヘシ

第二十七條 物品會計官吏毎月末帳簿ノ結果ニ依リ物品出納明細表ヲ調製シ當該長官ニ呈シ檢印
ヲ受クヘシ

第二十八條 物品會計官吏ハ其責任ニ屬スル事ニ就テハ躬カラ共身事務ヲ執ラサルヲ理由トシテ
責任ヲ免ルコトヲ得ス但直屬長官ノ命令ヲ以テ特ニ其代理官ヲ定ムタルトキ其代理官ノ所爲ニ
付キテハ代理官其責ニ任ス

第二十九條 物品會計官吏ノ製スヘキ報告表ハ別表様式ニ依ルヘシ

第三十條 物品會計官吏更替ノトキハ該官廳物品出納簿ヲ締切リ新任ノ物品會計官吏又ハ其代理
者ニ引繼クヘシ

第三十一條 物品ノ毀損若クハ紛失アルトキ其毀損紛失ノ原由物品會計官吏又ハ監守者ノ過誤意
情ニ歸スルトキハ其修理又ハ代品ノ辨償ヲ當該者ニ命スヘシ但其毀損ノ原由等ハ其事柄ノ輕重
ニ依リ當該長官委員ヲ撰シテ之ヲ調査セシムル等便宜ノ方法ヲ用フヘシ

第三十二條 陸軍省各官廳及各官廳ニ於テ物品ヲ紛失スルトキハ直ニ其越テ順序ヲ經テ陸軍大臣
ニ報告スヘシ但各官廳ニアリテハ尙所管監督部ニ通報スヘシ

ニ報告スヘシ但各官廳ニアリテハ尙所管監督部ニ通報スヘシ

第三十三條 常時出納ヲナサハル倉庫ノ物品ハ毎年一回若クハ物品會計官吏更替ノ際陸軍省ニア
リテハ會計局長各課長ノ中各官廳ニアリテハ當該監督部派員ノ検査ヲ受ケ賬簿ト現在品ト照合
シテ其調書ヲ作ルヘシ

附則

第三十四條 本規程ハ明治二十二年十月一日ヨリ施行ス

第三十五條 本規程施行ノ前日即明治二十二年九月三十日ニ於テ現在スル物品ノ種類員數ヲ取調
順序ヲ經テ陸軍大臣ニ報告スヘシ但各官廳ニアリテハ尙所管監督部ニ通報スヘシ

(附錄物品先數表及物品保管及出納二種略ス)

○陸軍第三百二十九號

陸軍工兵監護員有之補充候ニ付該條例並ニ左ノ規格ニ依リ採用候補各所管ニ於テ右志願者取調
其人來ル十一月十日迄ニ工兵局長ハ回送スヘシ

但補充條例停年ヲ算スルハ本年七月一日ヨリ以テス且検査ハ來ル二十三年二月施行ス

明治二十二年九月二十七日

陸軍大臣 伯耆 大山 巖

明治二十三年工兵監護志願者検査規格

種別	檢査ノ志願者ノ各所管ニ於テ長官又ハ次官ノ監視ヲ以テ之ヲ行フ○問題ハ工兵局長ヨリ密封シ テ檢メ各所管ノ長官ニ送附ス○檢査ノ時日ハ各地共ニ同一ナルヲ要ス故ニ工兵局長ヨリ檢メ之
學問	學問ノ建築及軍家屋敷ニ造家法
算術	算術 代數學 平面幾何學 平面三角學
圖	圖 建築圖

ヲ指定シ各志願者ニ於テハ其當日問題ヲ開封シテ之ヲ志願者ニ與ヘテ
記シテ答解セシム其時間ハ各問題中ニ示ス○各所管ニ於テハ檢査官ハ其
ノ指シテ點數ハ附スルニ及ハス

○陸軍部第四十號

屯田兵士官下士補充細則別冊ノ通定

明治二十二年九月二十七日

陸軍大臣伯耆大山 巖

屯田兵士官下士補充細則

第一章 士官ノ補充

札幌農學校生徒ヲ以テスル補充

第一條 札幌農學校生徒ヲ以テ屯田兵科士官ノ補充ヲ爲スニハ札幌農學校兵學科學生卒業ノ者ヲ
撰拔シ之ニ屯田兵見習士官ヲ命シ屯田兵隊ニ配賦シ六箇月以上士官ノ勤務ヲ習得セシメ將校會
議ニ於テ可決シタル者ヲ以テス

第二條 札幌農學校兵學科學生ノ人員ヲ定ムルハ毎年屯田兵司令官札幌農學校長協同ノ上陸軍大
臣ノ認可ヲ受ク

第三條 札幌農學校兵學科學生ヲ撰定スルトキハ屯田兵司令官札幌農學校長ニ照會シ志願者ノ性
質品行學術等ニ係ル詳細ノ證明書ヲ受領シ審査ノ上其採否ヲ定メ然ル後醫官ヲシテ志願兵身
體檢査規則ニ依リ採用シ得ヘキ志願者ノ體格ヲ檢査セシメ其格ニ合スル者ハ合格人名書ヲ作リ
之ヲ札幌農學校長ニ移ス

第四條 前條ノ場合ニ在テ左ニ掲グルモノハ撰定スルコトヲ得ス
一年齡十八年來滿二十三年以上ノ者
ニ妻アル者

三身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者
四禁錮ノ刑ニ處セラレタル者

第五條 札幌農學校長ヨリ該校兵學科學生ノ教育上ニ統キ屯田兵司令官協同ヲ受クルトキハ之ニ
意見ヲ附シ陸軍大臣ノ認可ヲ得テ之ヲ回答スヘシ

第六條 札幌農學校兵學科學生ノ起居其他ノ取扱ハ札幌農學校ノ規定ニ從フハ勿論ナリト雖モ屯
田兵隊ニ於テ下士兵卒ノ勤務ヲ見習ハシムルトキハ陸軍一定ノ規則ニ服セシム

第七條 札幌農學校兵學科學生卒業ノ上屯田兵見習士官トナスニハ試驗委員ヲシテ試驗ヲ行ハシ
ム之ヲ將校試驗ト云フ

將校試驗委員ハ屯田兵佐官一名大尉三名中少尉三名ヲ以テ組織ス

第八條 將校試驗終レハ試驗委員ハ其成績ヲ屯田兵司令官ニ上申シ司令官ハ之ヲ陸軍大臣ニ進達
ス

第九條 陸軍大臣ハ前條試驗ノ成績ニ依リ見習士官ト爲スヘキモノヲ裁定シ屯田兵司令官ヲシテ
之ニ見習士官ヲ命セシメ直ニ之ヲ各大隊ニ配賦セシム

第十條 見習士官ヲ各隊ニ配賦スルニハ左ノ二項ヲ願慮スヘシ
一各隊ノ必要

二學術優等ノモノヲ各隊ニ平等ニ配賦スルコト

第十一條 見習士官ハ志願兵トシテ入隊ノ日ヨリ兵籍ニ編入シ陸軍一定ノ規則ニ依リ服役セシム
故ニ之ヲ命スルノ日決シテ他志ナク陸軍ニ從事スルノ誓約ヲナサシメ且證書ヲ差出サシム

第十二條 見習士官ハ大隊中ノ某中隊ニ在テ士官ノ勤務ヲ習得セシム而シテ其位置ハ曹長ノ上位
ニシテ大隊ノ定員外トス

第十三條 見習士官ノ教育ハ大隊長自ラ其責ニ任シ殊ニ諸種ノ演習等精密且ツ著實ニ實施セリテ以テ其學力ヲ實際ニ應用進歩セシムルコトヲ務ムヘシ

第十四條 見習士官ノ被服其他ノ諸給與ハ屯田兵曹長同様ニシテ官給トシ尙ホ若干ノ手當金ヲ増給ス但刀、刀緒、刀帶、背囊、脚絆等ハ士官ト同一ノモノヲ給ス

第十五條 見習士官ハ外宿ニ在テ日々出務セシムルヲ要ス

第十六條 見習士官ニシテ左ニ掲グル事項ニ該ル者アルトキハ大隊長其事由ヲ悉シテ屯田兵司令官ニ上申シ屯田兵司令官ハ狀ヲ具シ陸軍大臣ニ進達ス陸軍大臣ハ之ヲ裁定シ屯田兵司令官ヲシテ其處分ヲ爲サシム

一 品行不正ニシテ軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者

二 將校タルノ才能ニ乏キ者

三 上官ヨリ認メラレテ見習士官タルヲ得ヘカラサル者

四 傷痍疾病ニ依リ永久服役ニ堪ヘサル者

五 本細則第十九條ノ第三項ニ該當スル者

第十七條 見習士官ヲ將校ニ擢擧スルハ大隊長先ツ中隊長ヨリ木八ノ教育完全ニシテ將校タルヲ得ヘキ保證書ヲ得尙ホ大隊長亦自ラ是認シタル後始メテ大隊ノ將校會議ニ附ス

第十八條 將校會議ハ見習士官ヲ將校トナスノ可否ヲ議決スル所トス故ニ各將校ハ可否ノ答ヲ自ラ撰報報告書ニ記入シ自己ノ姓名ヲ署スヘシ

第十九條 將校會議ニ於テ將校ノ答皆可ナル者ハ大隊長其撰報報告書ヲ添ヘ少尉ノ資格ヲ備フル

コトヲ屯田兵司令官ニ上申シ司令官ハ之ヲ陸軍大臣ニ進達ス

若シ可答多數ナルモ幾分ノ否答アル者ハ其理由ヲ撰報報告書ニ記入シテ上申スルコト前項ニ同シ

之ニ反シ否答多數ナル者ハ否決ノ報告書ヲ上申ス但其手續ハ本細則第十六條ニ據ル

各兵科士官ヲ以テスル補充

第二十條 各兵科現役士官ヲ以テ屯田兵科士官ノ補充ヲ要スル時ハ屯田兵司令官ヨリ補充ノコトヲ陸軍大臣ニ上申スヘシ

第二十一條 各兵科士官ヨリ轉科セシ士官ハ一中隊ニ二名迄ヲ限リトス

第二章 下士ノ補充

屯田兵上等兵ヲ以テスル補充

第二十二條 屯田兵上等兵ヲ以テ屯田兵下士ノ補充ヲナスニハ屯田兵上等兵ニシテ入隊ノ日ヨリ起算シ二箇年以上其職ヲ奉シ屯田兵下士タルノ技能ヲ備フル者ヲ以テス

第二十三條 中隊長ハ部下上等兵ノ内前條ノ資格ヲ備フル者ヲ撰抜シ其技能ノ優劣ニヨリ順序ヲ定メ下士候補名簿ヲ製シ毎年五月一日迄ニ大隊長ニ呈スヘシ

第二十四條 大隊長ハ更ニ各中隊ノ下士候補者ノ技能ヲ檢閲シ意見アレハ之ヲ取捨シ其候補名簿ヲ屯田兵司令官ニ呈スヘシ

第二十五條 屯田兵司令官ハ候補名簿ヲ審査シ陸軍大臣ノ裁決ヲ經テ所要ノ時屯田兵二等軍曹ニ任ス故ニ大隊長ハ中隊ニ缺員アル毎ニ補充ノコトヲ上申スヘシ

第二十六條 下士候補者ヲ以テ缺員ヲ補フニハ同中隊ニ於テスルヲ例トス若シ同中隊ニ候補者ナキ時ハ他ノ中隊ヨリ之ヲ補充スルコトヲ得但シ他ノ中隊ヨリ補充スルハ其子弟ヲシテ屯田兵役

ヲ相續セシムルコトヲ得ル者ニ限ル

第二十七條 屯田兵出身ノ下士ニシテ所屬中隊ヲ離レ大隊本部又ハ司令部若クハ監獄附ヲ命スル者亦前條ニ同シ

各兵科下士ヲ以テスル補充

第二十八條 各兵科現役下士ヲ以テ屯田兵下士ノ補充ヲ要スル時ハ屯田兵司令官ヨリ補充ノコトヲ陸軍大臣ニ上申スヘシ

第二十九條 各兵科下士ヨリ轉科セシ下士ハ一中隊ニ五名迄ヲ限リトス
證書々式 用紙紙
白紙

證書

某 儀

此度屯田兵見習士官被命候就テハ御規則嚴重ニ相守リ誓テ陸軍ニ從事仕可ハ勿論勅務中軍紀ヲ紊リ若クハ法則ヲ犯シ又ハ品行不正等ニシテ屯田兵見習士官ヲ免セラレ候節ハ其受命ノ日ヨリ三十日以内ニ官給費用一切木入又ハ身元保證人ニテ辨償可仕其他身上ノ儀ハ何事ニ依ラス身元保證人ニ於テ引受可申依テ保證人連署證書如斯候也

年 號 月 日

職地

何府(縣)藩(士)族(平民)月主ニ非サレハ稚子弟等
水 人 姓 名 印

何府(縣)藩(士)族(平民)
身元保證人 姓 名 印

何年九月何日何箇月

屯田兵司令官姓名殿

○陸軍第四百一十一號

屯田兵下士兵卒服役細則別冊ノ通定

明治二十二年九月二十七日

陸軍大臣伯爵大山 巖

屯田兵下士兵卒服役細則

下士ノ服役

第一條 屯田兵下士服役滿期ニ至ルト雖モ戰時又ハ時變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習觀兵ノ舉

アルトキ若クハ航海中若クハ外國駐劄中ハ其期限ヲ延ハスコトアルヘシ

第二條 屯田兵出身ノ者傷痍疾病ニ依リ服役ニ堪ヘ難キ者ハ服役ヲ免ス

第三條 屯田兵出身ノ者ハ本細則第十六條第一項ニ依リ子弟ヲシテ兵役ヲ相續セシムルコトヲ得

第四條 屯田兵出身ノ者免役後ハ其取扱總テ屯田兵卒免役ノ者ニ同シ

第五條 屯田兵出身ノ者死亡若クハ免役後嗣子ナキモノハ本細則第十八條ノ例ニ據ル

第六條 屯田兵出身ノ者ニシテ屯田兵士官下士補充細則第二十六條第二十七條ニ依リ所屬中隊ヲ

離レ他ノ中隊又ハ大隊本部若クハ司令部附等ヲ命スル者ハ服役其他諸給與等總テノ取扱ハ各兵

科下士ヨリ轉科スル者ノ例ニ依ル

第七條 各兵科下士ヨリ轉科セシ者ニシテ永久服役ニ堪ヘ難キモノハ兵役ヲ免ス

第八條 各兵科下士ヨリ轉科セシ者ニシテ現役ニ堪ヘ難キ者ハ現役ヲ免ス

北海道(七族)平民
北海 道 札 幌 區 何 府 何 地

同

姓 名 印

第九條 各兵科下士ヨリ轉科スル者服役中本人ヲ要スルニアラサレハ一家ノ生計ヲ營ミ難キ事故ヲ生スルトキハ本人ノ願ニ依リ現役ヲ免スルコトヲ得

第十條 第八條第九條ニ該ル者アルトキハ前兵科ノ同等官ニ復任シ屯田兵科服役年月ヲ通算シ七箇年ニ滿タサル者ハ豫備役ニ十二箇年ニ滿タサル者ハ後備役ニ服セシム其服役十二箇年ヲ過キタル者ハ之ヲ免除ス

第十一條 各兵科下士ヨリ轉科スル者服役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ逃亡シタル者ハ其刑期中及逃亡中ノ日數ハ服役年期ニ算入セシム

第十二條 各兵科下士ヨリ轉科セシキ者ニテ服役中刑法又ハ懲罰令第十五條ニ依リ官職ヲ失ヒタル者ハ前兵科ニ復シ兵卒トシテ屯田兵科服役年月ヲ通算シ十二箇年ニ滿タサル者ハ其年數ニ從ヒ現役豫備又ハ後備役ニ服セシム其十二箇年ヲ過キタル者ハ之ヲ免除ス

第十三條 本細則第二條第七條第八條第九條ニ當ル者アルトキハ大隊長ヨリ屯田兵司令官ノ認可ヲ請ヒ服役ヲ免ス

第十四條 各兵科下士ヨリ轉科スル者服役滿期ノ後年滿四十歲迄ハ再服役ヲ請願スルコトヲ得

第十五條 前條ノ再服役ハ滿三年ヲ以テ一期トシ其取扱ハ左ノ各項ニ依ル

- 一 再服役ハ自己所屬ノ中隊若クハ所屬大隊本部又ハ司令部ニ於テスルモノトス
- 二 中隊ニ在ル下士ハ中隊長ト再服役ヲ誓約ス但中隊長ハ大隊長ノ認可ヲ請フヘシ
- 三 大隊本部又ハ司令部ニアル下士ハ直屬ノ長官ト再服役ヲ誓約ス
- 四 再服役中轉隊若クハ轉職セシムルコトアルモ從前ノ誓約ハ消滅セシム其誓約書ハ新ニ屬スル所ノ中隊若クハ直屬ノ長官ニ移スヘシ
- 五 再服役中刑法又ハ懲罰令ニ依リ官職ヲ失ヒタル者ハ其誓約消滅ス其取扱ハ本細則第十二條ニ依ル

ノ例ニ依ル
兵卒ノ服役

第十六條 屯田兵卒ハ三十五歲ヲ過キ子弟ノ服役年齡ニ達スルモノアレハ米々四十歲ニ至ラスト雖トモ之ヲシテ兵役ヲ相續セシムルコト出願スルヲ得

止ヲ得サル事故ニ依リ兄弟若クハ養子ニ兵役ヲ相續セシメント欲スル者ハ三十五歲ニ達セスト雖トモ其事由ヲ具シ請願スルコトヲ得

第十七條 服役者傷痍疾病ニ依リ服役ニ堪ヘ難キモノハ服役ヲ免ス其手續ハ本細則第十三條ノ例ニ依ル

第十八條 屯田兵卒死亡若クハ免役後嗣子ナキモノハ服役ニ堪ヘキ養子ヲナスヘシ

○海軍省連第三百七十六號

五等鍛冶五等木工教育規則ヲ廢シ五等木工五等鍛冶教育規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治二十二年九月二十七日 海軍大臣伯爵西郷從道

五等木工五等鍛冶教育規則

第一條 五等木工五等鍛冶ハ海兵團ニ於テ教育スルモノトス

第二條 五等木工五等鍛冶入營スルトキハ分隊ニ編入シ分隊長ヲシテ先ツ軍人ノ木分即チ勸諭ノ大旨ヲ教諭セシメ然ル後教員ヲシテ左ノ事項ヲ教授セシム

- 第一 衣服著裝及姿勢
- 第二 釣床取扱方及衣囊手箱ニ關スル心得
- 第三 武官ノ階級及敬禮式ノ要領
- 第四 營内諸規則

別 科

國書	日本志略	兵要日本地理小誌
算術	四則	分數 階等 小數 比例

第五條 試驗ハ小試験及大試験ノ二種トス

第六條 小試験ハ每期ノ終ニ之ヲ行ヒ大試験ハ全學期ノ終ニ之ヲ行フモノトス

第七條 小試験及大試験ニ於ケル及第點數ハ本科ハ全點十分ノ五以上別科ハ全點十分ノ四以上トス

第八條 大試験成績ハ全科小試験平均ノ得點ト大試験得點トヲ合算シテ之ヲ定ム

第九條 大試験ニ及第シタルトキハ五等木工ハ四等木工ニ五等鍛冶ハ四等鍛冶ニ進級セシム

第十條 大試験ニ落第シタル者ハ若干日間復習セシメ再試験ヲ行フ但再試験ニ落第シタル者ハ復課程ヲ履マシムルコトナシ

第十一條 再試験ニ落第シタル者ハ練習艦ニ員外乗組ヲ命シ實地事業ニ使役シ乗艦ノ日ヨリ二箇月以上ニ至レハ成績ヲ考ヘ四等木工四等鍛冶ニ進級セシム

第十二條 卒業期限内ト雖モ課程ヲ終ヘタル者ハ次期ノ學科ヲ履行セシメ大試験ヲ行フコトヲ得

○海軍省第三百七十七號
海軍造船工學校條例左ノ通定ム

明治二十二年九月二十八日

海軍大臣伯耆西郷從道

海軍造船工學校條例

第一條 海軍造船工學校ニ於テハ造船部造船所ノ工夫ニシテ技工トナルヘキ者ヲ教育ス

第二條 造船工學校ニ於テ教育スル工夫ヲ造船練習生ト稱ス

第三條 練習生ト爲スヘキ工夫ハ左ノ諸項ニ適合ノ者タルヘシ

第一 年齢十七年以上二十五年以下ノ者

第二 品行善良ニシテ才能アリ技工タルニ堪フヘキ者

第三 卒業後六箇年以上服役スヘキ者

第四 處刑及賭博犯ノ處分ヲ受ケサル者

第五 試験ニ合格ノ者

第四條 造船部造船所ノ備職工ニシテ六箇月以上現業ニ服シ第三條第五項ヲ除クノ外他ノ諸項ニ適合スル者ハ練習生ヲ志願セシムルコトヲ得但練習生ト爲ストキハ先ツ海軍工夫ニ採用スルモノトス

第五條 練習生ニ採用スヘキ人員ハ其須要ニ依リ毎年造船部造船所コトニ之ヲ定ム

第六條 練習生ハ理科及文科ニ分テ志願セシム

第七條 練習生採用ノ達アリタルトキハ造船部長造船所長ハ第三條中第五項ヲ除クノ外各項及第四條ニ適スル者ヲ選拔シ其職姓名ヲ横須賀鎮守府造船部長ニ通牒スヘシ

第八條 横須賀鎮守府造船部長前條ノ移牒ヲ得タルトキハ造船工學校長ヲシテ試験問題ヲ作ラシメ各部所長ニ送付ス各部所長ハ試験ヲ行ヒ其答書ヲ造船部長ニ送附スヘシ

第九條 試験ハ總テ筆記ヲ以テ應答セシム

第十條 豫科入學ヲ志願スル者ノ試験ハ讀書算術作文英學ノ四科トス

第十一條 讀書ハ假名交リ文算術ハ四則分數比例作文ハ通俗文英學ハ讀本ヲ程度トス

第十二條 本科ニ入學ヲ志願スル者ノ試験ハ豫科課程ニ依ル

第十三條 横須賀鎮守府造船部長ハ造船工學校長ヲシテ受驗者ノ成績表ヲ作ラシメ各部所コトニ合

年	第四		第五	
	製	應用力學	汽機學	造船學
第四	計測圖	物體抗抵論	船用汽機及機関	艦船、鐵骨木皮船、艦船計畫
第五	計測圖		船用機關ノ計畫	

備考 本科第四年第五年課程中造船學ヲ修ムル者ニハ汽機學ヲ修メシメヌ又汽機學ヲ修ムル者ニハ造船學ヲ修メシメヌ

第十四條 試驗ハ小試験大試験卒業試験ノ三種トス

第十五條 小試験ハ一學期內三箇月コトニ教官之ヲ行ヒ大試験ハ一學期ノ終リニ卒業試験ハ全學期ノ終リニ於テ校長臨席シ教官之ヲ行フ

第十六條 小試験大試験卒業試験ノ點數ハ各科全點數ノ十分ノ五以上ヲ得タル者ヲ及第トス

第十七條 大試験ノ成績ハ全科小試験平均ノ得點ト大試験得點トヲ合算シ之ヲ定メ卒業試験ノ成績ハ全科大試験平均ノ得點ト卒業試験ノ得點トヲ合算シ之ヲ定ム

第十八條 卒業試験ニ及第シタル者ニハ技工適任證書ヲ授與ス

第十九條 適任證書ハ左項ノ一二依リ試験ノ成績ニ應レ一等若クハ二等トス

第一 全點數十分ノ七以上ヲ得タル者ヲ一等トス

第二 全點數十分ノ五以上ヲ得タル者ヲ二等トス

第二十條 卒業試験ニ落第シタル者ハ半年以上一箇年以内尙在校セシメ再試験ヲ行フコトヲ得而シテ及第ノ者ニハ二等適任證書ヲ授與ス

第二十一條 卒業試験若クハ其再試験ニ落第シタル練習生及學科履行中怠慢又ハ品行不正ニシテ

卒業ノ前途ナキ者アルトキハ校長之ヲ横須賀鎮守府造船部長ニ具申スヘシ造船部長ハ其部下ノ者ナルトキハ之ヲ鎮守府司令長官ノ認可ヲ受ケ練習生ヲ免シ他ノ造船部若クハ造船所ヨリ入りタル者ナルトキハ退舍ヲ命シ原籍ノ部所ニ送附シ之ヲ各部所長ニ通報スヘシ各部所長ハ各其長官ノ認可ヲ得テ練習生ヲ免スヘシ

第二十二條 校長ハ校内ノ定則ヲ維持シ校務ヲ整理ス

第二十三條 校長ハ各科ノ教授ヲ整理シ常ニ其得失ヲ考察シ意見アルトキハ之ヲ造船部長ニ具申スヘシ

第二十四條 教官ハ校長ノ命ヲ受ケ教授及試験ノ事ヲ掌理シ練習生ノ軍紀風紀ヲ維持シ志操ヲ養成スルヲ任トス

○海軍省第三百七十八號

横須賀鎮守府海兵團定員表ニ左ノ備考ヲ加フ

明治二十二年九月二十八日 海軍大臣伯爵西鄉從道

備考 新兵ノ數收員一名ニ付二十名ヲ超過スルトキハ新兵十名コトニ一名ノ制ヲ以テ臨時收員ヲ增加スルコトヲ得但新兵減少ノ割合ニ應ジ增加シタル收員ヲ減少スルモノトス

○海軍省第三百七十九號

海軍通常物品會計規程第七條表中鎮守府ノ內參謀長ノ次ニ造船部長ヲ加ヘ女庫主管ノ次ニ製造科長ヲ加ヘ女庫副僚ノ中ノ次ニ米倉庫主管ヲ加ヘ第二十四條物品出納計算書ニハノ下ニ當該物品出納命令官ノ認定アルノ十四字ヲ加フ

明治二十二年九月二十八日 海軍大臣伯爵西鄉從道

○海軍省第三百八十號

海軍中央文庫規則左ノ通定ム

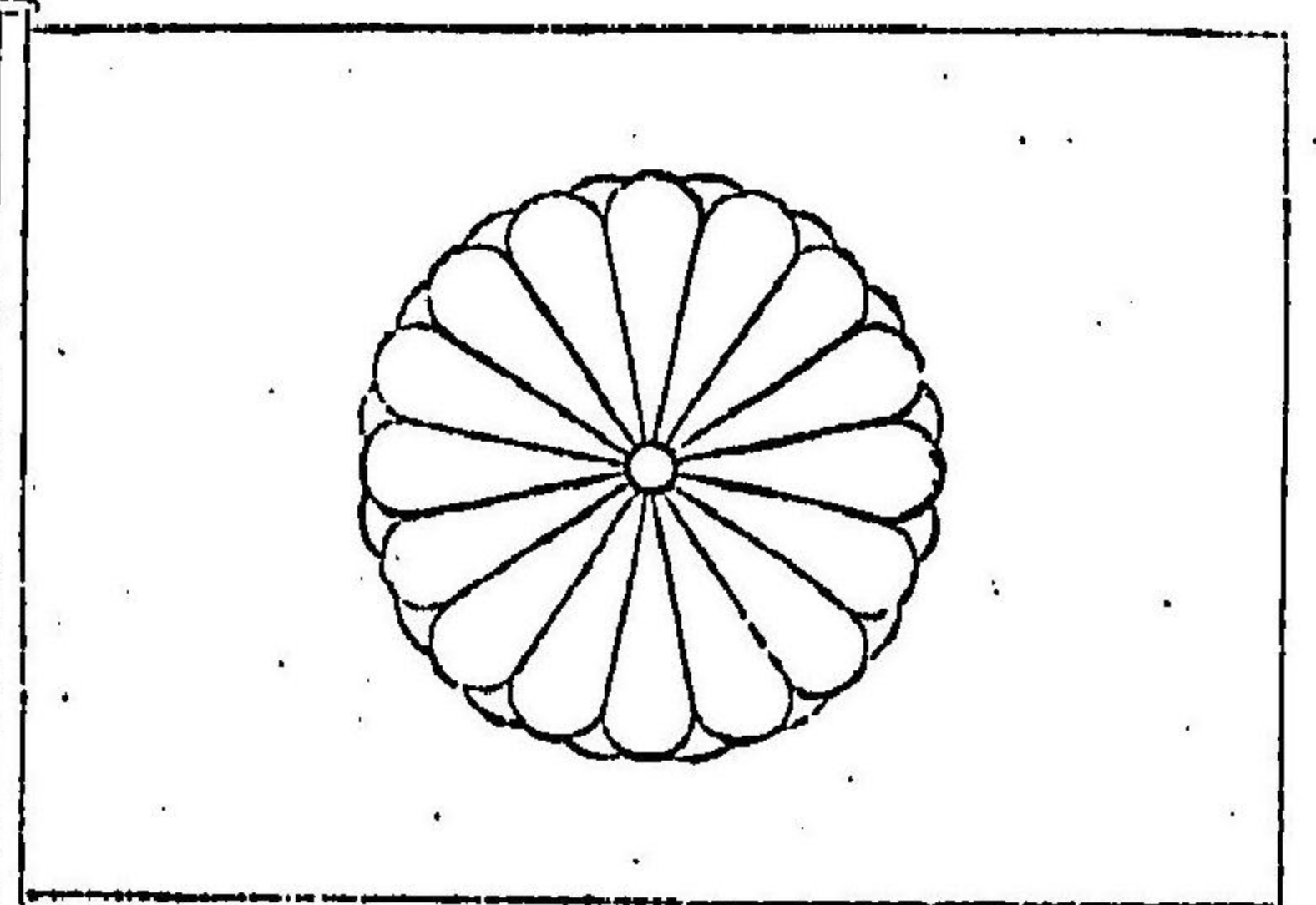
明治二十二年九月二十八日 海軍大臣伯爵西鄉從道

海軍中央文庫規則

- 第一條 海軍中央文庫ハ海軍學術技術ニ關スル圖書其他參考用諸般ノ圖書新聞紙雜誌ヲ收藏シ本庫ニ就キ閱覽セシメ若クハ要求ニ依リ貸出スモノトス
- 第二條 海軍部内ニ於テ書籍ヲ著述編輯若クハ翻譯シタルトキハ必ス其一本ヲ中央文庫ニ納ム可シ
- 第三條 本庫ニ就キ圖書ヲ閱覽セシムルノ規程ハ中央文庫ニ於テ定ムル所ノ圖書總覽所規則ニ依ル可シ
- 第四條 本庫ノ圖書ヲ貸出スニハ左ノ如ク特別及ヒ尋常ノ二種ニ分テ借用者ヨリ第一及第二式ノ借用票ヲ出サシム但貸出期限ハ場合ニ依リ之ヲ短縮スルコトアル可シ
- 一 特別貸出ハ所要ノ事由ニ應シ二箇月以上二箇年ヲ限リトス
- 二 尋常貸出ハ一時參考用ノ爲メ其要求ニ應シ一箇月ヲ限リトス
- 第五條 本庫ニ收藏ノ圖書中唯一部ノモノハ貸出サス但專科ニ係ル圖書ニシテ必要缺ク可カラサルモノニ限リ臨時貸出スコトアル可シ
- 第六條 圖書借用中故意怠惰ニ依リ之ヲ亡失毀損シタルトキハ海軍通常物品會計規程第十七條ニ據ル可シ
- 第七條 圖書借用者轉讓或ハ海外派遣等ノトキハ必ス其圖書ヲ本庫ニ返納ス可シ
- 第八條 本庫ニ收藏ノ圖書中同種數部アル場合ニハ領守府文庫等ヨリノ要求ニ應シ支出スルコトヲ得
- 第九條 海軍部外ノ官廳ヨリ本庫ニ圖書ヲ借用ヲ請求スルトキハ其支障ナキモノニ限リ之ヲ貸出スコトヲ得
- 第十條 本庫ニ於テハ毎歲三月三十一日ノ調査ヲ以テ海軍圖書ノ増減表ヲ調査ス可シ
- (第一及第二式略ス)

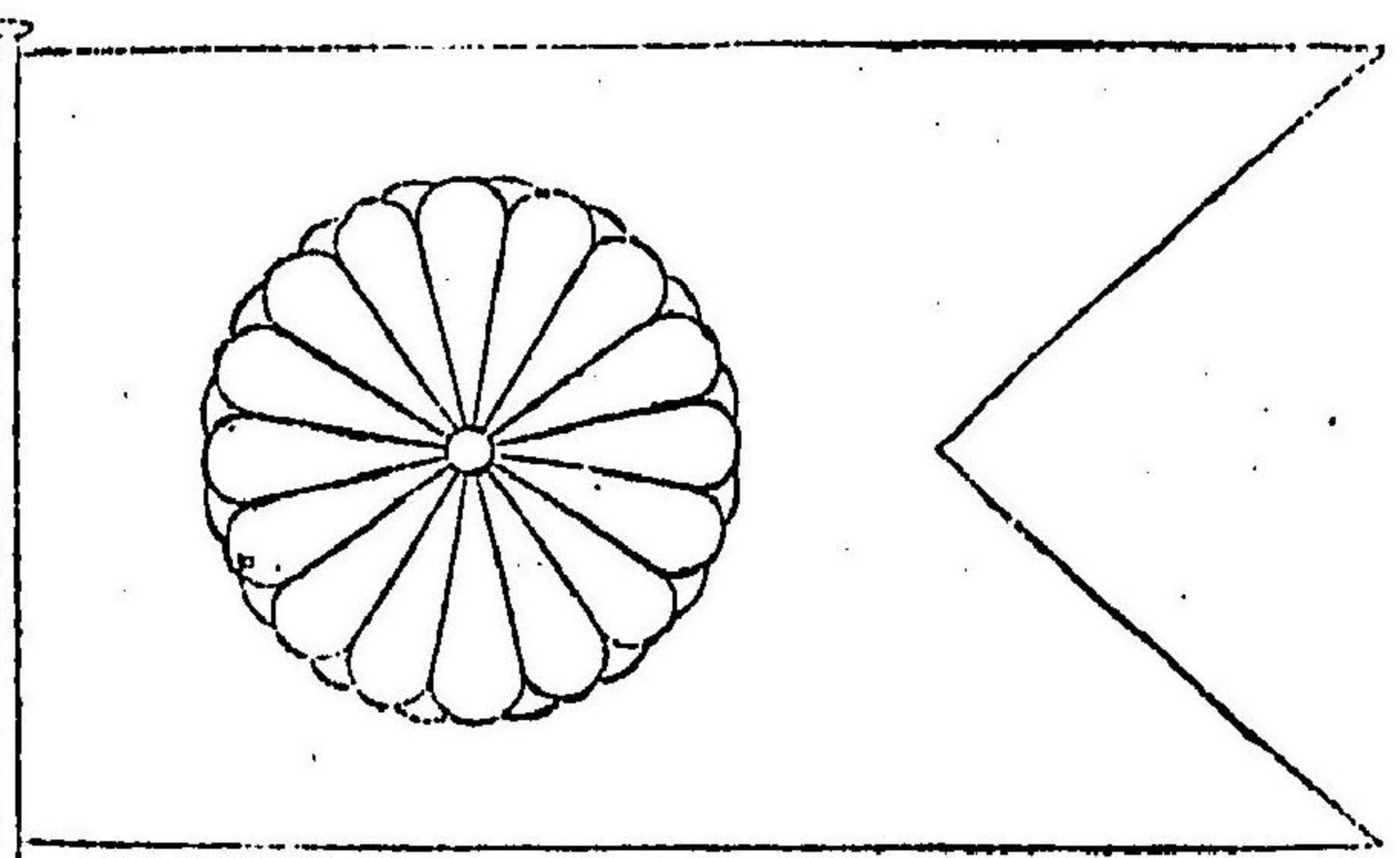
○宮内省通第十七號
天皇旗皇后旗皇太子旗親王旗左ノ通り制定ス
明治二十二年九月三十日
奉 勅

天皇旗



地色 紅
 菊葉 金
 横 縦ノ二ト二分一
 菊心 旗面ノ中心
 菊心徑 縦ノ十九分一
 菊全徑 縦ノ六分四

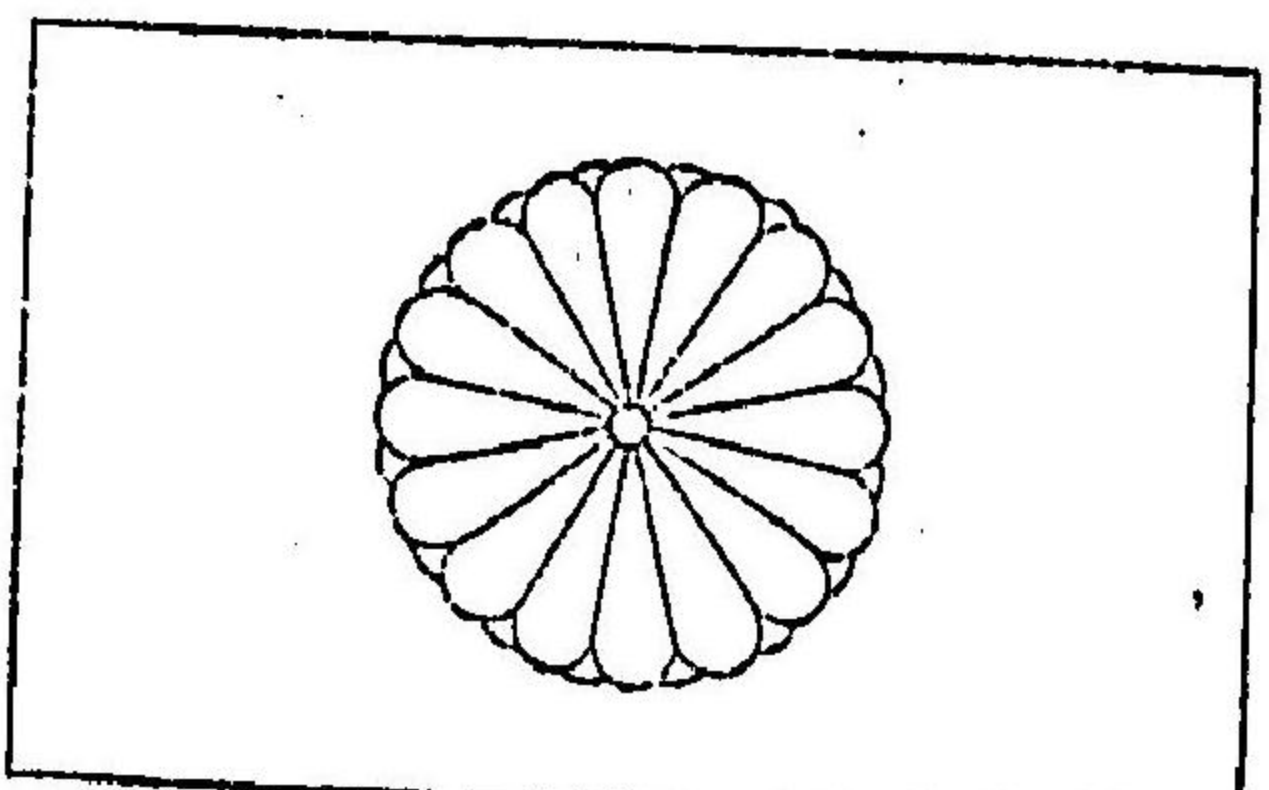
皇太后旗 皇太后ノ旗亦同シ
宮内大臣子爵土方久元



地色 紅
 菊葉 金
 横 縦ノ一ト四分三
 燕尾開裂 横ノ三分一上
 下三分
 燕尾ノ除キ旗面ノ中心
 菊心徑 縦ノ十九分一
 菊全徑 縦ノ六分四

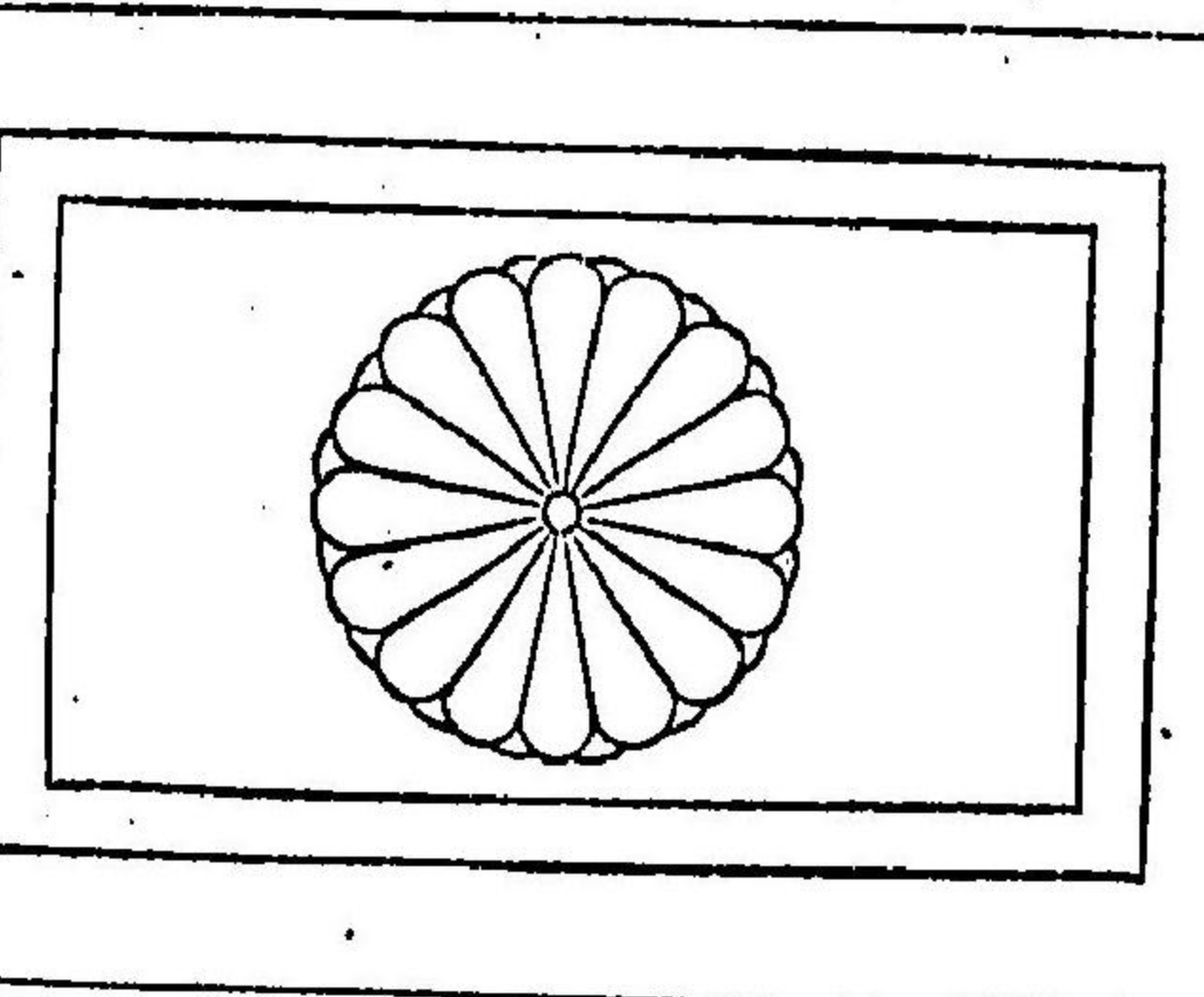
明治二十二年九月 陸軍省陸軍部第十八號

皇太子旗 皇太子妃ノ旗亦同シ



地色 紅
 薔草 金
 輪廓 白
 線 紅
 横 縦ノ二二分一
 旗面ノ中心
 薔草 縦ノ二十六分一
 薔草 縦ノ六分三
 白輪廓 縦ノ十五分一
 紅線幅 縦ノ十五分二

親王旗 内親王親王妃ノ旗亦同シ



地色 白
 薔草 金
 線 紅
 横 縦ノ二二分一
 旗面ノ中心
 薔草 縦ノ二十六分一
 薔草 縦ノ六分三
 紅線幅 縦ノ十五分二

○宮内省達第十八號

明治四年九月十五日布告中ノ旗章ハ天皇旗ニ改メ明治十年七月六日當省布達中ノ旗章ハ皇后旗ニ改ム

奉勅

宮内大臣子爵土方久元

○陸軍省達第四百一十二號

野外要務令草案別冊ノ通定メラル (別冊略ス)

明治二十二年九月三十日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省達第三百八十一號

海軍機關學校練習生教則ヲ廢シ海軍機關學校教則ヲ左ノ通定ム

明治二十二年九月三十日

海軍大臣伯爵西郷從道

海軍機關學校教則

第一條 機關練習生ノ學期ハ一箇年トス

第二條 練習生ノ學科ハ本科及別科ノ二種トス

第三條 練習生タル機關手ノ學科ハ左ノ如シ

水	科	目
機關學	熱及蒸氣ノ大意 汽機汽船各種名稱及略解	
機關學	「インゲケートル」及「スライドバルブ」 補助機 艦内諸機關ノ種類並ニ効用	
機關學	燃料ノ大意及汽機各部構造ノ大意 汽機破裂及衰弱ノ原因、汽機ノ保存及検査法 汽機汽船取扱方	
製圖	製圖法 寫圖	
實業	機關的實用算術	

明治二十二年九月 達 陸軍省陸軍部第十八號 海軍省第三百八十一號

第四條 練習生タル火夫ノ學科ハ左ノ如シ

工	工業	練習及製造業 船務及造船業
事	事務	需用品取扱法、請報告、日誌等
別	別科	科目
英	英語	初歩
武	武科	火夫練習生教程ノ復習
備	備考	本科ノ内實業ハ應得ニ於テ修業セシム 操業時間外ニ水泳、射撃ヲ修業セシム
水	本科	科目
機	機關學	汽機各部、二附屬器械名稱及効用 汽機汽機用油、汽機用油 見取圖
圖	圖學	分數 單復、比、比例
工	工業	煉炭及製糖業 煉炭及製糖業
實	實業	
別	別科	科目
語	語科	日本小史 中地理
武	武科	銃隊、步兵、中、生、兵、ヨリ分隊マテ 特別練習
備	備考	工業ハ練習及製造業或ハ造船及造船業ヲ修業セシム 操業時間外ニ水泳、射撃ニテ修業セシム 操業時間外ニ水泳、射撃ヲ修業セシム

第五條 試驗ハ小試驗及大試驗ノ二種トス

第六條 小試驗ハ教官之ヲ行ヒ大試驗ハ校長臨席シ教官之ヲ行フ

第七條 小試驗ハ毎月之ヲ行ヒ大試驗ハ全學科終ルノ後之ヲ行フ

第八條 小試驗大試驗及第ノ點數ハ本科ニ在テハ各科全點數ノ十分ノ五別科ニ在テハ各科全點數ノ十分ノ四以上トス

第九條 大試驗ノ成績ハ全科小試驗平均ノ得點ト大試驗得點トヲ合算シテ之ヲ定ム

第十條 大試驗ニ及第ノ者ニハ左ノ諸項ニ依リ其成績ニ應シ一等適任證書若クハ二等適任證書ヲ授與ス

第一 本科全點數十分ノ七別科全點數十分ノ五以上ヲ得タル者ヲ一等トス

第二 本科全點數十分ノ五別科全點數十分ノ四以上ヲ得タル者ヲ二等トス

第十一條 大試驗ニ落第シタル者ハ若干日ノ復習ヲ爲サシメ其落第シタル學科ノ再試験ヲ行フコトヲ得而シテ及第ノ者ニハ二等適任證書ヲ授與ス

○海軍省達第三百八十二號

海軍火藥工廠定員表中专屬員及取締掛ヲ左ノ通改正ス

明治二十二年九月三十日

海軍大臣伯耆西郷從道

專屬員 監護長

副一 副一

○海軍省達第三百八十三號

海軍火藥工廠處務細則別冊ノ通定ム

明治二十二年九月三十日

海軍大臣伯耆西郷從道

(別冊)

海軍火藥工廠處務細則

第一章 職務及權限

- 第一條 廠長事故アルトキハ特ニ代理ヲ命スルトキハ外先任科長共事務ヲ代理ス可シ
- 第二條 廠長ハ此細則ニ掲グル各科課所掌事項外ニシテ臨時調査ヲ要スル事項等アルトキ臨時廠員ニ委員ヲ命シ共事ニ從ハシムルコトヲ得
- 第三條 先任科長廠長ノ事務ヲ代理スルトキハ共指示ニ從ヒ委任セラレタル事務ヲ處理ス可シ而シテ上申伺等ハ廠長ノ名ヲ以テ發付ス可シ
- 第四條 製造科長ハ成年工以下ノ職工及人夫ヲ雇役解雇スルコトヲ得
- 第五條 検査科長ハ検査試験ヲ爲スニ當リ分析室ヲ使用スルコトヲ得
- 第六條 會計課長ハ定備人夫並臨時ニ職工人夫ヲ雇役解雇スルコトヲ得
- 第七條 科課長ハ各共屬員以下ニ掛ヲ命スルコトヲ得
- 第八條 科課長ハ共事務ニ依リ他科課ノ屬員及器具物品等ヲ要スル時ハ共科課長ニ協議シテ之ヲ使用スルコトヲ得
- 第九條 各科課ノ屬員ハ共長ノ命ヲ承ケ業務ニ服ス長事故アルトキハ先任ノ者共代理ヲ爲スコトヲ得
- 第十條 製造科ニ左ノ五掛ヲ設ク
 - 一 材料掛
 - 一 製藥掛
 - 一 火藥庫掛

機械掛

一 調理掛

- 第十一條 左ニ掲グル事項ハ各掛ニ於テ掌理スルモノトス
 - 一 火藥及爆烈藥製造ノ方法並其取調ニ關スル事項
 - 二 工夫職工等ヲ使役シ其他否ヲ監査スル事
 - 三 所用器具物品ノ入費豫算ノ下調ヲ爲ス事
 - 四 要求ニ係ル器具物品ノ良否ヲ檢定スル事
 - 五 文書ヲ起按シ帳簿ヲ管理シ負擔ノ事務ヲ報告スル事
- 第十二條 材料掛ノ所掌事項ハ左ノ如シ
 - 一 火藥ノ原料ヲ精製スル事
 - 二 原料ノ良否ヲ檢定スル事
 - 三 分析室ヲ管理シ材料物品ノ化學的分析ヲ爲ス事
 - 四 木掛ニ屬スル工場倉庫及器具機械ヲ管理スル事
 - 五 第一項ノ入費豫算取調ノ事
- 第十三條 製藥掛ノ所掌事項ハ左ノ如シ
 - 一 火藥及爆烈藥ヲ製造シ並改造管理スル事
 - 二 木掛ニ屬スル工場倉庫及器具機械ヲ管理スル事
 - 三 第一項ノ入費豫算取調ノ事
- 第十四條 火藥庫掛ノ所掌事項ハ左ノ如シ
 - 一 火藥庫ヲ主管シ其貯蓄火藥ヲ管理シ之ヲ出納スル事

- 二 火藥運搬ノ事ヲ處理スル事
- 三 運搬ニ使役スル人夫ヲ支配スル事
- 四 火藥格納器其他木掛ニ屬スル器具物品ヲ管理スル事
- 五 第二項ノ入費算取調ノ事
- 第十五條 機械掛ノ所掌事項ハ左ノ如シ
 - 一 蒸氣爐及原動機ヲ主管シ並各工場ノ機械ヲ監視スル事
 - 二 機械ノ据付及之ニ關スル事項
 - 三 廠内造修ニ屬スル器具機械ヲ製作修理スル事
 - 四 製圖室ヲ管理シ諸圖ヲ寫掛スル事
 - 五 木掛ニ屬スル工場倉庫及器具機械ヲ管理スル事
 - 六 第二項及第三項ノ入費算取調ノ事
- 第十六條 調理掛ノ所掌事項ハ左ノ如シ
 - 一 器具機械材料物品ノ要求ニ關スル事項
 - 二 木料ノ主管ニ屬スル財産ノ取調ニ關スル事項
 - 三 工夫職工及人夫ノ就業時間並給手當金賃錢増助料ヲ調査報告スル事
 - 四 火藥及爆烈藥ノ購買並排下ニ關スル事項
 - 五 工夫ノ做募免役並人夫ノ履役解雇ニ關スル事項
 - 六 各掛ノ報告ヲ蒐集シ之ヲ調理統計スル事
 - 七 消防ニ關スル事項
 - 八 木料ノ備品ヲ主管スル事

九 木料ニ屬スル判任官以下ノ勤務簿ヲ調査スル事
 十 木料ニ屬スル文書ヲ受附シ並書類ヲ管理スル事
 第十七條 検査科ニ左ノ二掛ヲ置ク

- 一 司検査
- 一 理事掛
- 第十八條 左ニ掲グル事項ハ各掛ニ於テ掌理スルモノトス
 - 一 工夫職工等ヲ使役シ其勤否ヲ監査スル事
 - 二 所用器具物品ノ入費豫算ノ下欄ヲ爲ス事
 - 三 要求ニ係ル器具物品ノ真否ヲ檢定スル事
 - 四 文書ヲ取扱シ帳簿ヲ管理シ負擔ノ事務ヲ報告スル事
- 第十九條 司検査ノ所掌事項ハ左ノ如シ
 - 一 火藥及爆烈藥ノ検査並試驗ヲ爲シ其真否ヲ判定スル事
 - 二 木廠貯蓄火藥ヲ定期及臨時ニ検査又ハ試驗スル事
 - 三 規定藥ヲ定期及臨時ニ検査試驗スル事
 - 四 火藥及爆烈藥ノ存廢ヲ鑑定スル事
 - 五 火藥及爆烈藥ノ検査及試驗ノ方法ヲ取調ル事
 - 六 火藥及爆烈藥ノ検査及試驗用ノ器具器械並物品ヲ管理スル事
 - 七 測候臺ヲ主管シ火藥ノ試驗上ニ須要ノ天候ヲ觀測スル事
 - 八 検査室試驗室發射場並検査室ヲ主管スル事
- 第二十條 理事掛ノ所掌事項ハ左ノ如シ

- 一 標木火藥ヲ保管スル事
- 二 火藥ノ検査及試験用ノ參考品ヲ保管スル事
- 三 木料ノ主管ニ關スル財産ノ取調ニ關スル事
- 四 木料ノ備品ヲ主管スル事
- 五 木料ニ關スル判任官以下ノ勤務簿ヲ調査スル事
- 六 木料ニ關スル文書ヲ受附シ或諸報告ヲ統計スル事
- 第二十一條 會計課ニ左ノ二掛ヲ設ク
 - 一 司計掛
 - 一 用度掛
- 第二十二條 左ニ掲クル事項ハ各掛ニ於テ掌理スルモノトス
 - 一 所用器具物品ノ入費豫算ノ下調ヲ爲ス事
 - 二 文書ヲ起按シ帳簿ヲ管理シ負擔ノ事務ヲ報告スル事
- 第二十三條 司計掛ノ掌務ハ左ノ如シ
 - 一 本廠經常費特別費及收入金ノ豫算書ヲ編製シ或決算書ヲ調製スル事
 - 二 前項ノ諸費及收入金ヲ出納シ其整理ヲ爲ス事
 - 三 仕拂命令ヲ仕出シ切符或告知書ヲ發行スル事
 - 四 本廠所管諸費ノ豫算ヲ取調ル事
 - 五 經費ノ増減流用ニ關スル事項
 - 六 供給諸旅費及賄料ノ支給或舟車馬賃ノ支拂ニ關スル取扱ヲ爲ス事
 - 七 職工及入夫ノ賃錢ヲ調査シ其支給ニ關スル取扱ヲ爲ス事

- 八 正當證書ヲ査閱正算スル事
- 九 下士卒ノ被服給與ニ關スル取扱ヲ爲ス事
- 十 金錢出納ニ係ル報告書ヲ調製スル事
- 十一 報告統計ノ整理ヲ爲ス事
- 十二 豫備金ヲ管守シ其受拂ヲ爲ス事
- 十三 抵當物ヲ受授シ或之ヲ管守スル事
- 十四 木課ニ屬スル判任官以下ノ勤務簿ヲ調査スル事
- 第二十四條 用度掛ノ所掌事項ハ左ノ如シ
 - 一 倉庫及石炭庫ヲ主管シ材料器具物品石炭ノ受拂ヲ爲ス事
 - 二 材料器具物品石炭ノ受拂ニ係ル帳簿ヲ主管スル事
 - 三 應費ノ豫算ヲ取調ル事
 - 四 臨時ニ職工人夫及舟車ヲ雇入ル事
 - 五 定備人夫或臨時木課ニ要スル職工人夫ヲ使役スル事
 - 六 火藥其他諸物件ノ購買或拂下ノ事ヲ處辨シ其證書ヲ調査スル事
 - 七 廠外造修ニ關スル器具物品ノ製作修理ニ關スル事項
 - 八 廠内造修ニ關スル器具物品ノ受拂ヲ爲ス事
 - 九 木課ノ備品ヲ主管スル事
 - 十 諸物件ノ賣却讓與ニ關スル事項
 - 十一 營繕ノ豫算取調ニ關スル事項
 - 十二 他ノ主管ニ關セサル土地或諸建築物ヲ保管スル事

- 十三 諸建造物ノ復舊修理ヲ爲シ竝之ニ關スル事項
- 十四 暖爐ニ關スル事項
- 十五 洒掃ニ關スル事項
- 十六 官舎貸渡ニ關スル事項
- 十七 使丁給仕支配ノ事
- 第二十五條 用度掛ニ於テ各科其他ノ要求ニ依リ器具物品ヲ購買スルトキハ豫メ其主管者ノ檢定ヲ受ク可シ
- 第二十六條 木廠勤務軍醫ノ所掌事項ハ左ノ如シ
 - 一 廠内衛生ニ關スル事項
 - 二 公務員傷及急病者アル時ハ之ヲ診斷施療スル事
 - 三 臨時發病者アル時ハ之ヲ診斷施療スル事
 - 四 藥品療用品ヲ管理スル事
 - 五 看病夫ヲ指揮シ其勉否ヲ監査スル事
- 第二十七條 廠長專屬員ノ所掌事項ハ左ノ如シ
 - 一 廠長ノ處分ニ係ル文書ノ起拔ヲ爲シ及之ニ關スル書類ヲ管守スル事
 - 二 各科課ノ諸報告ヲ整理スル事
 - 三 祕密文書ノ取扱ヲ爲ス事
 - 四 官印ヲ監守スル事
 - 五 廠長名若シクハ廠名ヲ以テスル文書ノ受附ヲ爲ス事

- 六 本廠ニ在ル圖書出納ノ取扱ヲ爲ス事
- 七 本廠職員以下雇員傭人ノ名簿履歷ニ關スル事項
- 八 廠長室及專屬員ノ備品ヲ主管スル事
- 九 諸報告ノ提出日限ヲ計査申告スル事
- 十 他ノ主管ニ屬セサル事務ノ取扱ヲ爲ス事
- 第二十八條 監護長ノ所掌事務ハ左ノ如シ
 - 一 廠内ノ取締ニ關スル事項
 - 二 監護支配ノ事
 - 三 消防具ヲ主管シ及消防ノ手配ヲ爲ス事
- 第二章 文書取扱
- 第二十九條 本廠ニ到來スル文書ハ凡テ廠長專屬員之ヲ受領シ其件名ヲ簿冊ニ登載シ番號ヲ記シテ廠長ノ閱覽ニ供シ廠長親展ノモノハ直ニ廠長ニ呈スヘシ
- 第三十條 廠長ハ文書ヲ閱覽シ其主務ノ科課指示ノ印ヲ捺シ專屬員ヲシテ之ヲ回致セシメ事ノ急施ヲ要スルモノハ特ニ急印ヲ捺ス可シ
- 第三十一條 科課長ハ前條回致サレタル文書ヲ熟讀シ其處辨ヲ要セサルモノハ之ヲ保管シテ其旨ヲ專屬員ニ通知シ處辨ヲ要スルモノハ受領ノ日直ニ其施行ノ手續ヲナスヘシ但直ニ施行シ難キモノハ三日以内ニ文案ヲ起草シテ廠長ニ呈シ該日數外ニ涉ル調査ヲ要スルトキハ豫メ其事由ヲ開申ス可シ又急印アルモノニ對シテハ特ニ速ニ處辨ス可シ
- 第三十二條 事ノ聯帶ニ涉ル文書ハ主務ノ科課ニ於テ立按シ關係科課長ト協働ノ上連印シテ之ヲ出ス可シ其協働ヲ爲スハ主任者面議諮詢スルヲ要ス若シ彼是意見ヲ異ニシテ決セサルトキハ直

ニ廠長ニ面陳シテ決裁ヲ乞フ可シ

第三十三條 專屬員ハ科課ニ回致シタル文書ニ對スル處辨ノ日數ヲ訂查シ若シ日限ヲ經過スルモ廠長ニ出サハルモノアルトキハ其件名及科課名ヲ廠長ニ開申ス可シ

第三十四條 科課ヨリ出シタル文案ハ廠長檢印ノ後其科課ニ下シテ淨寫セシム而シテ專屬員ヲシテ之ヲ發付セシム可シ

第三十五條 大臣ノ令違ハ廠長一覽ノ後專屬員ヲシテ主務ノ科課ニ回致セシムヘシ但他ノ科課ニ關係スルモノハ主務ノ科課ヨリ之ヲ回覽セシムヘシ

第三十六條 科課ニ回覽ヲ要スル文書ハ科課回覽ノ印ヲ捺シ專屬員ヲシテ之ヲ發付セシムヘシ科課ハ回覽ノ後其證トシテ各其長捺印シ回尾ヨリ專屬員ニ還付ス可シ

附則

第三十七條 製造科製藥掛ノ所掌事項中爆烈藥ノ製造ハ當分ニテ施行セス

○海軍省違第三百八十四號

海軍通常物品會計規程第二十條以下ノ通改正シ第八號様式ヲ廢ス

明治二十二年九月三十日

海軍大臣伯備西郷從道

第二十條 物品會計規程第十五條ノ物品出納計算書ハ物品會計官吏又ハ臨時命スル處ノ官吏ヨリ會計監督部若シハ會計監督官ニ送付スヘシ

第二十一條 物品出納計算書下檢査書ノ書式及ヒ會計檢査院ノ檢査ニ關スル事項ハ會計檢査院ニ於テ定ムル處ノ物品出納證明程式及作業費物品出納證明程式ニ依ル

第二十二條 物品出納證明程式第二條ノ類別ハ第一號類別表ニ依ルヘシ程式第三條ニ依リ失記スル價格ハ受拂原簿ニ照シ供用品在庫品ノ總價格ヲ記入スヘシ

第二十三條 物品出納證明程式第四條第一項受入物品ニ對スル證憑書類ハ第三號乙票若クハ之レト同一ナル證憑書類又ハ之レニ代ルヘキ帳簿ヲ以テスヘシ

同條第二項消耗拂ノ物品ニ對スル領收證書ハ第二號乙物品受領票又ハ之レト同一ナル證憑書類ヲ以テスヘシ

附則

第二十五條 本規程ハ物品會計規則實施ノ日ヨリ施行ス

○海軍省違第三百八十五號

海軍通常物品會計規程第一條第五項中「興業費」ヲ「作業費」ト改メ第六項第七項第八項ヲ廢ス

明治二十二年九月三十日

海軍大臣伯備西郷從道

○海軍省遵第三百八十六號
 本年七月達第二百四十一號雇員備人採用規則中第二條第三條ヲ左ノ通改正シ第四條但書中「鎮守府」ノ上ニ「海兵團」ヲ加ヘ第十六條ヲ刪除ス
 明治二十二年十月二日 海軍大臣伯爵西郷從道

第二條 備人ノ職名ハ左ノ如シ

司令長官司令官從僕 艦長從僕 副夫

以上鎮守府司令長官軍港司令官從僕ヲ除クノ外軍艦ニ限リ使役スルモノトス

副烹

以上軍艦海兵團海軍大學校海軍兵學校ニ限リ使役スルモノトス

印刷工

駁者

使丁

砲丁

給仕

定備大工

定備鍛冶

定備醫師

射的場番人

用水場番人

定夫

馬丁

以上各職ニ限リ使役スルモノトス

附夫

右海軍大學校海軍兵學校病院監獄ニ限リ使役スルモノトス

洗濯夫

右病院ニ限リ使役スルモノトス

右ニ掲ケル外備人ヲ使役スルコトヲ許サス但各職ニ於テ臨時使役スルハ夫各工場ニ於テ臨時使役スル職工ハ此限ニ在ラズ

第三條 雇員及使丁砲丁給仕並ニ海軍大學校海軍兵學校ニ使役スル副烹ノ最上限定員ハ別ニ之ヲ定ム

○海軍省違第三百八十七號

本年七月連第二百四十二號雇員備人職工人夫給與規則第一條但書中「會計局長以下十四字ヲ」増給ノ從僕刺夫及艦團ニ於テ使役スル刺夫ヲ除クノ外軍事費ニ屬スルモノハ第一局長本省費ニ屬スルモノハ會計局長ニ豫メ協議ス可シト改メ雇員日給表及備人日給表ヲ左ノ如ク改正ス

明治二十二年十月二日

海軍大臣伯露西鄉從道

雇員日給表

職名	刺手	職學生	海軍印刷工	技道教員	器械手	筆	兵器保管手	監
給額	三圓	四圓	四圓	四圓	四圓	八拾五錢	六拾錢	五拾三錢

備人日給表

職名	刺夫	定備刺夫	定備印刷工	定備書使	丁刺夫	從刺夫	從刺夫	洗滌夫	馬丁	給仕	刺的掃人
給額	七拾錢	六拾貳錢	六拾錢	五拾三錢	三拾七錢	三拾五錢	三拾三錢	三拾錢	貳拾七錢	貳拾貳錢	貳拾錢

○海軍省違第三百八十八號

監護長ニ品取扱規則使丁以下被服給與規則及明治二十二年三月連第五十四號監護長監護帶切ノ件ヲ廢ス

明治二十二年十月二日

海軍大臣伯露西鄉從道

○海軍省違第三百八十九號

監護長監護取者貸與品規則左ノ通定ス

明治二十二年十月二日

海軍大臣伯露西鄉從道

監護長監護取者貸與品規則

第一條 監護長監護ニ貸與スル品目及定數ハ左ノ如ク定ム但劔及劔帶ノ制ハ別圖ニ依ル

- 品目 定數
- 棍 棒 定員ノ半數以內
- 角 燈 同
- 捕 繩 各員 一條
- 呼子笛 同 一箇
- 劔劔帶共 同 一振

第二條 監護長監護ニ貸與スル品目中劔及劔帶ハ非常ノ事變又ハ特ニ警戒ヲ嚴ニスル場合ニ限リ貸與シ其他ハ警備用トシテ換テ貸與スルモノトス

第三條 取者ニ貸與スル品目及定數ハ左ノ如ク定メ入用ノ都度貸與スルモノトス

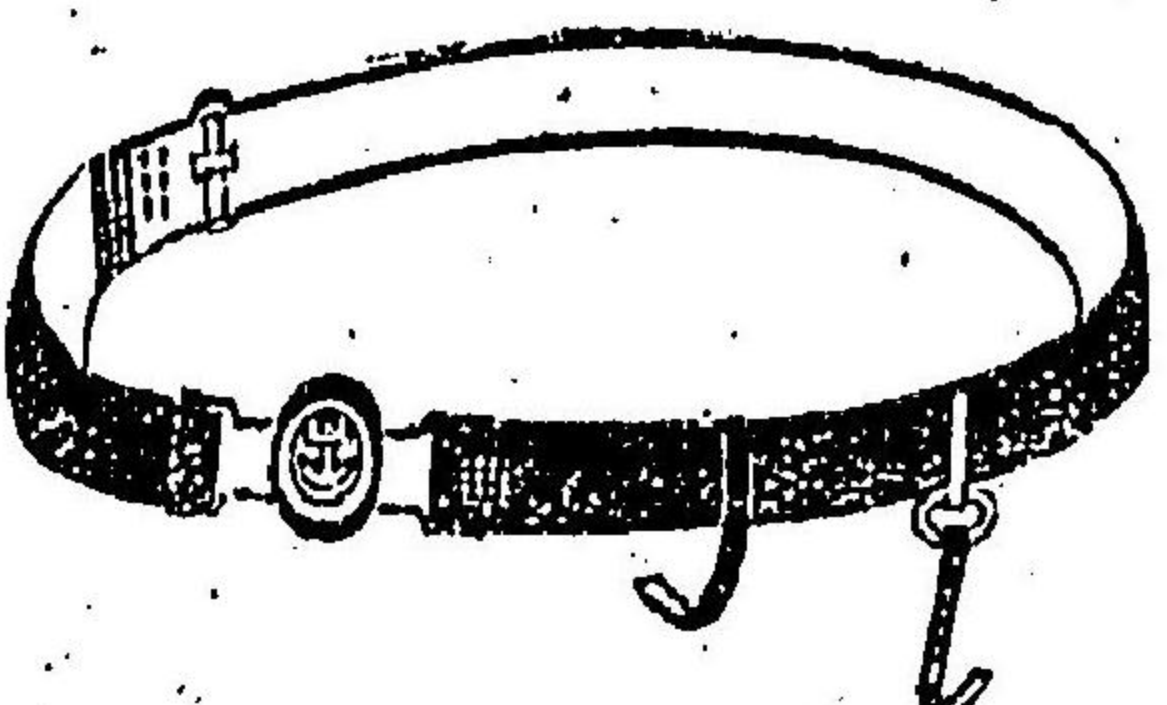
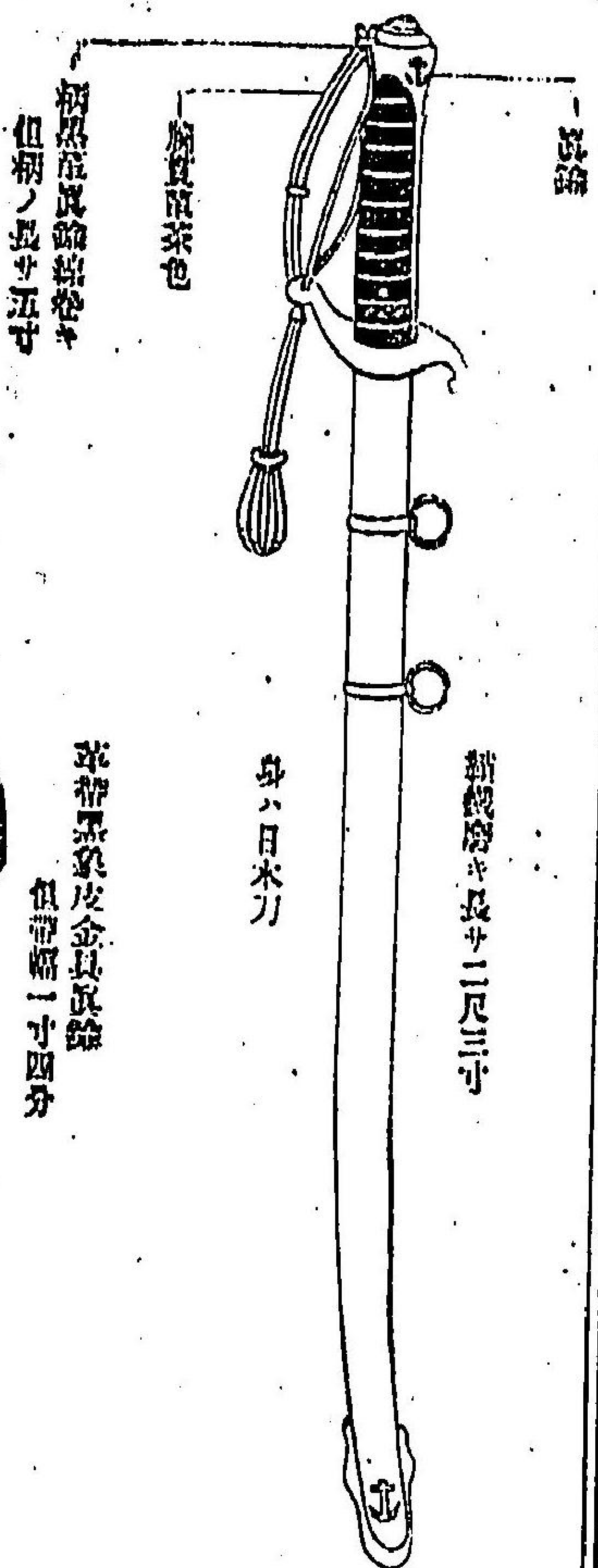
第四條 貸與品ハ保存期限ヲ定メ實際使用ニ堪ヘサルトキ所轄長點檢ノ上之ヲ交換ス可シ

第五條 所轄長ハ毎月一回部下ノ者ヲシテ貸與品ヲ點檢セシメ故ナク失亡若クハ毀損レタルトキハ辨償セシム可シ

第六條 貸與品ハ解雇轉雇若クハ死亡ノ際總テ返納セシム可シ

明治二十二年十月 海軍省第三百八十九號

○海軍省第三百九十號
監護及傭人被服規則及服制表左ノ通定ス



柄頭船尻並船帶ノ前章ハ圖ノ如キニシテナリトス

明治二十二年十月二日

海軍大臣伯耆西郷從道

監護及傭人被服規則

- 第一條 監護從僕刺刺夫取者使丁砲丁給仕定備鍛冶定夫馬丁厨夫服務中ハ制服ヲ著用ス可シ
- 制服ハ自裁ヲ以テ別表ノ如ク調製スルモノトス
- 第二條 各艦總隊ニ於テ監護其他本則ニ掲グル傭人ヲ雇入スルトキハ時日ヲ定メテ制服ヲ調製セシメ後ヲ業務ニ服セシム可シ
- 第三條 監護其他本則ニ掲グル傭人ノ被服所持定數ハ所轄長之ヲ定メ毎年四回以上部下ノ者ニ命ジ點檢セシメ定數不足若クハ毀損汚穢レタルトキハ時日ヲ期シテ新調修補若クハ洗濯セシム可シ
- 第四條 夜中雨天ノ際若クハ海軍會葬式ニ參會スルトキハ季節ニ拘ラス常服ヲ著用シ其他ノ場合ハ所轄長ノ指揮ニ依リ服裝ス可シ
- 第五條 監護其他本則ニ掲グル傭人ニシテ汚穢若クハ毀損シタル被服ヲ著用シ其他其服裝不體裁ト認ムル場合ニ於テハ所轄長其服務ヲ禁シ日給ヲ停止スルコトヲ得

(別表)

監護及傭人服制表

名品	地質	及	製式
常服	瑠璃紺セルシ	時度對其地質製	一重襟襟紐五箇一行
夏服	地質瑠璃紺水綿其他綿ヲ	常用ニ同シ	
帽	紺大黒形黒布	附帽章止メ金色飾	附小鈕釦二箇ヲ附シ前章ハ鋼製ニシテ
帽日覆	海字ニ同形	附シ同	一寸五分トス
	晒線水綿	巾ヲ附ス	

取		從				制		取	
者		機				夫		者	
外	中	常	夏	外	雨	常	夏	常	取
外	中	常	夏	外	雨	常	夏	常	取
地質五號純毛地綿製胸二重腰襷角鈕五箇宛二行頭巾附	草製ニシテ黒色	紺、セルビ、青、黄、製胸一重腰襷角鈕五箇一行胸衣ニ黒角鈕五箇一行	晒製木綿製式常服ニ同シ白角鈕四箇一行	紺大羅紗折襟胸二重腰角鈕五箇宛二行長サ腰節迄トス	生厚綾木綿製外袴狀ニシテ黒油ヲ塗り黒角鈕四箇宛二行	紺羅紗大黒形製黒革腰附襷止メ金色縮附小鈕二箇ヲ附ス	晒製木綿	生小倉製黒油ヲ塗り	草製ニシテ黒色
地質五號純毛地綿製胸二重腰襷角鈕五箇宛二行胸衣ニ黒角鈕五箇一行	草製ニシテ黒色	紺、セルビ、青、黄、製胸一重腰襷角鈕五箇一行胸衣ニ黒角鈕五箇一行	晒製木綿製式常服ニ同シ白角鈕四箇一行	紺大羅紗折襟胸二重腰角鈕五箇宛二行長サ腰節迄トス	生厚綾木綿製外袴狀ニシテ黒油ヲ塗り黒角鈕四箇宛二行	紺羅紗大黒形製黒革腰附襷止メ金色縮附小鈕二箇ヲ附ス	晒製木綿	生小倉製黒油ヲ塗り	草製ニシテ黒色
地質五號純毛地綿製胸二重腰襷角鈕五箇宛二行胸衣ニ黒角鈕五箇一行	草製ニシテ黒色	紺、セルビ、青、黄、製胸一重腰襷角鈕五箇一行胸衣ニ黒角鈕五箇一行	晒製木綿製式常服ニ同シ白角鈕四箇一行	紺大羅紗折襟胸二重腰角鈕五箇宛二行長サ腰節迄トス	生厚綾木綿製外袴狀ニシテ黒油ヲ塗り黒角鈕四箇宛二行	紺羅紗大黒形製黒革腰附襷止メ金色縮附小鈕二箇ヲ附ス	晒製木綿	生小倉製黒油ヲ塗り	草製ニシテ黒色
地質五號純毛地綿製胸二重腰襷角鈕五箇宛二行胸衣ニ黒角鈕五箇一行	草製ニシテ黒色	紺、セルビ、青、黄、製胸一重腰襷角鈕五箇一行胸衣ニ黒角鈕五箇一行	晒製木綿製式常服ニ同シ白角鈕四箇一行	紺大羅紗折襟胸二重腰角鈕五箇宛二行長サ腰節迄トス	生厚綾木綿製外袴狀ニシテ黒油ヲ塗り黒角鈕四箇宛二行	紺羅紗大黒形製黒革腰附襷止メ金色縮附小鈕二箇ヲ附ス	晒製木綿	生小倉製黒油ヲ塗り	草製ニシテ黒色

明治二十二年十月 陸軍省第三百九十九號

給使取監
仕丁者器
常服

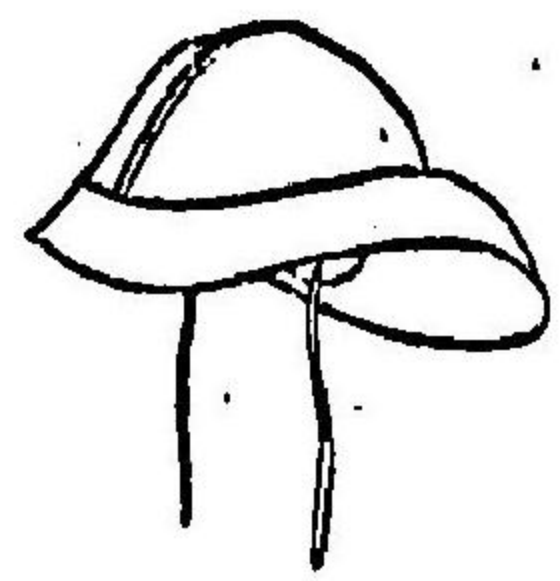
草製ニシテ黒色

給		使	
仕		丁	
中	常	夏	常
常	夏	常	取
晒製ニシテ黒色	晒製ニシテ黒色	晒製ニシテ黒色	晒製ニシテ黒色
晒製ニシテ黒色	晒製ニシテ黒色	晒製ニシテ黒色	晒製ニシテ黒色
晒製ニシテ黒色	晒製ニシテ黒色	晒製ニシテ黒色	晒製ニシテ黒色
晒製ニシテ黒色	晒製ニシテ黒色	晒製ニシテ黒色	晒製ニシテ黒色

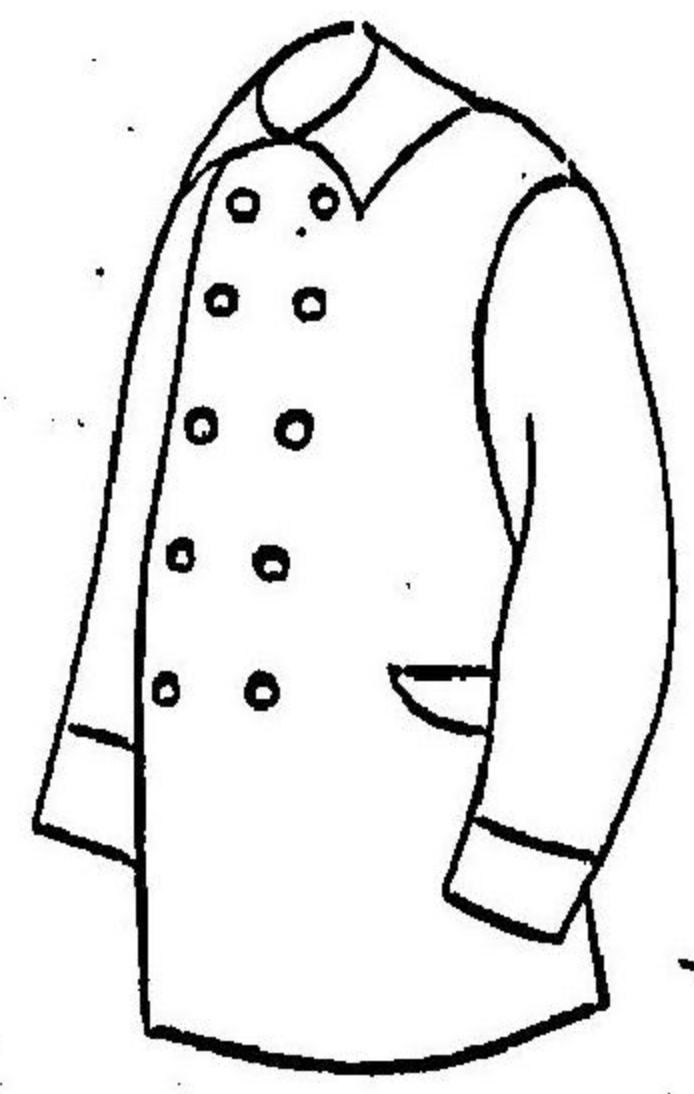
草製ニシテ黒色

草製ニシテ黒色

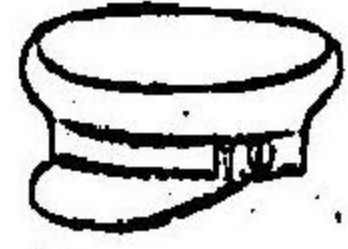
軍帽



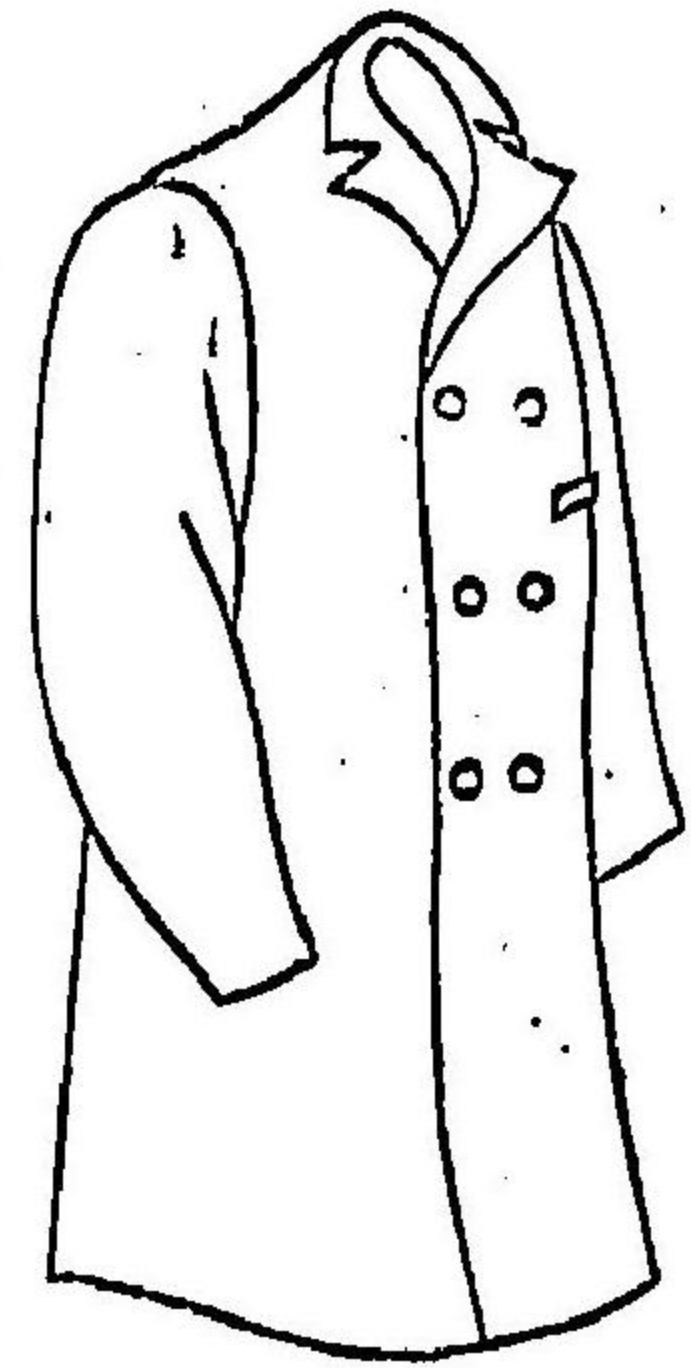
從
僕
外
套



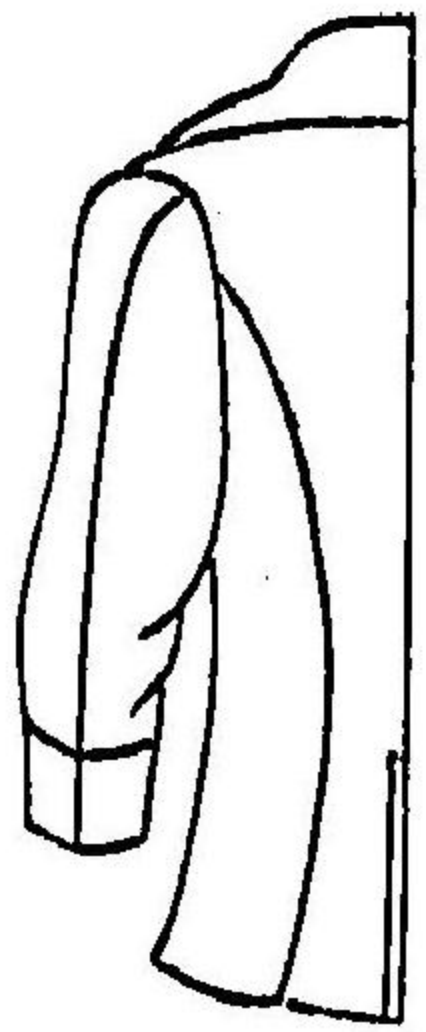
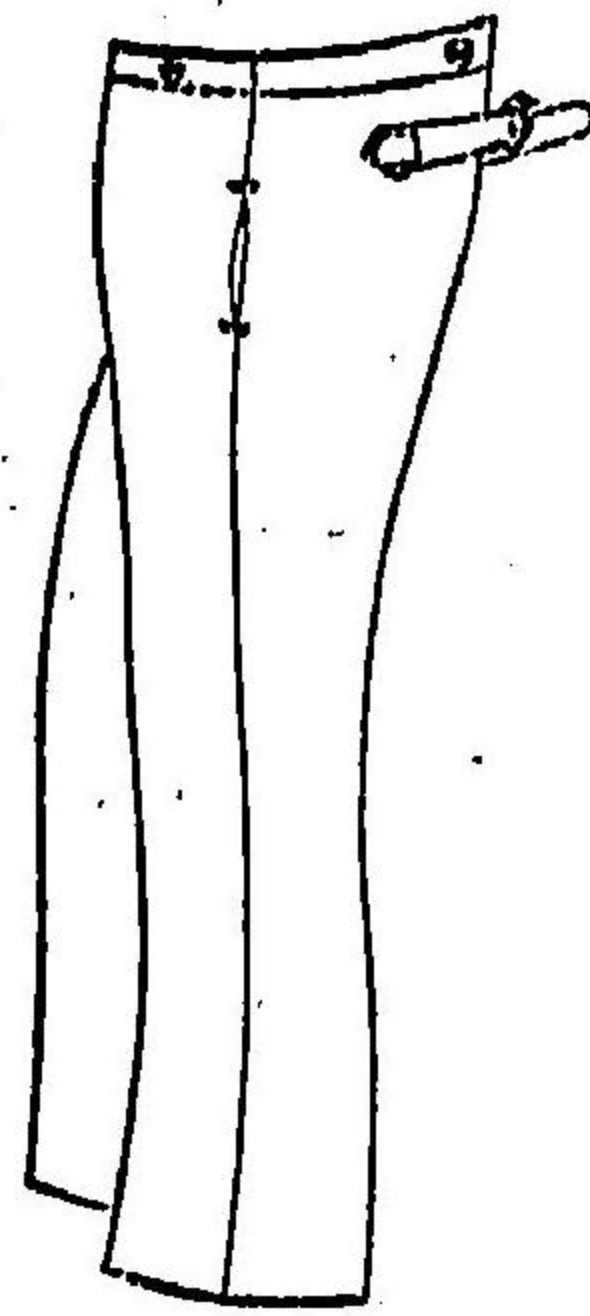
帽



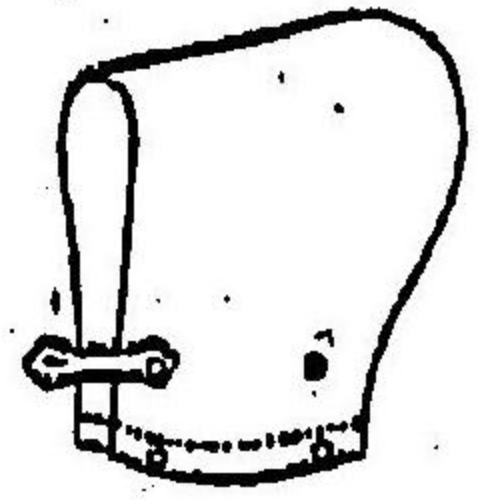
雨衣



袴

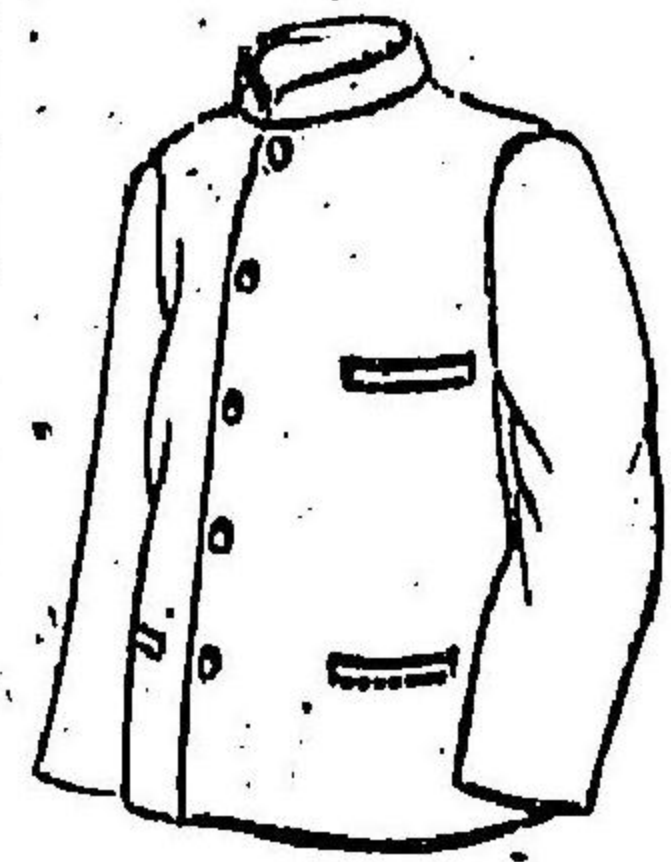


軍
帽
外
套

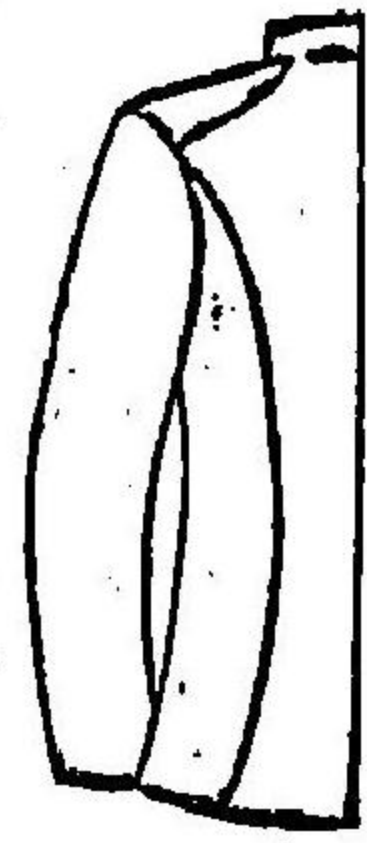
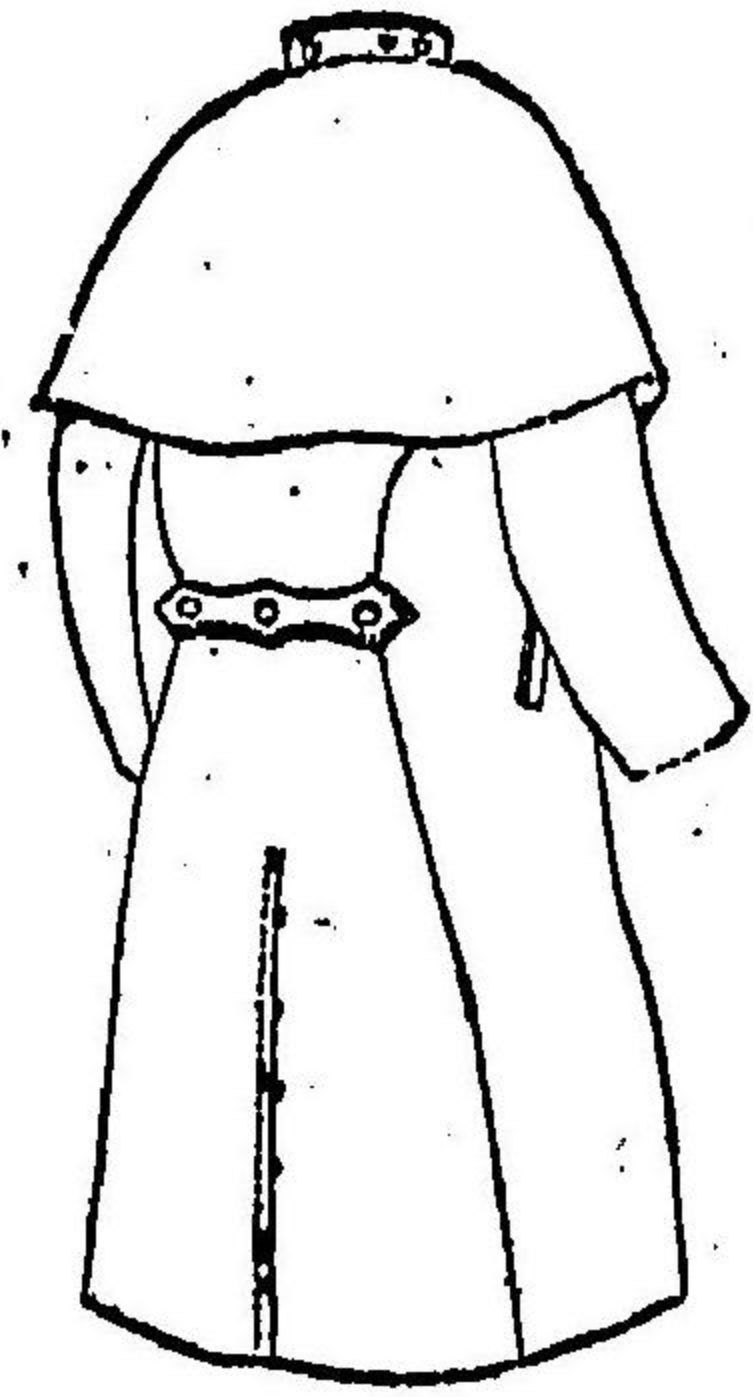


從
僕
帶
服

上
衣

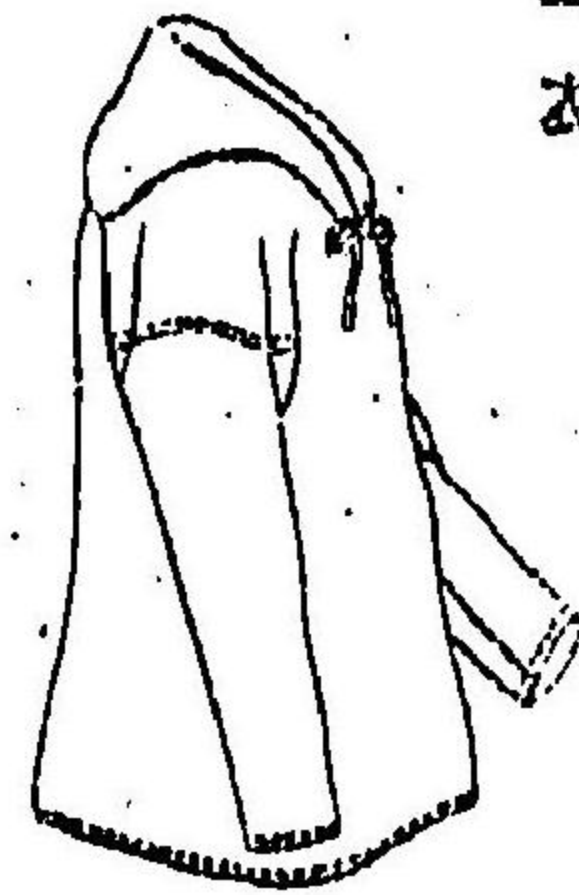


頭
巾



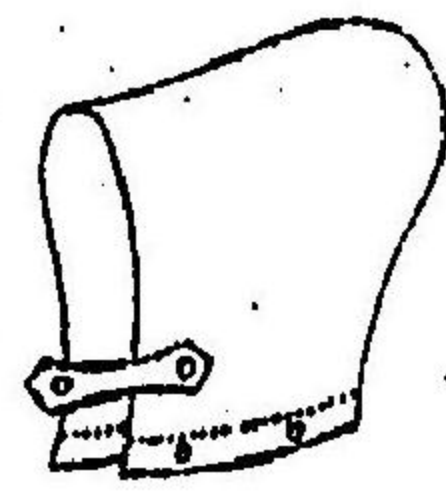
從僕
朝服
事業服

上衣

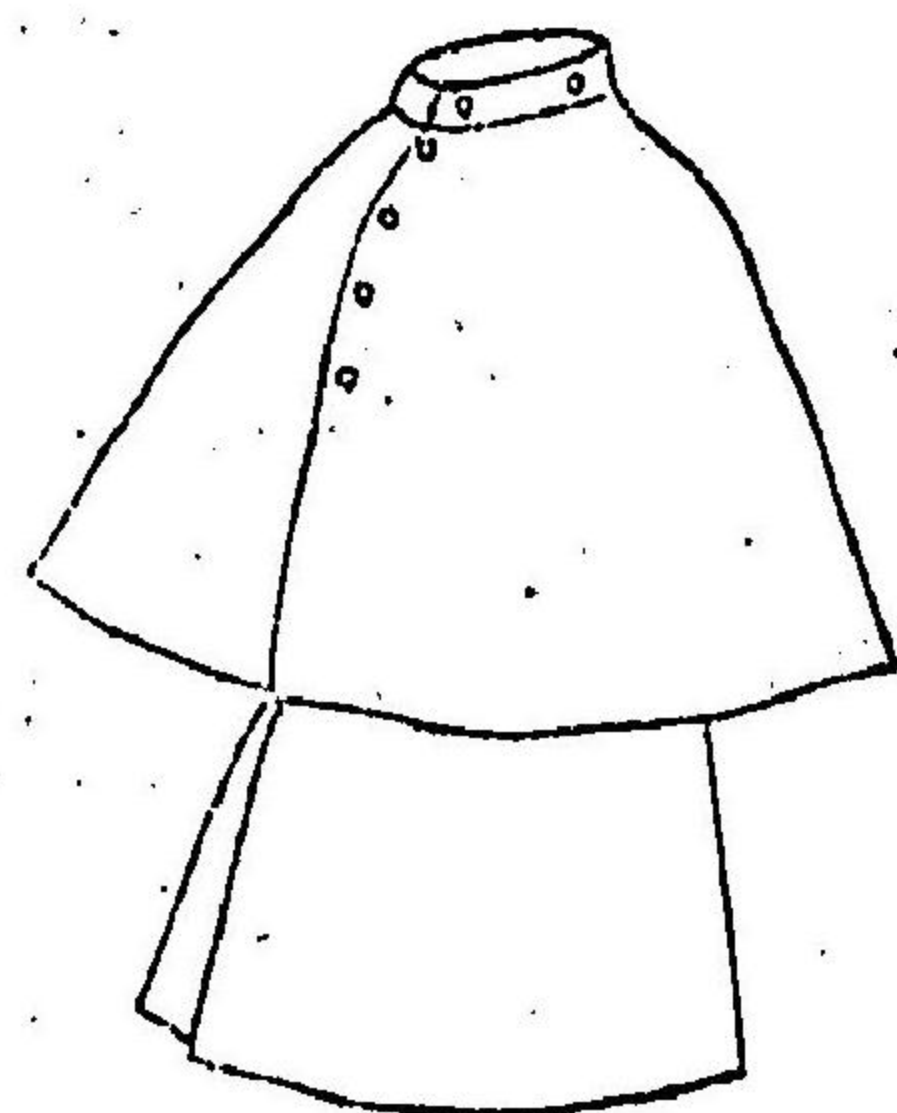
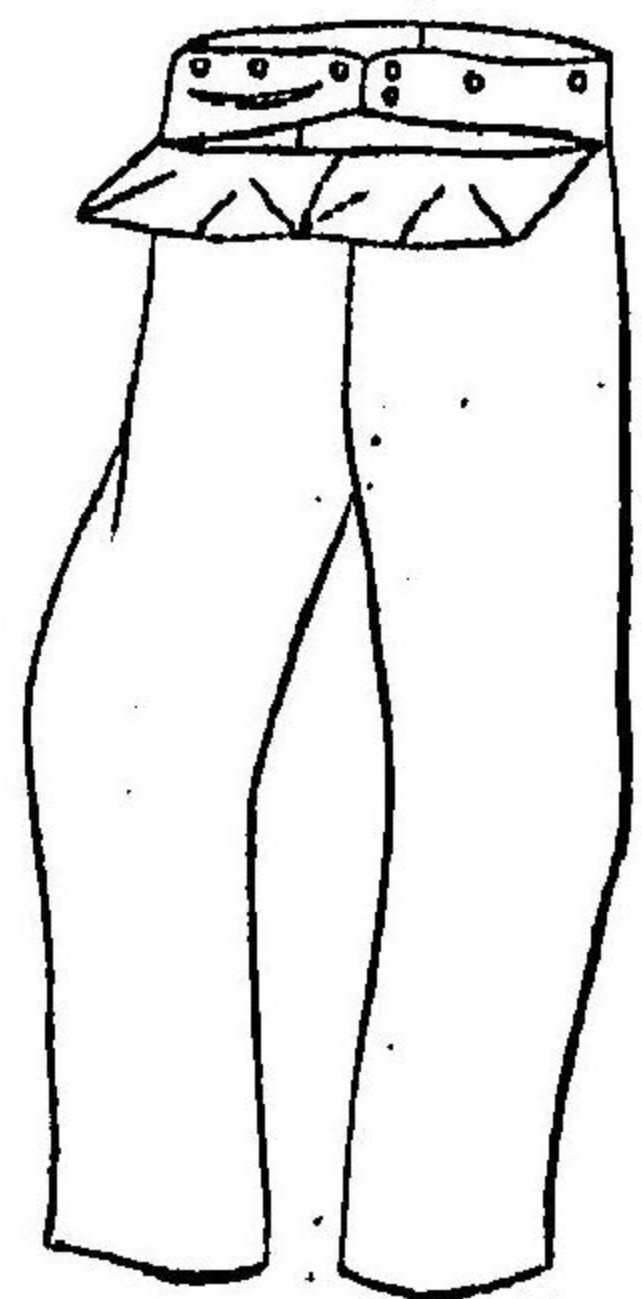


給使
丁
雨衣

頭巾

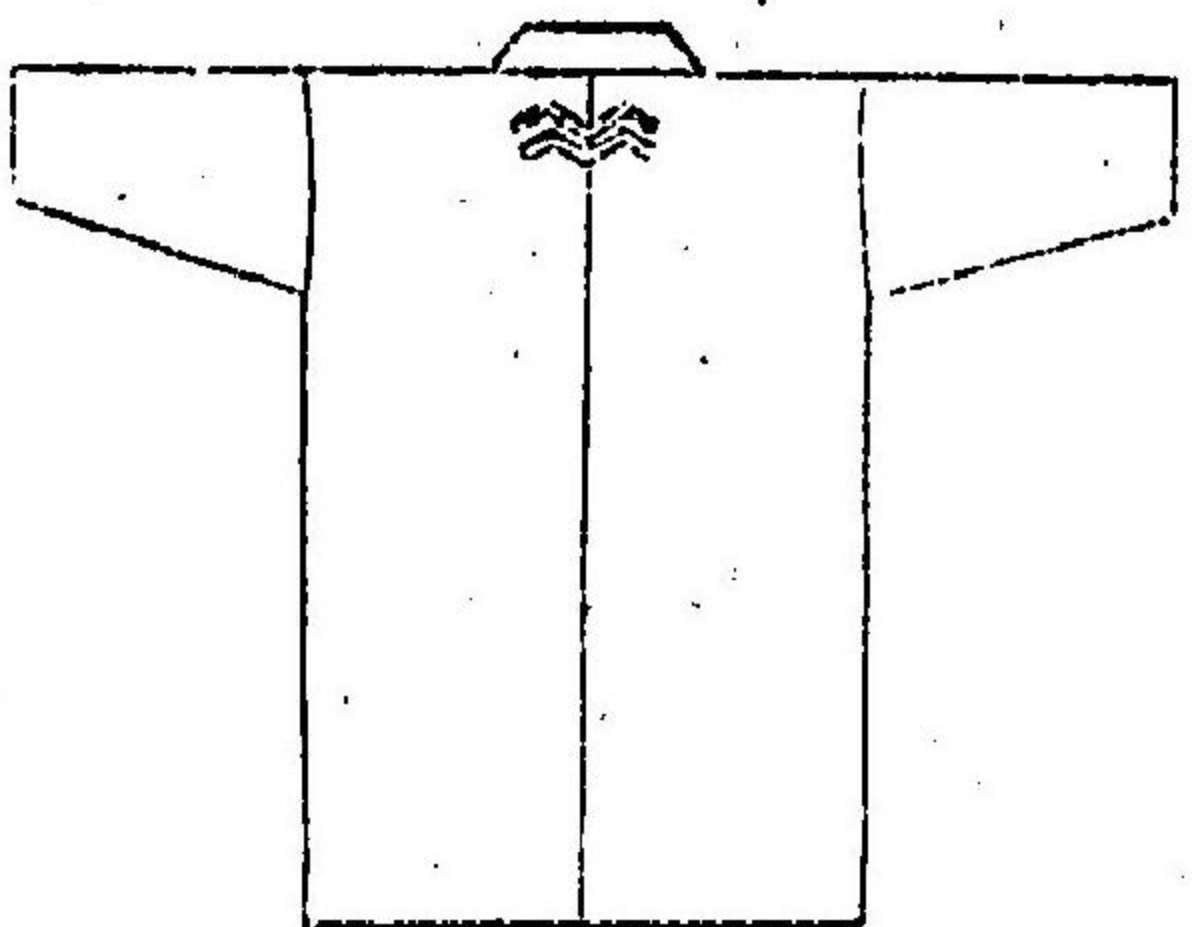
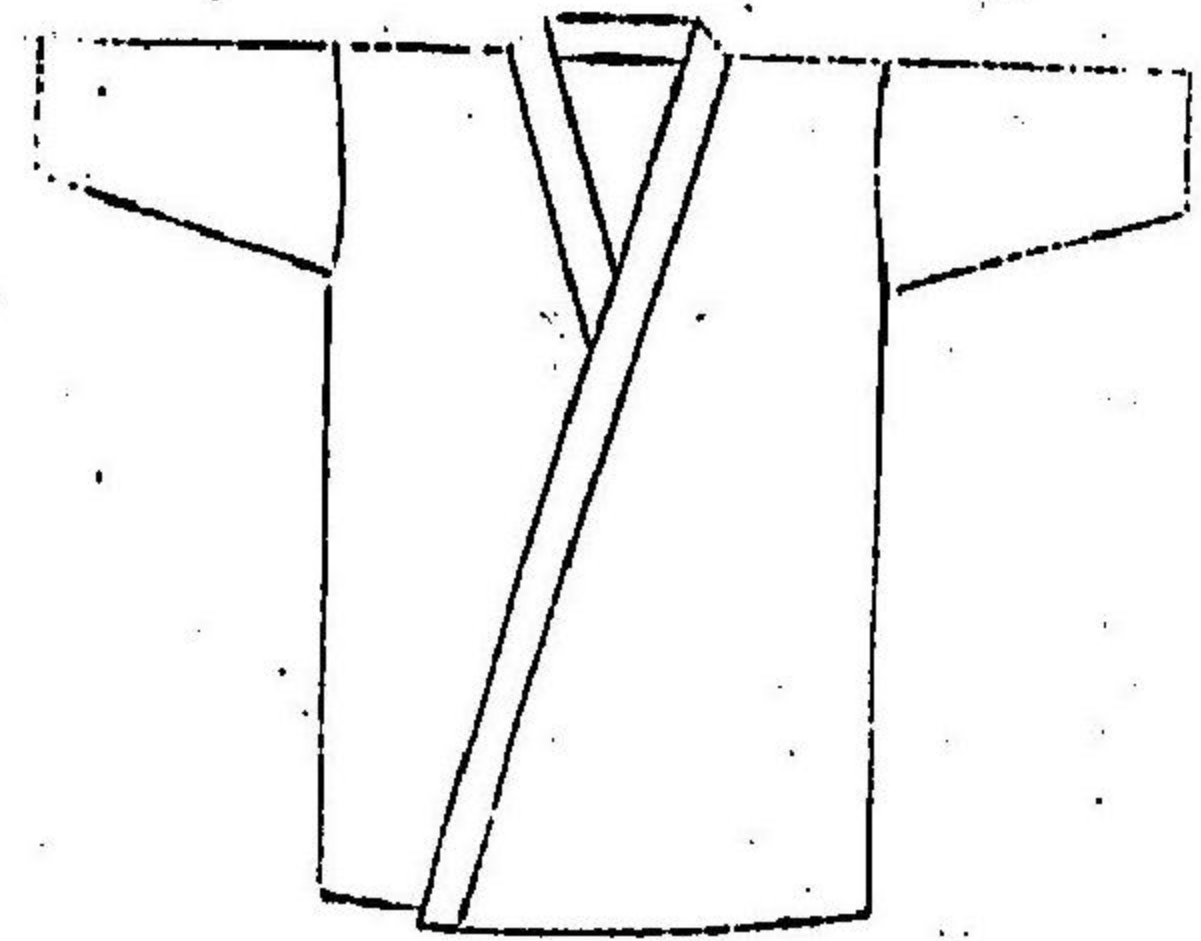
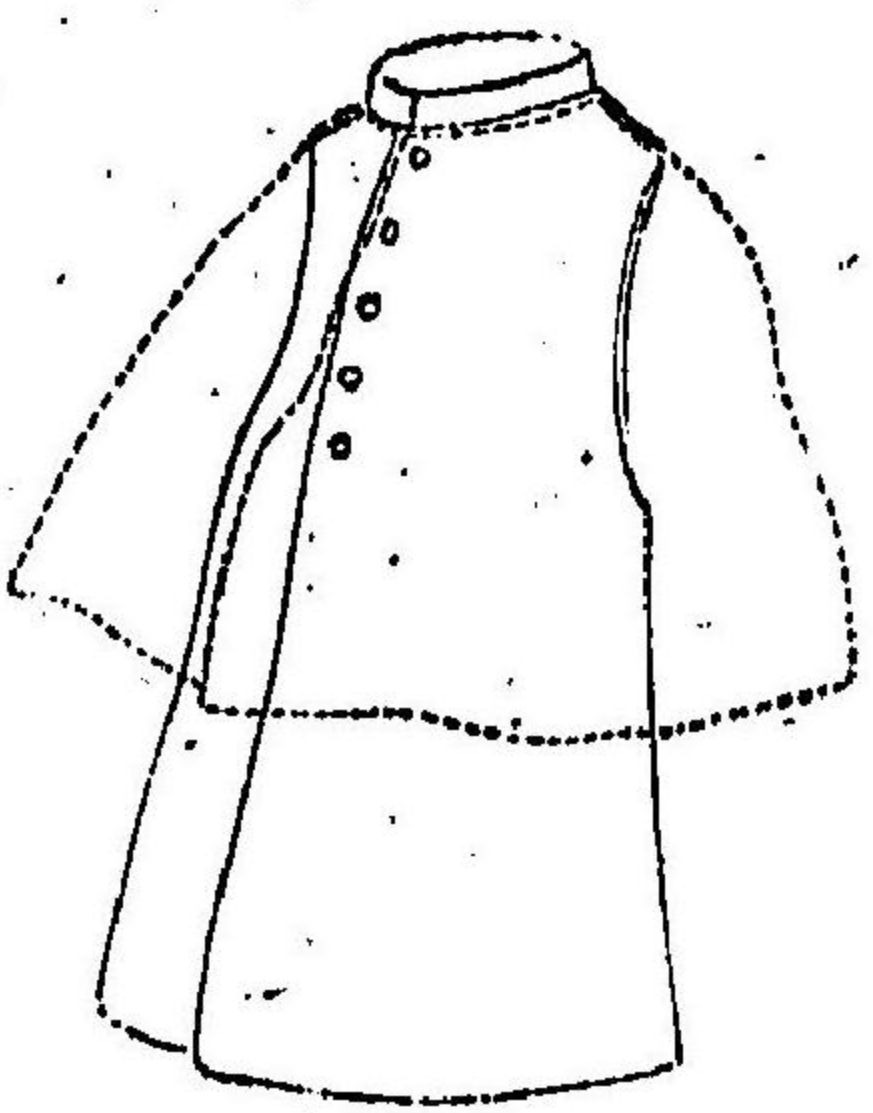
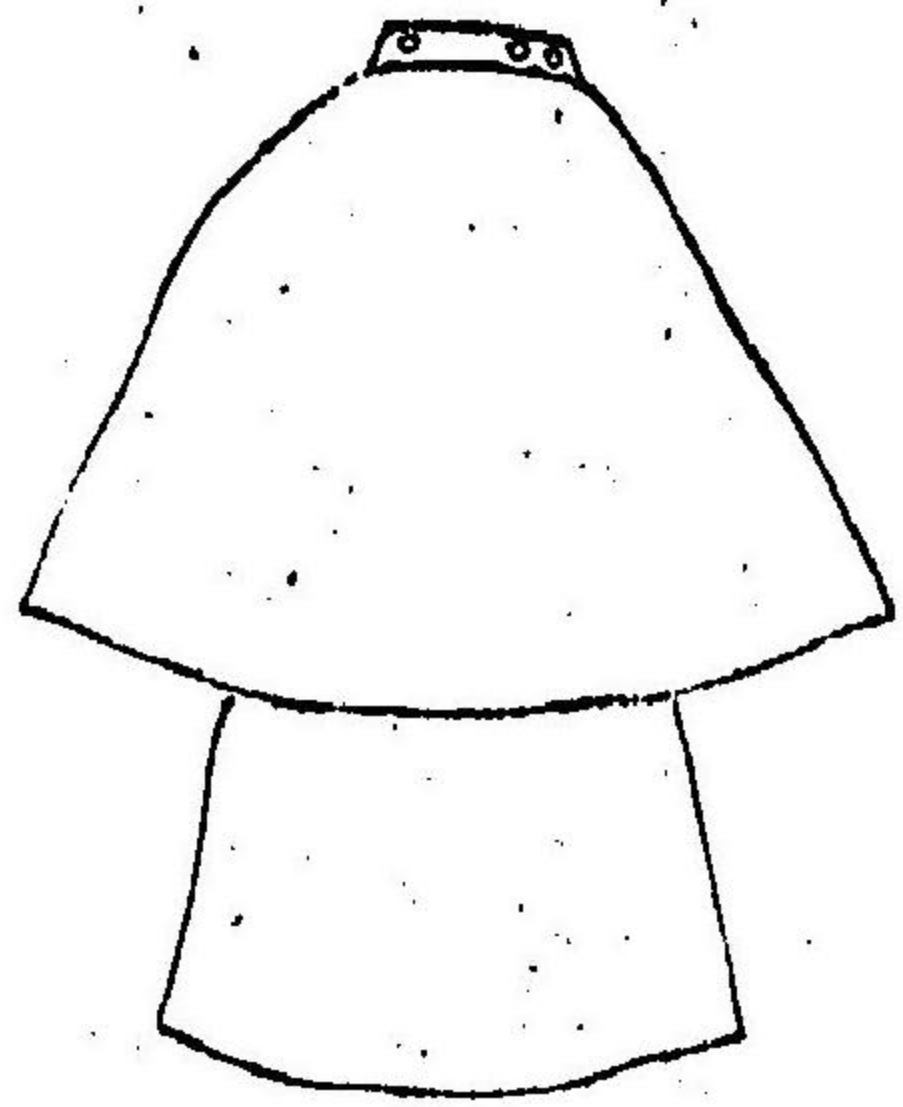


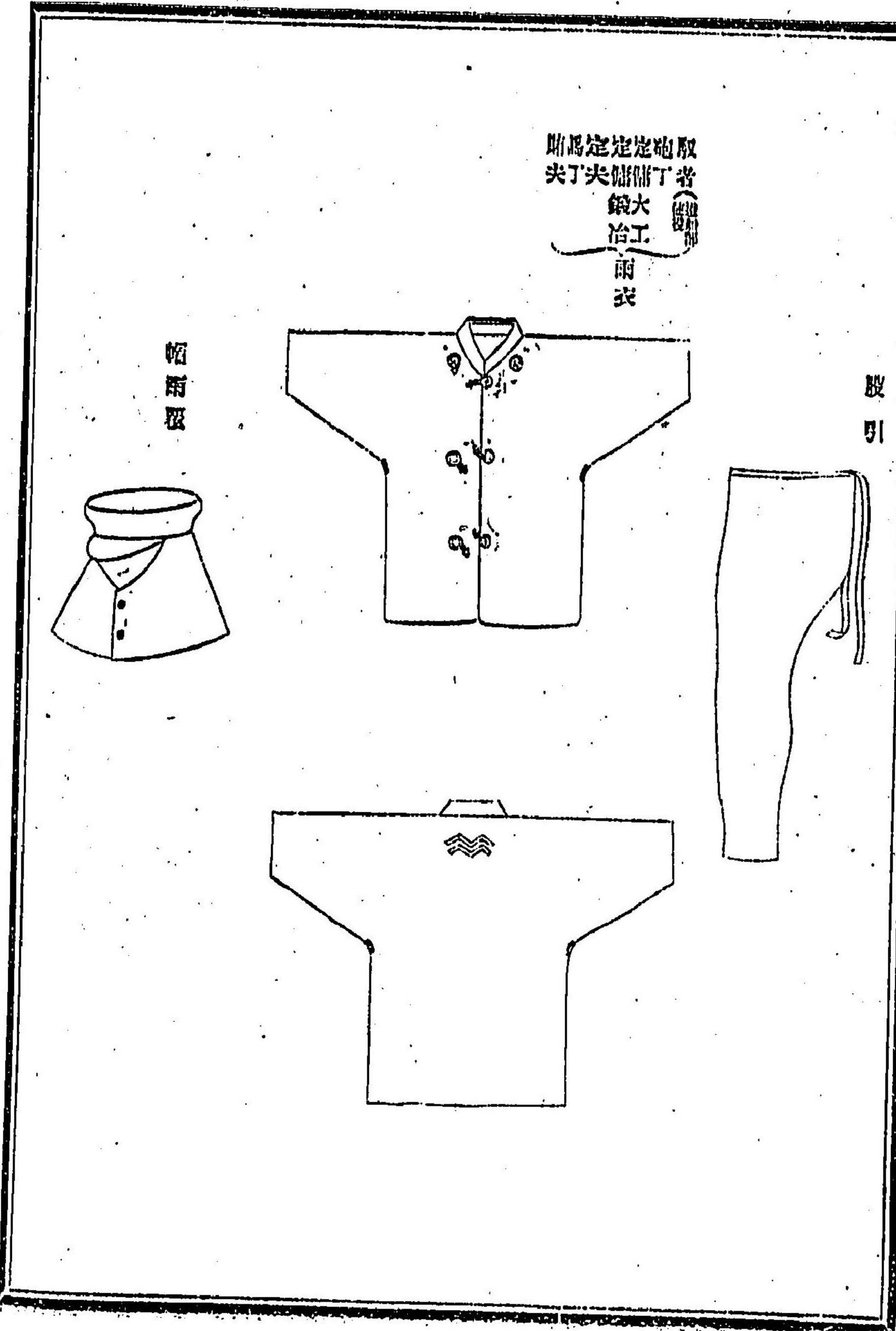
袴



職者
定丁
定備
定夫
定馬
大工
治
常服

法被





○海軍省選第三百九十一號
海軍造兵廠定員表中取縮掛ヲ監視長ト改ム
明治二十二年十月二日

○海軍省選第三百九十二號
本年八月選第三百七十七號海軍兵團補充員練習艦ニ乘組復習ノ件「水兵」ノ下ニ「火夫」ノ二字ヲ加フ
明治二十二年十月二日

○海軍省選第三百九十三號
軍人結婚ノ節ハ海軍武官結婚條例ニ依リ許可ヲ得タル後地方廳ニ願届ヲ爲スヘシ
明治二十二年十月二日

○海軍省選第三百九十四號
海軍會計監督規則中左ノ通追加ス
明治二十二年十月二日

第二條ニ左ノ但書ヲ加フ
但軍港外ニ在ル軍艦ニ於テハ艦長東京外及鎮守府所在地外ニ在リ事務監督官ヲ置カサル各
關ニ於テハ廳長検査員トナリ第二項ノ會計事務引繼ノ立會ヲ爲スモノトス
第五條第一項中諸給ノ下ニ其他文具料賫費備給諸手當職工入夫ノ賃金給料ヲ加ヘ同條ニ左
ノ二項ヲ加フ
十四 恩賞諸祿及雜部金 營業費 營業
資本ハ除ク

海軍大臣伯耆西郷從道
海軍大臣伯耆西郷從道
海軍大臣伯耆西郷從道

○海軍省選第三百九十五號
本年六月選第三百二十一號軍港外ニ在ル艦船等會計事務引繼立會方ノ件ヲ廢ス
明治二十二年十月 海軍省第三百九十五號

ニ掛ケ右腕ニ垂下ス

- 一 彈藥糞囊ハ右肩ニ掛ケ左腕ニ垂下ス
- 一 水筒ハ左肩ニ掛ケ右腕ニ垂下ス
- 一 手拭ハ衣袴ノ隠或ハ懐ニ收ム
- 一 針線石鹼櫛紙ハ外套ノ隠ニ收ム
- 一 毛織襪袴下足袋ヲ携帶セシムルトキハ豫備襪卷ニ包ミ外套ノ内ニ卷込ムモノトス但外套ヲ用ニルトキハ外套ノ下ニ於テ左肩ヨリ右腕ニ垂下ス

第十條 銃兵器ノ携方ハ左ノ如シ

甲 銃兵 銃兵器ノ携方ハ左ノ如シ

乙 銃兵 圓匙銃ノ銃部ヲ革室ニ入レ其革室ノ外部ニ於テ小革室ニ鑿ヲ差シ込ヨ背負革ヲ以テ左肩ニ掛ケ右腕ニ垂下ス

丙 銃兵 騎管銃及響刀ノ銃部ヲ各其革室ニ入レ兩端ヲ縛著シ背負革ヲ以テ左肩ニ掛ケ右腕ニ垂下ス

(携帶器具及其携方圖アリ略ス)

○海軍省選第四百四號
水路部定員表中間詰科ノ欄屬ノ下ノ七ヲ五ト改メ計算課ノ欄屬ノ下ノ三ヲ五ト改メ

明治二十二年十月四日
海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省選第四百五號
海軍通商物品會計規程第七條表中水路部長ノ下ニ圖詰科長ヲ加フ

明治二十二年十月四日

○海軍省選第四百六號
海軍生徒ニテ西南ノ役ニ從軍ノ日數及海軍五等卒若クハ准卒ニテ從軍ノ日數ハ恩給服役年ノ計算ニ算入スル儘ト心得ヘシ

明治二十二年十月四日
海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省選第四百七號
大砲放發年報別冊ノ編改定ス
但別冊渡方ハ兵器ト同シ (別冊略ス)

明治二十二年十月四日
海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省選第四百八號
横須賀鎮守府與鎮守府佐世保鎮守府衛兵最上限別表ノ通定

明治二十二年十月九日
海軍大臣伯爵西郷從道

(別表)

横須賀鎮守府	兵曹最上限人員	六	水兵最上限人員	四十
吳鎮守府	兵曹最上限人員	六	水兵最上限人員	四十
佐世保鎮守府	兵曹最上限人員	六	水兵最上限人員	二十八

○海軍省選第四百九號
鎮守府衛兵規則ヲ廢ス

明治二十二年十月九日
海軍大臣伯爵西郷從道

官職定員表

會計部	部長一員	三	書記	一四一八
軍醫部	部長一員	二	書記	二五
總計	五十二			

備考 書記ハ各課部トシテ其外トシテ主顧ヲ混用ス其職ノ數ハ各部毎ニ半數ヲ認ムルヲ得ス

屯田兵監獄職官定員表

備考	司令部所在地	位官				計
		區長	中尉	一等軍醫	曹長一 二等軍曹	
		一	一	一	看守長 書記	一
					看守卒	五
						九

○海軍省第四百十三號

停年計算停年名簿規則左ノ通定ス

明治二十二年十月十一日

海軍大臣伯爵西郷從道

停年計算停年名簿規則

- 第一條 海軍高等武官ノ實役停年ハ現任官ヲ以テ就職辭令ノ日ヨリ起算ス但進級スルモ更ニ補職ノ辭令ナク尙ホ前職ニアリシ者ハ本官官旨ノ日ヨリ起算ス
- 第二條 大學校軍醫學校及主計學校ノ學生タル間ノ日數 砲術水雷術又ハ機關術練習ノ爲メ練習艦乘組中ノ日數 外國軍艦乘組若ハ外國留學中ノ日數 國外乘組中ノ日數ハ實役停年ニ算入ス
- 第三條 休職停職收禁及刑罰中ノ日數ハ實役停年ニ算入セス明治二十一年十二月二十四日以前ノ

非職中ノ日數モ亦同レ但明治二十二年三月七日後廢職 定員改正滿期解任特別ノ職務ヲ終ヘ又ハ修學滿期ニ因リ休職トナリシ者ハ其日ヨリ一箇年限リ實役停年ニ算入ス

第四條 敵ノ捕虜トナルモ正當ノ理由アル者捕虜中ノ日數ハ實役停年ニ算入ス

第五條 明治二十一年十二月二十四日以前ノ待命中ノ日數ハ實役停年ニ算入ス

第六條 兵學校通學ヲ命セラレタル辭令ノ日ヨリ職課ヲ命セラレタル前日迄ノ日數ハ實役停年ニ算入ス依願通學中ノ日數ハ實役停年ニ算入セス

第七條 海上勤務中公務ニ原因セザル傷痍疾病其他公務ニ非サル事故ニ依リ陸上ニ在ル日數 退艦ノ前日マデハ海上勤務ニ算入セス

第八條 内外國艦船ニ學術研究若クハ實地練習トシテ乘組中ノ日數及員外乘組中ノ日數ハ海上勤務ニ算入セス

第九條 陸上勤務ノ者ニシテ海上勤務ヲ兼ル者ノ勤務日數ハ海上勤務ニ算入ス

第十條 實役停年海上勤務ノ算出ハ總テ辭令ノ日ヲ以テス

第十一條 端日數ハ三十日ヲ以テ一箇月ニ算シ端月數ハ十二箇月ヲ以テ一箇年ニ算ス

第十二條 海軍高等武官實役停年名簿ハ現役高等武官ヲ實役停年ノ多少ニ從ヒ記列スルモノトス但停職者ハ記列セス

第十三條 奏任一等ノ大佐及同等官委任四等ノ大尉及同等官ハ其等ニ進ミタル後ノ停年ノ多少共他ハ現任官ニ進ミシ後ノ停年ノ多少ニ從ヒ記列ス

第十四條 實役停年同キ者ハ武官名簿ノ序次ニ從ヒ記列ス

第十五條 停年名簿ハ毎年三月一日ヲ以テ改正ス

第十六條 停年名簿ノ書式ハ左ノ如シ (書式略)

○海軍省建第四百十四號

砲術練習艦甲種教程中長教程ノ最後ニ左ノ通過加ス

明治二十二年十月十一日

海軍大臣伯爵西郷從道

追加科目(練習日數六日)

- 一 一般打方ノ利害
 - 一 集彈發射法
 - 一 砲塔砲(バーベット)體及舷側裝砲體發砲電路ノ誘導及著色識別法並ニ電路ノ抵抗力測
 - 一 定電用電池試驗(電池ノ構造其取扱法及其位置)
 - 一 其他發火電路ノ用法說明
 - 一 電流計ノ用法並ニ電池及電路ノ試驗法
 - 一 地電路ト復歸線ノ優劣比較論
- 右練習日數ハ甲種長教程履行ノ日數内ニ於テ施行ス可シ

○海軍省建第四百十五號

海兵團徵募官服務規則左ノ通定ス

明治二十二年十月十一日

海軍大臣伯爵西郷從道

海兵團徵募官服務規則

第一條 海兵團徵募官ノ所掌事務ハ左ノ如シ

- 一 新兵ノ徵募及徵集ニ關スル事項
- 二 豫備兵後備兵ノ編入及之ニ關スル事項
- 三 豫備兵後備兵ノ招集及簡閱點呼ヲ爲ス事

四、兵員ニ履歷書ヲ交付スル事

五、兵員ノ名簿履歷簿徵募原簿ヲ整理スル事

六、補充兵ノ名簿ヲ整理スル事

七、兵員ノ異動ニ係ル報告統計ヲ爲ス事

第二條 徵募官ハ左ノ簿冊ヲ主管ス

一、徵募原簿

二、兵員補充名簿

三、現役兵名簿及履歷簿

四、豫備後備後役兵名簿及履歷簿

第三條 名簿ハ兵種コトニ區別シ服役滿期ノ年月ニ依リ再之ヲ區別シ官職等級ノ順序ヲ以テ記列

シ履歷簿ハ兵種コトニ編綴シ入籍番號ノ順序ニ依リ記列シ増減異動アルコトニ訂正ヲ加フ可シ

第四條 疾病ニ依リ免官免役トナリ又ハ死亡シタル者ノ兵籍ハ種類ヲ分チ之ヲ別簿ト爲シ三箇年

間保存ス可シ

第五條 徵募官ハ主務ニ係ル諸文案ノ起草ヲ掌リ又附屬書記ノ勸怠及行狀ヲ監視ス可シ

第六條 徵募官ハ徵募事務ニ關シ意見アルトキハ之ヲ團長ニ具申ス可シ

第七條 徵募官ハ主管ノ名簿履歷簿ノ異動ニ係ル事件ニ於テハ其名ヲ以テ艦團隊各屬ニ對シ照會

往復スルコトヲ得

第八條 徵募官ハ兵員補充ヲ要スルニ當テハ兵員補充名簿ノ順序ニ依リ補充員ヲ指名シ團長ニ具

申スルニ毫モ滯滞ナキヲ期ス可シ

第九條 徵募官ハ第二條ニ掲グル簿冊ノ外其主管ニ關スル公文書類ヲ編綴保存ス可シ

第十條 徵募官兵員死亡ノ通知ヲ受ケタルトキハ其病歴書ヲ添ヘ海兵團ノ名ヲ以テ地方廳ニ通報ス可シ

第十一條 徵募官ハ左ニ掲グル現役兵ノ異動ニ關シテハ第一表ヲ作り現役兵ノ現員ニ關シテハ第二表ヲ作り毎月二十日迄ニ團長ニ出ス可シ

一、進級、増給

二、入院、退院、死亡

三、逃亡、歸投捕獲、入監、出監

四、徵募、轉職、再服役

五、免官、免役、豫備役編入

第十二條 徵募官新兵徵募ノ爲メ出張スルトキハ軍醫以下ノ隨行員ヲ監督ス可シ

第十三條 徵募官新兵徵募ニ際シ一地方ニ於テ合格者不足ニシテ配當シタル人員ヲ徵募スル能ハサルトキハ其徵募人員ヲ更ニ他ノ地方ニ配當ス可シ

前項ノ配當ハ志願人員ヲ以テ率トス可シ

第十四條 徵募官新兵徵募ニ際シ一地方ノ募兵事務終リタルトキハ第三表ヲ作り其事務完結シタルトキハ第四表ヲ作り之ニ意見ヲ附シ其都度海兵團長ヲ經テ鎮守府司令長官ニ呈出ス可シ

(第一表ヨリ第四表ニ至ル程形略ス)

○海軍省違第四百十六號

禮砲條例國旗掲揚規則其他法令規則中ニ國旗我海軍ニ就テ記取シタルモノヲ云フトアルハ軍艦旗ト心得可シ又滿艦飾艦飾等ノ場合ニ於テモ亦之ニ準ス可シ

明治二十二年十月十二日

海軍大臣伯爵西鄉從道

○海軍省違第四百十七號

自今工夫ノ入籍番號ハ左ノ例ニ依リ第一號ヨリ順次付與スヘシ

明治二十二年十月十二日

海軍大臣伯爵西鄉從道

橫須賀鎮守府 兵部部 入籍

横濱何號

吳鎮守府 兵部部 入籍

吳何號

佐世保鎮守府 兵部部 入籍

佐世保何號

小野濱造船所 入籍

小野濱何號

造兵廠 入籍

造兵何號

火藥工廠 入籍

火工何號

○宮内省違第十九號

明治二十一年十一月宮内省違第二十二號主殿寮勅奏任官大禮服徵章表中奏任官ノ下ニ(四等以上)ノ四字ヲ注シ同表ノ末尾ニ左ノ一項ヲ追加ス

一 奏任官五等六等ニ在テハ上衣前面ノ菊模樣ヲ七枝トシ袖章ノ菊模樣ヲ一枚トス

明治二十二年十月十六日

宮内大臣子爵土方久元

○宮内省違第二十號

明治二十一年十二月宮内省違第二十四號主馬頭以下大禮服制表中標目(頭)及(權頭助權助)ノ二欄ヲ左ノ如ク改メ同表ノ末尾ニ更ニ一項ヲ追加ス

頭 勅任 頭 勅任 勅任 等以上

一 委任官五等六等ノ勳ニ在テハ上衣前章ノ菊模樣ヲ七枝トシ袖章ノ菊模樣ヲ一枝トス
明治二十二年十月十六日
奉 勅
宮内大臣子爵土方久元

○陸軍部第四百五十五號

屯田兵ニ醫員看病人磨工ヲ附シ其定員左ノ通定ム

明治二十二年十月十八日

陸軍大臣伯爵大山 巖

一大隊ニ

醫 員

三名 遊離ノ地ニ分屯スル中隊及編成中隊ニ在テハ一名三中队ノ大隊ニ在テハ二名トス

看病人

若干名 二名トス

軍醫部ニ

磨 工

監獄ニ

看病人

二名

○陸軍部第四百五十六號

屯田兵醫員及看病人磨工取扱左ノ通定ム

明治二十二年十月十八日

陸軍大臣伯爵大山 巖

- 第一條 屯田兵醫員ノ取扱ハ左ノ各項ニ據ル
- 一 醫員ハ軍醫長若クハ屯田兵大隊附醫官ノ指揮ヲ受ケ衛生ノ事ニ服セシム
- 二 醫員ハ醫術開業免許所持ノ者ニシテ備員トナシ之ヲ採用スヘシ
- 三 醫員召募ノ格例ハ屯田兵司令官之ヲ定ムヘシ

四 採用シタル醫員ノ指官ハ明治十四年達乙第四號ニ據ル

五 醫員ノ俸給ハ屯田兵司令官之ヲ定ムヘシ

六 醫員ニ増俸スヘキモノアルトキハ軍醫長ニ於テ勤務行狀等其増俸スヘキ理由ヲ悉シテ屯田兵司令官ニ具申シ司令官ハ尙密査シテ之ヲ決スヘシ

第二條 屯田兵看病人磨工ノ取扱ハ左ノ各項ニ據ル

一 看病人ハ各隊及監獄ニ置キ患者ノ看聽其他診斷所藥室ノ雜務ニ服セシム

二 磨工ハ屯田兵軍醫部ニ置キ治療器械等ノ研磨修理ノ事ニ服セシム

三 看病人磨工ハ備員ニシテ其給料ハ屯田兵司令官之ヲ定ムヘシ

四 看病人磨工ハ其部隊ニ於テ屯田兵ノ子弟又ハ民間ヨリ志願者ヲ採用ス但陸軍看病人磨工召募準則第十二條ノ各項ニ當ルモノハ採用スヘカラス

五 看病人ノ被服調製式及其代金給與手續ハ陸軍看病人被服調製式及被服代金給與手續ニ據リ磨工ノ戰時若クハ事變ニ際シ貸與スヘキ被服調製式モ亦該手續ニ據ルヘシ

六 前項ノ外尙陸軍看病人磨工召募準則第三條第六條乃至第九條及第十一條第十三條第十五條乃至第二十一條ヲ適用スヘシ

○海軍省達第四百十八號

本年三月達第三十八號海軍軍樂練習所條例ニ左ノ一條ヲ加フ

明治二十二年十月十八日

海軍大臣伯爵西郷從道

第十條 軍樂師ノ内一人ハ所長ノ命ヲ受ケ樂器ヲ保護並噴ス可シ

○海軍省達第四百十九號

本年三月達第五十二號但書續發ノ下ニ及在外官吏ノ五字ヲ加フ

明治二十二年十月十八日

海軍大臣伯爵西郷從道

第五十二號但書續發ノ下ニ及在外官吏ノ五字ヲ加フ

○海軍省達第四百十九號

本年三月達第五十二號但書續發ノ下ニ及在外官吏ノ五字ヲ加フ

明治二十二年十月十八日

海軍大臣伯爵西郷從道

第五十二號但書續發ノ下ニ及在外官吏ノ五字ヲ加フ

明治二十二年十月十八日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省令第四百二十號

海軍機關學校定員表二等主帳二ノ次ニ三等主帳一ヲ加ヘ二等廚夫ノ下ノ二ノ三ニト改メ三等廚夫ノ下ノ二ノ三ヲ四ト改メ

明治二十二年十月十八日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省令第四百二十一號

海軍大學校條例第二十二條事務ノ下ニ本校ノ一三ノ字ヲ加ヘ第三十條左ノ通改正ス

明治二十二年十月十八日

海軍大臣伯爵西郷從道

第三十條 主計ハ主計長ヲ佐ケ主計學校建築練習所ノ會計給與ヲ分擔シ其庶務ヲ掌リ書籍器械

除クハヲ保管シ主計長事故アルトキハ其代理ヲ爲ス

○海軍省令第四百二十一號

海兵團規則左ノ通定ス

明治二十二年十月二十一日

海軍大臣伯爵西郷從道

海兵團規則

第一條 海兵團ノ紀律ハ一ニ軍艦ニ準ス

第二條 海兵團ノ日課ハ軍艦兵員部警備式ニ據ケル日課定則ニ準シテ施行ス

第三條 海兵團在營ノ下士卒中軍艦及隊屬定員ノ補缺ニ充ツヘキ者ヲ補充兵ト稱シ五等卒ヲ新兵ト稱ス

第四條 分隊ハ分テ若干ノ小分隊トス

一分隊ノ人員ハ百四十八ヲ定限トシ小分隊ノ人員ハ二十八ヲ定限トス

第五條 小分隊ハ左ノ區別ニ從ヒ編制スルモノトス但一項ノ人員十人ニ滿タサルトキハ他項ノモノヲ併セテ小分隊ヲ編制ス可シ

一、兵曹及水兵 八項ニ當ル者ヲ除ク

二、掌砲兵 八項ニ當ル者ヲ除ク

三、掌水雷兵 同上

四、信號兵 同上

五、船匠手鍛冶手木工及鍛冶上

六、看護手及看護夫 同上

七、主帳及廚夫 同上

八、軍港各屬勤務ノ下士卒

第六條 機關手火夫ハ條例第三條ニ依リ一部若クハ若干部トシ部ヲ分テ若干小部トス

部ノ人員小部ノ人員ハ分隊小分隊ニ同シ

第七條 海兵團ニ衛兵ヲ置ク

海兵團衛兵ノ規則ハ艦内衛兵規則ニ依ル

第八條 衛兵ハ各分隊ヨリ平均ニ定員中ノ兵曹水兵ヲ取リ之ニ充ツ

第九條 衛兵ハ團長室士官室禁錮室トキハ警門倉庫及軍港内ノ官廳藥庫其他番兵ヲ要スル所ニ

配置ス

第十條 定員中ノ主帳若干名ヲ書記トシテ徵募官ニ屬シ其命ヲ受ケ服務セシム

第十一條 補充員ハ豫備職非役職及各屬ニ於テ臨時ノ業務アルトキ使役スルコトヲ得

臨時補充員ヲ使役セントスルトキハ艦長廳長ヨリ軍港司令官ニ申出該司令官ヨリ團長ニ通達ス

ルモノトス

- 第十二條 在營ノ下士卒品行不正勸務怠慢又ハ屢刑罰ニ處セラレ軍紀風紀ニ害アル者ハ懲治員ト爲シ他ノ下士卒ト區別シ勸務ノ外營内ノ雜役ニ服セシム
- 第十三條 團長定員補充ノ請求ヲ受ケタルトキハ速ニ海軍下士卒補充規則ニ依リ補充スヘシ但補充ノ前軍醫長ヲシテ身體ヲ検査セシメ勸務ニ堪ヘサル者アルトキハ次期ノ補充ニ充ツ可シ
- 第十四條 團長下士卒ヲ懲治員ト爲シ又ハ復隊セシムルトキハ分隊長ニ諮問シ之ヲ處分ス可シ機按部軍醫部主計部ノ下士卒ナルトキハ分隊長機關長軍醫長主計長ニ諮問シ之ヲ處分ス可シ
- 第十五條 團長ハ團營火災消防ノ爲メ防火部ヲ定メ不虞ノ變ニ備フヘシ
- 第十六條 團長ハ常ニ紀律及教育上ノ得失ヲ考察シ意見アルトキハ之ヲ軍港司令官ニ具申ス可シ
- 第十七條 團長紀律及教育ニ關シ會議ヲ要スルコトアルトキハ副長分隊長機關長ヲ會同シ會議ヲ開キ團長隨長トナリ審議決定ス可シ但時宜ニ依リ軍醫長主計長ヲ會同セシムルコトヲ得
- 第十八條 團長ハ新兵ノ卒業者アルコトニ其試驗成績表ヲ製シ之ヲ軍港司令官ニ出ス可シ
- 第十九條 團長ハ徵募官派出ノ期ニ先チ隨行セシムヘキ主帳看護手ヲ海兵團定員中ヨリ撰定シ鎮守府司令官ニ具申ス可シ
- 第二十條 團長ハ毎月徵募官ヨリ出シタル兵員異動表及現役兵員調ヲ鎮守府司令官ニ進達シ又第一局長ニ出ス可シ
- 第二十一條 副長ハ營内警察ノ事ヲ擔任シ且分隊長以下諸員ノ勉否ヲ監視ス可シ
- 第二十二條 副長ハ團長ノ命ヲ受ケ諸部署表ヲ調製シ且課業ニ係ル事ヲ整理ス
- 第二十三條 副長ハ團長ノ命ヲ受ケ教授及試驗ノ事ヲ整理ス
- 第二十四條 分隊長ハ隊員ノ勸怠及行狀ヲ監視シ志操ヲ養成スルヲ任トス又隊員ノ教授及試驗ノ事ヲ掌リ且部務ヲ整理ス

事ヲ掌リ且分隊ノ事務ヲ整理ス

- 第二十五條 分隊長ハ各部署ノ長ト爲リ部署員ヲ訓練シ各自負擔ノ兵器要具ヲ整理セシム可シ
- 第二十六條 分隊長ハ隊員中懲治スヘキ者アルトキハ副長ヲ經由シ團長ニ具申ス可シ
- 第二十七條 分隊長事故アルトキハ他ノ分隊長其代理ヲ爲ス可シ
- 第二十八條 徵募官ハ別ニ定ムル所ノ服務規則ニ依リ其主務ヲ整理ス
- 第二十九條 機關長ハ其部下諸員ノ勸怠及行狀ヲ監視シ志操ヲ養成スルヲ任トス又教授及試驗ノ事ヲ掌リ且部務ヲ整理ス
- 第三十條 機關長ハ部員中懲治スヘキ者アルトキハ副長ヲ經由シ團長ニ具申ス可シ
- 第三十一條 機關士ハ機關科各部ノ長ト爲リ其部下ヲ統率シ機關長ノ命ヲ受ケ教授及試驗ノ事ヲ擔任シ且部務ニ服ス又機關長事故アルトキハ先任ノ者其代理ヲ爲ス
- 第三十二條 軍醫長事故アルトキハ先任ノ軍醫其代理ヲ爲シ主計長事故アルトキハ先任ノ主計其代理ヲ爲ス
- 第三十三條 警砲長ノ中一人ハ兵器彈藥ヲ保護整理シ其主管ニ屬スル需用物品ヲ出納シ一人ハ砲術ノ教授ニ從事ス
- 第三十四條 掌水雷長ハ其主管ニ屬スル器具物品ヲ保護出納シ又水雷術ノ教授ニ從事ス
- 第三十五條 掌帆長ノ中一人ハ帆綱端舟其他ノ船具ヲ保護整理シ其主管ニ屬スル需用物品ヲ出納シ一人ハ運用術ノ教授ニ從事ス
- 第三十六條 船匠師ノ中一人ハ端舟ノ保護及營内匠作ノ事ヲ擔任シ其主管ニ屬スル需用物品ヲ保護出納シ一人ハ木工ノ教授ニ從事ス
- 第三十七條 機關師ノ中一人ハ海兵團附屬蒸氣船ノ機關ノ事ヲ擔任シ一人ハ機關部下士卒ノ教授

ニ従事ス

- 第三十八條 信號教授ハ信號練習兵ノ教授ニ従事ス
- 第三十九條 教員ハ各分隊長機關長ニ分屬シ下士卒ノ教授ニ従事ス
- 第四十條 伍長ハ各分隊ニ分屬シ小分隊又ハ小部ノ長ト爲リ隊務部務ニ従事シ又衛兵司令ノ指揮ヲ受ケ衛兵伍長ノ勤務ヲ爲ス
- 第四十一條 艦長ハ艀舟ヲ保管シ及其屬具ヲ整頓ス
- 第四十二條 海兵團定員中本則ニ於テ其職務ヲ掲記セサル者ハ總テ軍艦職員條例ニ依リ服務スルモノトス

○海軍省第四百二十三號

海軍信號練習兵規則ヲ廢シ信號練習生規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治二十二年十月二十一日

海軍大臣伯爵西郷從道

信號練習生規則

- 第一條 信號練習生ハ喇叭旗號ノ信號ヲ練習セシムルモノトス
- 第二條 信號練習生ハ横須賀鎮守府海兵團ニ於テ教育ス
- 第三條 練習生ト爲ス可キ者ハ四等水兵ニシテ信號練習生トシテ志願シ左ノ諸項ニ適合ノ者タル可シ
 - 一、呼吸系ニ異狀ナキ者
 - 二、齒列齊密ナル者
 - 三、視力異狀ナキ者
 - 四、處刑及賭博犯ノ處分ヲ受ケケル者

五、試験ニ合格ノ者

- 第四條 練習生ニ採用ス可キ人員ハ其須要ニ應ジ鎮守府コトニ定ム
- 第五條 練習生採用ノ途アリタルトキハ艦隊學校及各艦長ハ其部下四等水兵ノ志願人中ヨリ第三條中第五項ノ外各項ニ適合スル者ヲ選拔シ其職姓名ヲ横須賀鎮守府海兵團長ニ通知ス可シ
- 第六條 横須賀鎮守府海兵團長前條ノ通知ヲ得タルトキハ試験問題ヲ作り艦隊學校及各艦長ニ送附ス各長ハ試験ヲ行ヒ其答書ヲ横須賀鎮守府海兵團長ニ送附ス可シ
試験ハ總テ筆記ヲ以テ應答セシム
- 第七條 試験ハ讀書、作文、算術ノ三科トス
讀書ハ假名交リ文、算術ハ四則作文ハ通俗文ヲ程度トス
- 第八條 横須賀鎮守府海兵團長ハ受験者ノ成績表ヲ作り各鎮守府コトニ合格者ヲ區別シ成績ノ順序ヲ以テ職姓名ヲ列記シ入營期日ヲ定メ軍港司令官ヲ經由シ横須賀鎮守府司令長官ニ進達ス可シ
- 第九條 横須賀鎮守府司令長官前條ノ進達書ヲ受ケタルトキハ他鎮守府海兵團ニ屬スルモノヲ各共司令長官ニ送附ス可シ
鎮守府司令長官ハ合格者ニ就キ取捨ヲ加ヘ艦隊學校及各艦長ヲシテ練習生ヲ命シ期日以内ニ入營セシム可シ
- 第十條 合格者ノ數所定ノ人員ニ超過スルトキハ試験成績ノ順序ニ依リ成績同シキ者ハ等級ノ順序ニ依リ練習生ヲ命スルモノトス
- 第十一條 練習生ノ學期ハ一箇年トシ之ヲ四期ニ分テ每期ヲ三箇月トス其學科ハ左ノ如シ

學期	科目		備考
	第一	第二	
第一	喇叭	喇叭	喇叭吹奏力
第一	旗	旗	旗吹奏力
第二	喇叭	喇叭	喇叭吹奏力
第二	旗	旗	旗吹奏力
第三	喇叭	喇叭	喇叭吹奏力
第三	旗	旗	旗吹奏力
第四	喇叭	喇叭	喇叭吹奏力
第四	旗	旗	旗吹奏力
備考	日本小史		日本小史

第十二條 試驗ハ小試驗大試驗ノ二種トス
 第十三條 小試驗ハ每期ノ終ニ之ヲ行ヒ大試驗ハ全學期ノ終ニ之ヲ行フ
 第十四條 小試驗及大試驗ノ及第點數ハ本科ハ全點十分ノ五以上別科ハ全點十分ノ四以上トス
 第十五條 大試驗ノ成績ハ全科小試驗平均ノ得點ト大試驗得點トヲ合算シテ之ヲ定ム
 第十六條 第二期小試驗ヲ終ルノ後第一期第二期小試驗ニ及第ノ者ハ三等水兵ニ進級セシム

第十七條 大試驗ニ及第シタル者ニハ信號卒業證書ヲ授與ス
 第十八條 卒業證書ハ左項ノ一ニ依リ試驗ノ成績ニ應シ一等若クハ二等トス
 第一 本科全點數十分ノ七以上別科全點數十分ノ六以上ヲ得タル者ヲ一等トス
 第二 本科全點數十分ノ五以上別科全點數十分ノ四以上ヲ得タル者ヲ二等トス
 第十九條 大試驗ニ落第シタル者ハ二箇月以内尙在營セシメ再試驗ヲ行フコトヲ得而シテ及第ノ者ニハ二等卒業證書ヲ授與ス
 第二十條 大試驗若クハ共再試驗ニ落第シタル練習生及學科履行中怠慢又ハ不行狀ニシテ卒業ノ前途ナキ者横須賀鎮守府海兵團在籍ナルトキハ團長軍港司令官ヲ經由シ司令長官ノ認可ヲ得テ練習生ヲ免シ他團在籍ノ者ナルトキハ本籍海兵團ニ送附シ之ヲ該團長ニ通知ス可シ該團長ハ各其所屬軍港司令官ヲ經由シ司令長官ノ認可ヲ得テ練習生ヲ免ス可シ

○陸軍第四百四十七號
 屯田兵一大隊編制別表ノ通制定セラル
 明治二十二年十月二十二日

陸軍大臣伯耆大山 巖

屯田		區分	階級	職	員
少尉	中尉				
二	二	一	大隊長	一	一
二	二	一	中隊長	一	一
五	五	一	副官	一	一
二	二	一	隊員	一	一
二	二	一	隊員	一	一
二	二	一	隊員	一	一
二	二	一	隊員	一	一
二	二	一	隊員	一	一
二	二	一	隊員	一	一

兵 一 大 隊 編 制 表

階級	一等軍曹	二等軍曹	上等兵	一等卒	二等卒	合計
實長	七					七
下副官						一
一等軍曹						一
二等軍曹						一
上等兵						一
一等卒						一
二等卒						一
合計	七					七

大隊本部ノ大中尉一ハ大隊給養官軍曹七ノ内三名ハ武器掛給養掛副隊長二名ハ書記
 二名ハ隊務掛ノ分限トス
 中隊附一等軍曹ノ内一名ハ給養掛同二等軍曹ノ内一名ハ給養掛助手トス
 中隊附人員中下士ニ任用スルコトアルモ北隊ヲ補ハス
 中隊兵卒四名ハ副隊長トシ又少クモ隊工二名ヲ含有ス
 醫官ノ定員ハ水鏡ノ如シト雖モ遠隔ノ地ニ分屯中隊アル大隊ニハ醫官一名ヲ附スル
 コトアルヘシ

○海軍省令第四百二十四號
 海軍通常物品會計規程第七條表中鎮守府ノ内造船部長ノ下次等命令官ノ欄製造科長ヲ左ノ通改
 正ス
 明治二十二年十月二十二日
 海軍大臣伯耆西郷從道

製造科主幹官

○陸軍省令第四百十八號
 衛生部見習醫官見習藥劑官手當金左ノ通定ム
 明治二十二年十月二十三日
 陸軍大臣伯耆大山 殿

一箇月手當金 拾貳圓
 但任官等諸日數ノ支給法ハ陸軍給與概則ニ據ル

製造科主幹官

○海軍省令第四百二十五號
 海軍造兵廠處務細則左ノ通定ム
 明治二十二年十月二十三日
 海軍大臣伯耆西郷從道

第一章 職務及權限

- 第一條 廠長事故アルトキハ特ニ代理ヲ命スルトキハ外先任科長其事務ヲ代理スヘシ
- 第二條 廠長ハ此細則ニ掲ケル各科課所掌事項外ニシテ臨時調査ヲ要スル事項アルトキハ臨時廠員ニ委員ヲ命シ共事ニ從ハシムルコトヲ得
- 第三條 先任科長廠長ノ事務ヲ代理スルトキハ共指示ニ從ヒ委任セラレタル事務ヲ處理スヘシ而シテ上申何等ハ廠長ノ名ヲ以テ發付スヘシ
- 第四條 製造科長造修ニ附セラレタル兵器中購入スヘキモノト認定シタルモノアルトキハ意見ヲ廠長ニ辭述スヘシ
- 第五條 製造科長機械器具ノ製造ヲ要スルトキハ廠長ノ許可ヲ受クヘシ

第六條 製造科長工業獎勵ノ際工場ノ早出居殘夜業等ヲ爲サシメントスルトキハ事由ヲ記載シ廠長ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 製造科長検査科長兵器ノ制式圖ヲ制定シ或ハ之ヲ改正スル意見アルトキハ廠長ノ許可ヲ受クヘシ

第八條 製造科長検査科長ハ特撰工ヲ除クノ外工業ノ繁簡ヲ計リ定員内ノ職工ヲ備入解備スルコトヲ得

第九條 製造科長検査科長諸職工ヲ工場外ニ使役スルヲ要スルトキハ廠長ノ許可ヲ受クヘシ

第十條 會計課長ハ臨時人夫船車ヲ備入スルコトヲ得但シ前月使用分ヲ翌月十五日マテニ廠長ニ報告スヘシ

第十一條 科課長ハ各共屬員以下ニ掛ヲ命スルコトヲ得

第十二條 科課長他科課ノ屬員及器具物品等ヲ要スルトキハ其科課長ニ協議シテ之ヲ使用スルコトヲ得

第十三條 科課長其科課員ノ公務出張ヲ要スルニ二十里以内ナルトキハ口頭ヲ以テ其事由ヲ述ヘ官職姓名出張先ヲ記シタル紙上ニ廠長ノ檢印ヲ受クヘシ二十里以外ナルトキハ事由ヲモ記入シ廠長ニ出スヘシ又用濟階層ノ節ハ官職姓名階層ノ日限ヲ記シ會計課ヲ經テ廠長ニ届出ヘシ

第十四條 科課長車船人夫ヲ使用スルヲ要スルトキハ之ヲ會計課長ニ請求スヘシ

第十五條 各科課ノ屬員ハ其長ノ命ヲ受ケ業務ニ服シ其長事故アルトキハ先任ノ者之カ代理ヲ爲スヘシ

第十六條 製造科ノ所掌事項ハ左ノ如シ

一、諸兵器及其屬具ヲ製造修理スル事

一、新設兵器ノ制式圖及圖樣竝ニ說明書ヲ調製スル事

二、購買ニ附スル兵器ノ圖面又ハ製造方法書等ヲ調製スル事

三、新造艦船ニ要スル兵器ノ構造重量等ヲ調査報告スル事

四、前諸項ニ關スル兵器又屬具ノ圖樣竝ニ概算書豫算書等ヲ調製スル事

第十七條 製造科ニ工務係關係及各工場ヲ置キ科務ヲ分掌セシム

第十八條 工務係ノ所掌事項ハ左ノ如シ

一、科務ニ係ル文書取扱及人員調査ノ事

二、科中一般ノ物品及圖書類ヲ管守保存スル事

三、造修兵器物品ノ首尾順末ヲ監査シ其授受送附等ヲ處理スル事

四、工業ノ繁簡ニ注意シ間斷ナク造修品ヲ各工場ニ配賦スル事

五、木料ニ屬スル判任官以下ノ勤務簿ヲ調査スル事

六、前各項ノ外總テ科中ノ庶務ヲ整理スル事

第十九條 製圖係ノ所掌事項ハ左ノ如シ

一、造修ニ係ル兵器ノ製圖ヲ調製スル事

二、制式圖管守出納ノ事

第二十條 工場ハ左ノ如シ

第一工場	集戒工	鑄工	機工
第二工場	鑄工	木工	瓦工
第三工場	鑄工		
第四工場	鑄工	機工	製工

明治二十二年十月 陸海軍省第四百二十五號

第五工場 製

第六工場 火工

- 第二十一條 工場ニ工場長ヲ置キ工事繁劇ノ工場ニハ其下ニ工場掛ヲ置ク
- 第二十二條 工場長ハ主任主幹ノ指示ヲ受ケ各擔當ノ工業ニ從事シ工場一切ノ整理ヲ爲ス
- 第二十三條 工場長ハ造修兵器物品ノ順末ヲ明ニシ其費用ヲ調査ス
- 第二十四條 工場長ハ造修ニ供用スル材料ノ品質真否ヲ調査ス
- 第二十五條 工場長ハ工場備付ノ機械器具ヲ管守シ其出納保存ヲ掌ル
- 第二十六條 工場長ハ常ニ工業ノ便否ヲ考察シ専ラ事業ノ進歩ヲ謀ルヘシ
- 第二十七條 工場長ハ常ニ職工ヲ監視スヘシ
- 第二十八條 工場長工業ノ難易ニ由リ制式ヲ改正スルノ意見アルトキハ之ヲ主幹ニ申出ヘシ
- 第二十九條 工場長職工ヲ新ニ備役セントスルトキハ其技藝ノ如何ヲ試験シ採否給料等ノ意見ヲ主幹ニ詳述スヘシ
- 第三十條 工場長職工ノ給料ヲ増減セントスルトキハ其事由ヲ詳記シ各工場長商議ノ上主幹ニ申出ヘシ
- 第三十一條 工場掛ハ工場長ヲ補助シ各其工場一切ノ事業ニ服従ス
- 第三十二條 検査科ニ點檢係整理係及化學的試験室係ヲ置キ科務ヲ分掌セシム
- 第三十三條 點檢係ノ所掌事項ハ左ノ如シ
 - 一、兵器ノ良否ヲ基礎又ハ検査器ニ據リ検査スル事
 - 二、兵器ノ試験ヲ成規ニ照シ或ハ臨時方法ヲ設ケ施行スル事
 - 三、兵器ノ保存期限ヲ査定スル事

- 四、兵器ノ検査及試験ノ成績ヲ調査報告スル事
- 五、射的表及放發年報ヲ調製スル事
- 六、返納又ハ貯蓄兵器ヲ處理スル事
- 七、兵器検査用機械器具ノ保存期限ヲ査定スル事
- 八、兵器檢定用機械器具並ニ試験用兵器基礎及材料物品ヲ保管スル事
- 第三十四條 整理係ノ所掌事項ハ左ノ如シ
 - 一、兵器ノ検査及試験方法ノ調査並ニ検査器ノ制度ヲ按シ其用法等ヲ定ムル事
 - 二、兵器圖案ヲ調査スル事
 - 三、改造修理ノ兵器ヲ査定シ造修ノ手順ヲ爲ス事
 - 四、兵器ノ保存方法ヲ設ケル事
 - 五、兵器制度ノ記事及兵器處分ニ係ル報告ヲ調製スル事
 - 六、廠内計畫ニ係ル兵器試験費並ニ豫算額ヲ調理スル事
 - 七、科内備品及圖書類ヲ保管スル事
 - 八、兵器檢定用機械器具並ニ試験用兵器及材料物品等ノ價額ヲ調査シ且其出納ヲ整理スル事
 - 九、本科ニ係ル文書及ヒ記事等ヲ處理スル事
 - 十、本科ニ屬スル判任官以下ノ勤務簿ヲ調査スル事
- 第三十五條 化學的試験室係ノ所掌事項ハ左ノ如シ
 - 一、兵器ノ原質及其他諸材料ノ分析ヲ爲ス事
 - 二、諸分析品ノ順末ヲ明ニシ之ヲ報告スル事
 - 三、木室ニ要スル諸費ノ調理及其機械器具並ニ材料等ノ出納保存ヲ爲ス事

四、木室ニ使役スル工夫職工ノ勉否ヲ監視スル事

第三十六條 化學的試驗室係ハ附屬職工ヲ傭入解僱シ及其賃錢ヲ増減セントストキハ事由ヲ記載シ科長ノ許可ヲ受クヘシ

第三十七條 會計課ニ計理係用度係ヲ置キ課務ヲ分掌セシム

第三十八條 計理係ノ所掌事項ハ左ノ如シ

一、金錢ノ收支及豫算決算並ニ木廠會計ニ係ル報告統計又ハ財産等ニ關スル事務ヲ處理スル事

二、諸造修兵器物品ノ現費並ニ兵器彈藥及水雷費ニ關スル統計正算等ヲ調理スル事

三、工夫及ヒ職工人夫ノ出務ヲ調査シ其人員及給額ヲ統計整理スル事

四、各工場ノ記簿ヲ管シ之カ整理ヲ爲ス事

五、木課ニ係ル文書其他記事等ヲ處理スル事

六、木課ニ關スル判任官以下ノ勤務簿ヲ調査スル事

第三十九條 用度係ノ所掌事務ハ左ノ如シ

一、俸給日給加俸増給物料旅費隨費附料郵便稅電信料人力車賃等算出給與ノ事

二、職工人夫等ノ賃錢ヲ調査シ之ヲ給與スル事

三、兵器及材料物品ノ購買及不用品賣却或ハ舟車入夫ノ備役ニ係ル事件ヲ處理スル事

四、營繕ノ事

五、使丁給仕支配ノ事

第四十條 材料課ニ收支係貯蓄係ヲ置キ其課務ヲ分掌セシム

第四十一條 收支係ノ所掌事項ハ左ノ如シ

一、兵器造修ノ材料及機械器具並ニ廠中物品ノ收支ヲ整理スル事

二、材料物品ノ豫算並ニ統計報告ヲ調製スル事

三、不用物品及無代價受込品ヲ規程ニ照シ處理スル事

四、木課ニ係ル文書其他記事等ヲ處理スル事

第四十二條 貯蓄係ノ所掌事項ハ左ノ如シ

一、貯蓄材料物品ノ保管及各庫閉閉ノ事

二、貯蓄材料物品ヲ點檢査閱スル事

三、製造豫算ニ基キ材料物品ノ準備ヲ爲ス事

第四十三條 倉庫課ニ蓄藏係出納係ヲ置キ其課務ヲ分掌セシム

第四十四條 蓄藏係ノ所掌事項ハ左ノ如シ

一、貯藏兵器ノ管守及各庫閉閉ノ事

二、貯藏諸兵器ノ淨拭改塗其他保存ニ注意スル事

三、交付兵器ノ重量ヲ調査スル事

第四十五條 出納係ノ所掌事項ハ左ノ如シ

一、諸兵器ノ出納及運搬ニ係ル事件ヲ管理スル事

二、各兵器交付票ヲ調査スル事

三、器械及兵器手入用備品ヲ管理スル事

四、毎年四月現在ノ兵器ヲ元簿ニ照シ調査スル事

五、本課ニ係ル文書及諸報告其他記事等ヲ處理スル事
 六、本課ニ屬スル判任官以下ノ勤務簿ヲ調査スル事
 第四十六條 本廠勤務軍醫ノ所掌事項ハ左ノ如シ
 一、廠内衛生ニ關スル事項
 二、公務負傷或ハ急患者ノ診察治療ヲ爲シ廠長ノ命アルトキハ病氣引入ノ下士卒ヲ往診スル事
 三、室内備付品竝ニ藥品療用品等ヲ管守保存スル事
 四、看護手看護夫ヲ指揮シ其勉否ヲ監視スル事
 第四十七條 廠長專屬員ノ所掌事項ハ左ノ如シ
 一、本廠及廠長名ヲ以テスル文書ヲ接受發付シ又ハ各科課等關係ノ向ヘ配付スル事
 二、廠長ノ命ニ係ル文案ヲ起草スル事
 三、秘書文書ノ取扱ヲ爲ス事
 四、官印ヲ監守スル事
 五、各科課ノ諸報告ヲ整理スル事
 六、廠員ニ宿直ノ順次ヲ通知シ其度數ヲ調査シ會計課ニ報告スル事
 七、他ノ主管ニ屬セサル事務ノ取扱ヲ爲ス事
 八、科課ニ屬セサル書類ヲ保管スル事
 九、廠員ノ名簿履歷簿ヲ調査整理スル事
 第四十八條 監護長ノ所掌事項ハ左ノ如シ
 一、廠内取締ニ關スル事項

二、監護支配ノ事

三、諸鑑札及諸切符保管授受ノ事

第四十九條 廠内ニ宿直ヲ置キ判任官一名ヲシテ交番勤務セシムヘシ但新ニ勤務ヲ命セラレタル者ハ拜命ノ日ヨリ二週間ヲ經テ宿直ニ充ツヘシ
 第五十條 宿直員ハ臨時ノ事故アリ共事重大ト認ムルトキハ廠長ニ稟申シ指揮ヲ受クヘシ其事輕少ナリト認ムルトキハ其管掌スル所ノ官員ニ報知シ之ヲ助ケ共事務ヲ調理スヘシ

第二章 文書取扱

第五十一條 廠長名若クハ廠名ニテ本廠ニ到來スル文書ハ凡テ專屬員ニ於テ受領シ其件名ヲ簿册ニ登録シ番號ヲ記シテ廠長ノ閱覽ニ供シ廠長親展ノモノハ直ニ廠長ニ呈スヘシ
 第五十二條 廠長ハ文書ヲ閱覽シ其主務ノ科課指示ノ印ヲ捺シ專屬員ヲシテ之ヲ回致セシメ事ノ至急ヲ要スルモノハ特ニ急印ヲ捺スヘシ
 第五十三條 科課長ハ廠長ヨリ回致セラレタル文書ヲ審查シ其處辨ヲ要スルモノハ受領ノ日直ニ施行ノ手續ヲ爲シ處辨ヲ要セサルモノハ之ヲ保管シ其旨ヲ專屬員ニ通知スヘシ但處辨ヲ要スルモノニシテ直ニ施行シ難キモノハ豫メ日限ヲ定メ文案ヲ起草シ廠長ニ呈出スヘシ調査上多分ノ日數ヲ要スルモノハ其事由ヲ特ニ開申シ置クヘシ又急印アルモノニ對シテハ速ニ處辨スヘシ
 第五十四條 事ノ聯帶ニ涉ル文書ハ主務ノ科課ニ於テ立按シ關係科課長ト協議ノ上速印シテ之ヲ出スヘシ協議ハ主務者ニ於テ面談協議スルヲ要ス若シ彼是意見合ハサルトキハ直ニ廠長ニ面陳シテ決裁ヲ乞フ可シ
 第五十五條 科課長ハ關係ノ科課ニ回付ノ文書ヲ査シ若シ滯留スルモノアルトキハ之ヲ督促シ時日ヲ經過セサルヲ勉ムヘシ

第五十六條 專員ハ科課ニ回致セル文書ニ對スル處辨ノ日數ヲ計査シ若シ日限ヲ經過スルモ廠長ニ呈出セサルモノアルトキハ其件名及科課名ヲ廠長ニ開申スヘシ

第五十七條 科課ヨリ出シタル文書ハ廠長閱覽シ異議ナキトキハ之ニ檢印シ共科課ニ下シテ淨書セシメ而シテ專員ヲシテ之ヲ發送セシムヘシ但廠名ニテ到來スル文書ト雖モ事ノ輕易ニシテ廠長ノ決裁ヲ要セサルモノハ其科課限處分スルコトヲ得

第五十八條 大臣ノ決裁及指令ヲ經タル文書及令達等ハ廠長閱覽後專員ヲシテ主務ノ科課ニ回致セシメ其關係一科課ニ止マラサルモノハ主務ノ科課ヨリ之ヲ回覽セシムヘシ

第五十九條 科課ノ回覽ヲ要スル文書ハ廠長科課回覽ノ印ヲ捺シ專員ヲシテ之ヲ撥セシムヘシ科課ハ回覽ノ後其證トシテ科課長捺印シ回尾ヨリ專員ニ還付スヘシ

第三章 雜則

第六十條 木廠官吏ニアラサル者制服ヲ著セル准士官以上ヲ除ク物品ヲ廠外ヘ携出セントスルトキ官品ナルトキハ主務者ヨリ私物ナルトキハ其科課等ノ先任者ヨリ通門證ヲ授與スヘシ

第六十一條 廠内各工場及試驗室ハ廠長ノ允許ヲ得ルニアラサレハ木廠掛官員ノ外入ルヲ許サス

○陸軍省第四百二十九號
各種軍隊手帳中第三葉及第一種軍隊手帳中第十一葉格式別紙ノ通改正ス
但爾後新調ノ分ヨリ改正スヘシ (別冊略ス)

明治二十二年十月二十四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省第四百二十六號

明治十九年四月要第二二四號各廳定備品中椅子及「テーブル」品位ノ件ヲ廢ス
明治二十二年十月二十四日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省第四百二十七號

橫須賀鎮守府海兵團定員表中大軍器及主帳ノ部左ノ通改正シ備考ニ左ノ一項ヲ加フ
明治二十二年十月二十四日

大	軍	器	帳
一	二	四	二
二	三	六	五
三	主	主	主
主	帳	帳	帳

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省第四百二十八號

船匠手帳治手機關手香護手及主帳ノ内若干名ヲシテ伍長ヲ兼務セシム
吳鎮守府海兵團佐世保鎮守府海兵團各定員表中主帳ノ下ノ被服掛ヲ刪除シ備考ニ左ノ一項ヲ加フ
明治二十二年十月二十四日

海軍大臣伯爵西郷從道

○陸軍省第四百五十號

本年陸軍第三十五號陸軍軍人軍屬汽船乘込命令書第三條左ノ通改正ス
明治二十二年十月二十五日

陸軍大臣伯爵大山 巖

第三條

一 乘船證券ハ一名一葉宛ヲ附與ス
但此證券ヲ授クヘキ者一時數名渡航スルトキハ上中下等ノ各室ニ乘ルヘキ人員ノ證券ヲ其上級ノ者一名ニ附與スルコトアルヘシト雖モ此場合ニ於テハ共人名ヲ記シタル證明書ヲ添付スヘシ

○陸軍省第四百五十一號

營外居住ノ下士卒懲罰ニ該リ重懲倉ニ飼スル者食料ノ備ハ一食金貳錢ヲ目途トシ該金以內ヲ以テ

實費支拂フヘシ

但本年十月一日ヨリ施行スヘシ

明治二十二年十月二十五日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍省陸軍部第四百二十九號
各隊射擊演習用彈藥支給方從來其年四月ヨリ翌年三月迄ヲ一箇年度トシ支給ノ處來ル二十三年度以後前年十二月ヨリ其年十一月迄ニ改ム

明治二十二年十月二十五日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省陸軍部第四百二十九號

本年八月陸軍部第三百五十五號中該條以下ヲ「先任監事ヲシテ會務ヲ整理セシメ教官ヲシテ練習生ノ教授ヲ掌ラシメ監事ヲシテ練習生ノ取締ヲ爲サシム」ト改正ス

明治二十二年十月二十五日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省陸軍部第四百三十號

軍艦旗ハ軍艦及團隊校附屬ノ船艦ニモ亦之ヲ掲クルコトヲ得ル儀ト心得ヘシ

明治二十二年十月二十五日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省陸軍部第四百三十一號

本年六月陸軍部第九十號ニ依リ艦隊應ヨリ下士卒ノ異動ヲ海兵團及軍樂練習所ニ報告スルトキハ下士卒ノ官職姓名上ニ入籍番號ヲ記スヘシ

明治二十二年十月二十六日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省陸軍部第四百三十二號
水路部監護用使給仕定員表ヲ廢シ水路部定員表中「及雇員」ヲ「雇員補入」ト改正シ「器械手」ノ次ニ

左ノ通追加ス

明治二十二年十月二十六日

海軍大臣伯爵西郷從道

監視

六

給仕

五

○陸軍省陸軍部第四百三十三號

屯田兵隊附醫官服務規則並診斷所規程別冊ノ通定ム

但屯田兵監獄ニ於テモ之ニ準據スヘシ

明治二十二年十月二十八日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(別冊)

屯田兵隊附醫官服務規則並診斷所規程

第一章 一等軍醫ノ職務

第一條 一等軍醫ハ大隊長ニ隸シ一般ノ定則ヲ遵奉シ大隊ノ衛生事務ヲ掌リ二三等軍醫ノ服務及

醫員看病人ノ勤務ヲ監視シ且大隊中一中隊ノ事務ヲ兼掌ス

中隊ノ事務ヲ兼掌スルトキハ本則第四條第五條及第七條ノ各項ニ據ル

第二條 一等軍醫ハ衛生事務及教育上ノ事ニ就テハ屯田兵隊醫長ノ指揮監督ヲ承クルモノトス

第三條 一等軍醫ハ尙左ニ掲クル事項ヲ整理ス

一 兵屋ニ係ル衛生ノ事項

二 各中隊ノ衛生事務ヲ盡一ナラシムル事

三 糧食、被服、飲水等ニ於ケル衛生ニ關スル事

四 衛生報告

- 五 藥物及治療器械等ノ管理
- 六 傳染病流行病ノ豫防
- 七 看病人ノ教育ニ關スル事
 - 第二章 二三等軍醫ノ職務
 - 第四條 二三等軍醫ハ該隊長ニ隸シ中隊ノ衛生事務ヲ執リ診斷所及藥室ノ事務ヲ擔任ス
 - 第五條 二三等軍醫ハ看病人ノ勤務行狀ヲ監視シ且其教育ノ事ヲ掌ル
 - 第六條 二三等軍醫ハ其衛生事務及看病人ノ教育上ニ就テハ該隊附一等軍醫ノ指揮ヲ承ク
 - 第七條 二三等軍醫ハ尙左ニ掲クル事項ヲ掌リ且一等軍醫不在ノトキハ第一章ノ事務ヲ兼掌ス
 - 一 毎朝週番軍曹不在ノトキハ週番ノ引率シ來ル患者ヲ診斷シ其輕重ニ從ヒテ之ヲ處置スヘシ
 - 二 前項ニ由リ患者ヲ診斷シタルトキハ傷痕疾病等差及職業、休業、快復ノ區別ヲナシ週番軍曹ヲシテ患者人名簿中ニ其印ヲ捺シメ後之ニ檢印スヘシ
 - 三 診斷スル所ノ患者ハ其等級氏名年齢傷痕疾病等差、病名、治法及前項ニ掲クル三種ノ一ヲ診斷簿ニ記注ス而シテ傷痕疾病等差中一等症ハ見證證書^{陸軍部令第三三三號}ニ依リテ之ヲ定ム
 - 四 患者ニ藥劑ヲ與フルニハ處方箋ヲ記シテ患者ニ附シ藥室ニ就キテ收領セシムヘシ
 - 五 休業一週日以上ノ見込アルモノ若クハ其病症ニ依リテ處方錄ヲ要スルト認ムルトキハ之ヲ製スルモノトス
 - 六 入營倉ノモノ癩病^{シタルトキ}ハ週番士官ノ通知ニ由リ之ヲ診斷シ若シ重症ニ漸ムノ徵アリテ自宅療養等ヲ要スルトキハ週番士官ニ謀リテ之ヲ處置シ家人ニ看護攝生法ノ大意ヲ懇諭シ置クヘシ
 - 七 傳染病流行病アルトキハ豫防ノ方法ヲ定メ該隊長ニ申告シ且下士以下ニ其心得方ヲ説示シ置クヘシ

- 八 常ニ兵屋、番外地及其近傍ヲ巡視シ衛生上ニ注意シ若シ有害ノ事アルトキハ中隊長ニ申告シテ改良ヲ圖ルヘシ但其事項經費上ニ係ルトキハ一等軍醫ノ指揮ヲ承クルモノトス
- 九 糧食、被服、飲水等ニ於ケル衛生ニ關シ不長ト認ムルモノアルトキハ其係員ニ協議シ又ハ中隊長ニ申告シテ之ヲ改良ヲ圖ルヘシ
- 十 新兵移住シタルトキハ週番士官立會ノ上細密ノ身體検査ヲ施行スヘシ
- 十一 移住ノ者會テ天然痘ニ罹リシヤ否ヲ調査シ未痘者及種痘後五箇年^{天然痘流行ノ時ヲ經タルモノニハ之ニ種痘シ其成績ヲ所屬ノ隊ニ通報シテ本人手帳ノ痘進ニ記入セシムルモノトス}痘進^{痘進ニ在リテハ種痘シテ附與ス}ヲ附與ス
- 十二 定例ノ衛生報告ハ月報年報ノ二種トス其報告手續ハ別ニ定ムル所ニ據ル
- 十三 毎朝診斷ニ際シ看病人ヲシテ豫メ診斷所ノ準備ヲ爲シメ且患者ニハ服藥攝生ノ方法ヲ懇諭セシムヘシ
- 十四 看病人ヲシテ時々休業患者ヲ巡視セシメ其攝生及寢具蚊室内ノ清潔ニ注意セシムヘシ
- 十五 傳染病毒ニ汚染シタル被服其他ノ物品アルトキハ其品目ト事由ヲ認メ自ラ之ニ調印シテ該隊長ノ認可ヲ得テ成規ニ依リ之ヲ消毒シ或ハ燒却スヘシ
- 十六 毎月未消耗品ノ決算表ヲ調製シテ該中隊ニ出スヘシ
- 十七 藥物及治療消耗品、治療器械、劑劑器械、消耗品、雜具ノ收領或修理交換ハ其品目收領ヲ傳票ニ記シ調印ノ上消耗品、雜具ハ該中隊其他ハ大隊首部中隊ノ醫務室若クハ屯田兵軍醫部ヨリ受領スヘシ但藥物及治療消耗品ハ翌月需用スヘキモノ、品目收領ヲ豫定シ毎月二十五日限り大隊首部中隊ノ醫務室若クハ屯田兵軍醫部ニ通報スヘシ

- 十八 毎月末ニ至リ治療消耗品ノ出納ヲ決算シ其受拂簿ニ登記シ藥物ハ日々調劑後ニ至リ處方箋若クハ處方録ニ就キ決算シ其受拂簿ニ登記シ而シテ月末ニ至ルトキハ更ニ之ヲ合計スルモノトス
 - 藥物ハ劇藥、毒藥等ヲ類別シ其貯所ヲ定メ又調劑ハ看病人ヲシテ之ヲ爲リレムルト雖モ其劇毒藥ハ自ラ之ヲ取扱フヘシ故ニ許可セサル者ハ藥室ニ入ルヲ禁スルモノトス但藥室ノ鍵ハ退室ノトキ迴番士官ニ預ケ置クヘシ
- 十九 左ニ掲クル帳簿ヲ整理ス但一等軍醫ノ兼掌スル中隊ニ在リテハ尙大隊ニ要スル爲メ共四
 - 共一 日記 晴雨寒暖下士兵卒人員受診人員
 - 共二 診斷簿
 - 共三 種痘簿
 - 共四 諸報告原稿綴
 - 共五 諸達命令進達録
 - 共六 後證發給簿 証書死亡證
 - 共七 藥物受拂簿
 - 共八 治療消耗品受拂簿
 - 共九 治療器械並調劑器械簿
 - 共十 傳票並送達簿
 - 共十一 處方箋並處方録綴

共二ハ毎月之ヲ改メ他ノ帳簿ハ其九共十八毎年一月之ヲ改ムルモノトス但共一乃至共三及

共七共八共十八三年間共四乃至共六ハ七年間共十一ハ一年半共九ハ之ヲ改正スル迄保存スヘシ又診斷所ヲ一箇所ニ合併スル隊ニ在リテハ共二ノ他ハ各中隊別ニ備フルヲ要セス
 二十 退室後ハ在宅シテ臨時ノ診斷ニ應スヘシ若シ用辦ノ爲メ外出セント欲スルトキハ其出先キヲ自宅ニ示シ置クモノトス

第三章 野營行軍中ノ衛生事務

第八條 一治以上ノ野營行軍ニシテ一中隊以上ニ在リテハ醫官及看病人若干名隨行シ一日行軍ニハ看病人ノミ附屬セシムルモノトス
 行軍中患者ヲ處置スル爲メ本隊ニ隨從シ能ハサル場合ニ在リテハ醫官ニ限リ車馬ヲ支給スルコトアルヘシ

第九條 野營行軍ノトキハ衣食住及勞働共ニ自ラ常時ト異ルヲ以テ飲食物、客舎及野營地、行軍途上ノ關係ヲ殊ニ注意シ若シ意見アルトキハ隊長ニ申告スヘシ

第十條 行軍中患者アルトキハ醫官之ヲ診斷シ左ノ等差ヲ區別シテ之ニ行軍患者等差證ヲ付與ス

- 一等患者 歩行ニ堪ヘサルモノ
- 二等患者 歩行シ得ルモ武器背袋等ヲ携帶シ能ハサルモノ
- 三等患者 武器背袋等ヲ携帶シ得ルモ隊伍ニ列シ能ハサルモノ
- 一等患者ハ車馬ヲ以テ送致シ二等患者ハ單身徒歩セシメ三等患者ハ隊伍ヲ除キ獨行セシムルモノトス

第十一條 宿營地ノ診斷ハ其定時限ニ於テ下士ノ引率シ來ル患者ニ就キテ之ヲ行ヒ其處置ヲナスヘシ而シテ行軍中ハ當日ノ行軍患者表ヲ調製シ隊長ニ出スヘシ

第十二條 野營行軍中重症患者アルトキハ隊長ノ許諾ヲ得テ病床日誌ヲ付シテ歸村セシメ或ハ地方病院等ニ依託スヘシ

第十三條 野營行軍中傳染病流行病等アルトキハ其消毒並取扱等ハ陸軍部内ノ定規ニ據ルト雖モ事ノ地方廳ニ沙ルモノハ隊長ヲ經テ其地方吏員ト協議ノ上取扱フヘシ

診斷所規程

第一條 診斷所ハ中隊毎ニ之ヲ置キ患者ヲ診斷治療シ及體格ヲ検査スル所トス

第二條 診斷所ヲ置ク隊ニハ醫務室、藥室ヲ置ク但大隊首部ノ中隊ニハ別ニ大隊像備ノ藥物及治療器械等ノ倉庫ヲ置クモノトス

第三條 診斷所ハ靜肅ヲ要スルカ故ニ雜沓喧噪スルコトナキハ勿論左ノ各項ニ注意スヘシ
一 凡診斷所ニ於テ診斷ヲ受クルモノハ詳細ニ其容態ヲ告ケルモ無用ノ言辭ヲ述フヘカラス
二 診斷所ニ於テハ雜談及喫烟スヘカラス
三 患者ハ指定ノ所ニ在リテ迴番軍曹ノ呼出ニ由リ順次ニ診斷ヲ受クルモノトス
四 診斷所ハ小便ヲシテ常ニ掃除セシメ清潔ヲ旨トス

○陸軍部第五十四號

本年九月陸軍部第三十八號陸軍物品會計規程中左ノ通改正加除ス

明治二十二年十月二十九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

第二條 此規程ニ於テ官廳ト稱スルハ陸軍省參謀本部監軍部憲兵司令部砲兵方面砲兵工廠工兵方面臨時砲臺建築部近衛師團監督部千住製鐵所陸地測量部砲兵會議工兵會議諸學校教導團要塞砲兵幹部練習所軍吏學舍近衛師團司令部旅團司令部ヲ云フ

第三條 米項ニ動物ノ一項ヲ加フ

第四條 中、大小被服及裝具履具ノ九字ヲ「大小被服裝具履具及共地敷」ノ十二字ニ改ム

第九條 中「被服品」ノ下ニ「製作品」ノ割註ヲ加フ

第十條 左ノ一項ヲ加フ
第二條ニ掲グル官廳ノ外支部局ニシテ常用物品ノ出納ハ所屬長共支部局長ニ分任命令ヲ委任スルコトヲ得

第十五條 及第二十條中「該部局長」ノ下ニ「(總務局長ニアル)ノ割註ヲ加フ」

第十七條 中「總務物品」云々ヨリ尤モ「マ」ノ五十八字ヲ削ル

第二十二條 中「其部局長」ノ下ニ「(總務局長ニアル)ノ割註ヲ加フ」

第二十二條 中「陸軍省各部局」ノ下ニ「(總務局長ニアル)ノ割註ヲ加フ」

第二十八條 第二行中「其身」ノ二字ハ削ル
陸軍本省局部備用品定數表中左ノ通訂正シ其備考第一項中「最上限ヲ示ス」故ニ「ノ」八字及同第五項中「呼鐘」ノ二字ヲ削ル

大臣官房ノ横書中札ヲ「一六」ニ替テ「四〇」ニ割替換、外套掛、呼鐘、印箱ヲ各「四」ニ改ム
騎兵局ノ横書中札ヲ「三四」ニ替テ「二八」ニ割替換、外套掛、軍筒ヲ各「三」ニ割替換、外套掛ヲ「二」ニ算

盤文箱ヲ各「八」ニ替テ「二」ニ印箱ヲ「七」ニ紙屑入ヲ「五」ニ呼鐘ヲ「六」ニ改ム
呼鐘ノ横書中總務局ヲ「二〇」ニ砲兵局工兵局ヲ各「五」ニ會計局ヲ「三」ニ醫務局ヲ「九」ニ法官部ヲ「三」ニ改ム

官備用品定數表中左ノ通增加改正シ其備考第一項中「最上限ヲ示ス」故ニ「ノ」八字及同第八項中「呼鐘」ノ二字ヲ削ル

輔重殿ノ下ニ騎兵局管理課ノ横置ヲ加ヘ机二八食机二椅子一九腰掛六尺三二切替掛外春掛
 各一初帽外春掛呼鐘算盤文箱各二二遊筒三鏡箱各一印箱紙屑入各二衡器秤裁物板
 同應丁同定木打錘細繩時計號音器防火具各一トナヌ

呼鐘ノ縦置中參謀本部ヲ二七ニ監軍部ヲ二八ニ憲兵司令部司製部千住製絨所陸地測量部
 砲工學校幼年學校乘馬學校砲兵射的學校要藥砲兵幹部練習所重症病馬治療所ヲ各三ニ砲兵
 方面砲兵工廠工兵方面臨時砲臺建築部大學校砲兵會議工兵會議士官學校戶山學校ヲ各五
 ニ近衛師團監警部ヲ二二ニ近衛師團糧食各陣營經理部軍馬育成所蹄鐵學會中央司製部被服
 廠軍醫學校砲兵工廠生徒學會各法官部近衛師團軍醫部近衛師團獸醫部旅團司令部大隊區司
 司令部團司令部所在地衛戍病院師團司令部所在地外衛戍病院衛戍病室各衛戍監獄各衛戍武
 庫調馬主管輔重殿ヲ各二ニ軍吏學會ヲ四ニ教導團近衛師團司令部本部ヲ各七ニ東京衛戍病
 院ヲ八ニ改ム

○陸軍第五百五十五號

明治二十年陸軍第五百三十七號工兵射擊演習教令中別紙ノ通追加ス

明治二十二年十月二十九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(別紙)

工兵射擊演習教令中へ追加ノ件

- 一 第二條中「及ロ」ニ字ヲ刪除シ「集合射擊」ノ下「及ロ」ニ字ヲ加フ
- 一 第五條中「空砲筒十發」ノ下「及」ニ字ヲ加テ「空砲筒三十發空砲筒四發」ニ改メ但シ其人員毎大隊ニ五十八人
 (ト)ヲ加フ
- 一 第六條第一表ノ次へ左ノ二條ヲ加ヘ從來ノ第七條ヲ第九條トナシ以下順次繰下ク

追加スヘキ二條

第七條 學銃射擊ハ電信通信術及ロ電信建築術專修ノ下士兵卒ヲシテ之ヲ行ハシム但シ其教授ノ
 方法ハ騎兵操典ニ據ルモノトス

第三表 學銃射擊

習會 順次	距離	離射擊ノ種類	空	對	筒	彈	數
一	一〇米	立射		四		六	
二	一〇米	立射				六	
三	二〇米	立射				六	
四	二〇米	立射				六	
五	三〇米	立射				六	
計			四				三十

學銃射擊ノ標的

第八條 十米突ノ距離ニハ中徑二十珎知米突二十米突ノ距離ニハ中徑四十珎知米突三十米突ノ距
 離ニハ中徑六十珎知米突ノ圓形ヲ畫シ圓内ニ十字線ヲ設ク此圓及ロ十字線ノ幅ハ二珎知米突
 トス

圓内ニ命中セシ彈丸ニハ一點ヲ與ヘ圓外ノモノハ零點トス

第七條中「第三等射手トナヌ」ノ下「學銃射擊」ノ全習會ニ於テ十五點以上ヲ得タルモノヲ第一等射手
 トナシ其他ヲ第二等射手トナヌ」ノ下「及」ニ字ヲ加フ

第九條中「滿點ヲ得タル射手」ノ下「及」ニ字ヲ加フ

明治二十二年十月二十九日 陸軍第五百五十五號

○陸軍部第五十六號

本省對陸軍諸官衛ニ於テ下副官及下士以下ヨリ返納ノ被服出備準備用ノ爲メ其取扱手續別冊ノ通定

明治二十二年十月二十九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(別冊)

本省對陸軍諸官衛返納被服取扱手續

第一條 本省對陸軍諸官衛ニ於テ下副官及下士以下ヨリ返納ノ被服品ハ本省及官衛ニ貯藏シ世キ

水火盜難等ノ如キ臨時ノ補給ニ充ツヘシ

第二條 其返納被服品中本省及官衛ニ於テ所要ノ目的ナキモノハ成規ニ依リ之ヲ賣却セシムト雖

モ大被服及背囊厚毛布ニ限リ出備用被服準備ノ爲メ別表ノ區分ニ依リ其都度若クハ會計年度ノ

終末ニ至リ之ヲ近衛師團ニ引繼クヘシ但現品ハ近衛師團ニ於テ指定シタル軍隊ヘ直ニ交付スル

モノトス

第三條 近衛師團ニ於テ本省及他ノ官衛ヨリ大被服及背囊厚毛布ノ引繼ヲ受ケタルトキハ之ヲ軍

隊ニ分配シ出備用被服ノ準備ニ供セシムヘシ

第四條 諸官衛ニ於テ大被服及背囊厚毛布ヲ軍隊ヘ交付シタルトキハ其品目員數ヲ當該監督部ヘ

通報スヘシ但中央司令部被服廠ニ在テハ會計局ヘ申報スルモノトス

(別表陸軍諸官衛返納被服引繼區分表ヲ略ス)

○陸軍部第五十七號

陸軍軍隊機動演習教令別冊ノ通定

明治二十二年十月三十日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(別冊)

陸軍軍隊機動演習教令

第一條 此教令ハ陸軍軍隊機動演習條例ニ基キ施行ノ順序ヲ規定スルモノナリ

第二條 演習地及演習日割ハ小機動演習ニ在テハ近衛都督、師團長ハ機動演習ニ在テハ監軍之ヲ

定ムルモノトス

第三條 小機動演習ノ施行ニ先チ近衛都督、師團長ハ機動演習條例第六條ニ基キ左ノ書類ヲ監軍

ニ進達スヘシ

一 演習ノ一般方略及地圖

二 此方略及地圖ハ機動演習條例第四條第二第三期演習ニ係ルモノニ限ル

二 演習日課豫定表 甲表ノ形式ニ據ル

三 演習團隊編制表 乙表ノ形式ニ據ル

第四條 大機動演習ハ監軍之ヲ行フヘキ團隊及一般方略演習地演習期日ヲ進定シ

皇帝陛下ニ奏上シ裁定ヲ仰クモノトス

第五條 監軍ハ大機動演習ノ下令ト同時ニ一般方略及演習團隊ノ集合地ト共日限トヲ密令ス

第六條 大機動演習ニ與ル近衛都督、師團長ハ其集合地及日限ニ基キ小機動演習第一第二期ノ演

習ヲ計畫シ之ヲ監軍ニ進達スルコト第三條ニ同シ

第七條 大機動演習ノ審判官ハ監軍之ヲ定メ

皇帝陛下ニ奏上ス

第八條 小機動演習終ル後近衛都督、師團長ハ短簡ニ演習實施報告ヲ作り之ヲ監軍ニ進達スヘシ

但演習後三十日以内ニ發送スルモノトス

此報告ハ概キ左ノ項目ニ據リ記述スヘシ

演習ハ總テ豫定ノ如ク行ヘシ乎或ハ之ヲ變更セシ乎又何ノ理由アリテ變更セシ乎

明治二十二年十月 陸軍省陸軍部第五十七號

五十四

師團司令官	旅團本部				師團司令部
	第一聯隊	第二聯隊	第三聯隊	第四聯隊	
第一師團					第一師團司令部
第二師團					第二師團司令部
第三師團					第三師團司令部
第四師團					第四師團司令部
第五師團					第五師團司令部
第六師團					第六師團司令部
第七師團					第七師團司令部
第八師團					第八師團司令部
第九師團					第九師團司令部
第十師團					第十師團司令部
第十一師團					第十一師團司令部
第十二師團					第十二師團司令部
第十三師團					第十三師團司令部
第十四師團					第十四師團司令部
第十五師團					第十五師團司令部
第十六師團					第十六師團司令部
第十七師團					第十七師團司令部
第十八師團					第十八師團司令部
第十九師團					第十九師團司令部
第二十師團					第二十師團司令部

近衛(第何師團)小(大)機動演習部隊編制表 明治二十二年十月 陸軍省陸軍部第五十七號

備考

○此小機動演習ノ日課表ニ各隊各師團ノ野外演習(或ハ混合小機動)ノ對抗演習(或ハ混成旅團)ノ對抗演習(或ハ師團)ノ演習

○此小機動演習ノ日課表ニ各隊各師團ノ野外演習(或ハ混合小機動)ノ對抗演習(或ハ混成旅團)ノ對抗演習(或ハ師團)ノ演習

○此小機動演習ノ日課表ニ各隊各師團ノ野外演習(或ハ混合小機動)ノ對抗演習(或ハ混成旅團)ノ對抗演習(或ハ師團)ノ演習

○此小機動演習ノ日課表ニ各隊各師團ノ野外演習(或ハ混合小機動)ノ對抗演習(或ハ混成旅團)ノ對抗演習(或ハ師團)ノ演習

師團	第一師團	第二師團	第三師團	第四師團	第五師團	第六師團	第七師團	第八師團	第九師團	第十師團	第十一師團	第十二師團	第十三師團	第十四師團	第十五師團	第十六師團	第十七師團	第十八師團	第十九師團	第二十師團
第一師團																				
第二師團																				
第三師團																				
第四師團																				
第五師團																				
第六師團																				
第七師團																				
第八師團																				
第九師團																				
第十師團																				
第十一師團																				
第十二師團																				
第十三師團																				
第十四師團																				
第十五師團																				
第十六師團																				
第十七師團																				
第十八師團																				
第十九師團																				
第二十師團																				

明治二十二年十月 陸軍省陸軍部第五十七號

五十四

東宮亮 一人 奏任

職務ヲ掌理ス

東宮侍從長 一人 勅任二等

常侍奉仕シ侍從ヲ監督ス

東宮侍從 三人 奏任

常侍奉仕ス

東宮武官 四人 陸軍佐官一人尉官三人

常侍奉仕ス

東宮屬 判任

東宮内舍人 准判任六等以下

宮丁 等外

一東宮大夫俸給ハ宮内省官制第五十條高等官俸給表勅任官ノ部第二項ニ東宮侍從長俸給ハ同第四項ニ東宮亮及東宮侍從俸給ハ同奏任官ノ部第二項ニ依ル
一東宮内舍人及宮丁俸給ハ同條准官俸給表主殿寮内舍人及皇太后宮職宮丁ニ同

○陸軍第六十號

軍隊教育順次教令別冊ノ通改正ス

但來レ十二月一日ヨリ施行スヘシ

明治二十二年十一月四日

(册別)

陸軍大臣伯爵大山 巖

軍隊教育順次教令

第一部 軍隊一般ノ教育

第一條 此教令ハ歩騎砲工輜重兵隊ニ於テ毎歲履行スヘキ教育ノ大綱ヲ示スモノトス

但看護手諸職工ノ軍事教育及電信術並ニ擔架術修習ノ如キハ別ニ定ムル所ノ規則ニ從フ

第二條 教育ハ中隊ヲ以テ單位トシ兵卒ノ年次ニ隨ヒテ之ヲ教育班ニ分ツ

第三條 教育ハ毎歲十二月上旬即チ新兵入營ノ時期ニ始マリ翌年十一月中旬機動演習濟ヲ以テ其終リヲ告グ之ヲ教育年ト云フ

第四條 教育年ヲ數期ニ分チ諸兵ノ進歩ヲ一致セシム(附表第一ヨリ第六ニ至ル)

第五條 徵兵入營セシヨリ第二期末ノ檢閲終ルマテヲ教育上ニ於テ之ヲ新兵ト稱ス

第六條 初年兵第一期及第二期中ハ專ラ教育ヲ主トスルヲ以テ諸勤務ヲ免除ス

但舍内及口食事諸番等ハ之ヲ勤メシムルヲ得然レトモ日課ノ演習ニハ必ス出場セシムヘシ

第七條 第一期末新兵ノ檢閲ニ於テ結果不良ノ者ハ第二期ニ移ルト雖トモ別ニ日課ノ時間ヲ増加シテ未熟ノ科業ヲ復習セシムヘシ

第八條 初年兵ノ内ニ於テ剛吹率ニ採用スヘキモノハ每中隊ニ所要ノ人員ヲ撰定シ教育時間ノ餘暇ヲ以テ剛吹演習ヲ爲サシメ第二期ヲ終レハ剛吹專業ニ從事セシム

第九條 教練トハ操典ニ基キ施行スル諸操練ヲ云フ而シテ生地ニ於ケル戰陣演習モ亦之ニ含有ス

第十條 野外勤務トハ野外要務令ニ基キ施行スル諸演習ニシテ駐軍行軍ノ勤務ヲ云フ

第十一條 野外演習トハ操典及野外要務令ニ基キ施行スル戰陣駐軍行軍ノ諸演習ヲ云フ

第十二條 機動演習トハ諸兵連合ノ枝隊及旅團以上ニテ行フ前條演習ヲ云フ

第十三條 徵兵初メテ入營スルトキハ營ヲ規正ノ體育ヲ受ケタル者ニアラス又軍隊ノ動作ニ慣レ

ス自然畏縮倦厭ノ念ヲ生シ易キカ故之ヲ教育スル始メハ寛裕ニシテ漸次正確ニ導カントヲ要ス

第十四條 各個教練ハ士卒ノ姿勢體格ヲ完良ニシテ步履ヲ調整シ及ヒ技藝ヲ精進ニスルモノニシテ軍紀ヲ養成スルノ基礎ナルヲ以テ最モ嚴正確實ニ施行スヘキモノトス

第十五條 附表各學期ノ區畫中第何期ノ課目ト記載シアルハ悉ク其科業ノ實施ヲ要スルニ非ス只未熟ノ科業及射擊等施行ノ順序アルカ如キ延テ教育スヘキ科業ニ限ルモノトス學科モ亦之ニ準ス

第十六條 游泳及水馬、漕艇術ハ每年率キ六月十五日ヨリ九月十五日マテノ間ニ於テ各地ノ氣候ヲ斟酌シテ施行スルモノトス

第十七條 行軍中ノ風紀、步調、裝方及ヒ勞働ニ慣熟セシムル爲メ少クモ毎月二日續ケテ行軍ヲ行ハシムヘシ其法初年兵ニ在テハ最初ハ小里程ニシテ漸次之ヲ増加スルモノトス

但初年兵ハ第一期中行軍ヲ行フコトナシ

第十八條 新兵ニハ第一期及第二期中適宜ノ時間ニ於テ喇叭ノ諸號音ヲ聽習セシメ及ヒ散兵竝ニ野外勤務ニ於ケル所用ノ記號(步兵、騎兵)ヲ教授スヘシ

第十九條 新兵ノ教育ヲシテ齊一ナルヲシムル爲メ毎年新兵ノ入營前適宜ノ時期ニ於テ聯(大)隊中新兵掛教官及ヒ助教ヲ集メテ教習スヘシ之カ爲メ大尉一名ヲシテ此教習ヲ掌ラシメ一名ノ大隊長之ヲ監視ス

第二十條 凡テ檢閲ヲ行フ上官ハ其意見ヲ以テ科業ヲ命シ之ヲ檢閲スルモノトス但其課目ヲ舉レハ大凡左ノ如シ

步兵

一 第一期聯隊長行フ所ノ新兵ノ檢閲ハ衛科ハ各個教練學科ハ服務ニ關スル事款トス

二 第二期聯隊長行フ所ノ中隊ノ檢閲ハ衛科ハ步兵操典第三編第一章學科ハ內務及衛兵勤務ニシテ各中隊ノ教育確實一ナルヤ否ヲ查閱スヘキモノトス

三 第三期旅團長行フ所ノ大隊教練ノ檢閲ハ步兵操典第四編第一部トス

四 第五期ノ始メニ於テ大隊長行フ所ノ檢閲ハ各中隊ノ體操竝ニ野外勤務ノ學科第二、第三年兵ニアリテハ射擊ノ學科ヲモ查閱スヘキモノトス

騎兵

一 第一期大隊長行フ所ノ新兵ノ檢閲ハ衛科ハ各個教練學科ハ服務ニ關スル事款トス

二 第二期大隊長行フ所ノ中隊ノ檢閲ハ衛科ハ中隊教練及馬術、學科ハ內務及衛兵勤務ニシテ第二、第三年兵ニアリテハ馬學ヲ加ヘ各中隊ノ教育確實一ナルヤ否ヲ查閱スヘキモノトス

三 第三期ノ終リニ於テ大隊長行フ所ノ檢閲ハ各中隊ノ體操、輕乘竝ニ野外勤務ノ學科トス

砲兵

一 第一期聯隊長行フ所ノ新兵ノ檢閲ハ衛科ハ各個教練學科ハ服務ニ關スル事款トス

二 第二期聯隊長行フ所ノ中隊ノ檢閲ハ衛科ハ乘馬教練、裝設取法、裝設、馬小隊及中隊教練學科ハ內務及器具名稱、裝法、手入法、火砲彈藥、火具ノ種類竝ニ其効力、衛兵勤務ニシテ各中隊ノ教育確實一ナルヤ否ヲ查閱スヘキモノトス

三 第三期ノ終ニ於テ大隊長行フ所ノ檢閲ハ各中隊ノ體操竝ニ肩擔及砲臺ノ構造法、其名稱、射擊、野外勤務ノ學科第二、第三年兵ニアリテハ馬匹衛生法ヲモ查閱スヘキモノトス

工兵

一 第二期大隊長行フ所ノ新兵ノ檢閲ハ衛科ハ各個教練學科ハ服務ニ關スル事款トス

工兵一箇年間教育順次概表

年次	學科		學科		學科	
	初年	二年	初年	二年	初年	二年
第一	第一	第二	第一	第二	第一	第二
	第一	第二	第一	第二	第一	第二
第二	第一	第二	第一	第二	第一	第二
	第一	第二	第一	第二	第一	第二
第三	第一	第二	第一	第二	第一	第二
	第一	第二	第一	第二	第一	第二

年次	學科		學科		學科	
	初年	二年	初年	二年	初年	二年
第一	第一	第二	第一	第二	第一	第二
	第一	第二	第一	第二	第一	第二
第二	第一	第二	第一	第二	第一	第二
	第一	第二	第一	第二	第一	第二
第三	第一	第二	第一	第二	第一	第二
	第一	第二	第一	第二	第一	第二

輜重兵一箇年間教育順次概表

年次	學科		學科		學科	
	初年	二年	初年	二年	初年	二年
第一	第一	第二	第一	第二	第一	第二
	第一	第二	第一	第二	第一	第二
第二	第一	第二	第一	第二	第一	第二
	第一	第二	第一	第二	第一	第二
第三	第一	第二	第一	第二	第一	第二
	第一	第二	第一	第二	第一	第二

期 一 第	期 二 第	期 三 第
逕旬下月三	逕旬下ハク若旬中月六	逕旬下月八
大隊長新兵ノ檢閱	大隊長中隊ノ檢閱及學科ノ檢閱	大隊長中隊ノ檢閱及學科ノ檢閱
射擊 距離 飛馬 騎馬 徒歩 第一 期ノ 課目	射擊 距離 飛馬 騎馬 徒歩 第一 期ノ 課目	射擊 距離 飛馬 騎馬 徒歩 第一 期ノ 課目
野戰 預行 演習	野戰 預行 演習	野戰 預行 演習
各種物品積載法	各種物品積載法	各種物品積載法
野外勤務初歩	野外勤務初歩	野外勤務初歩
同上	同上	同上
大隊長新兵ノ學科檢閱	大隊長中隊ノ檢閱及學科ノ檢閱	大隊長中隊ノ檢閱及學科ノ檢閱
射擊 距離 飛馬 騎馬 徒歩 第一 期ノ 課目	射擊 距離 飛馬 騎馬 徒歩 第一 期ノ 課目	射擊 距離 飛馬 騎馬 徒歩 第一 期ノ 課目
野戰 預行 演習	野戰 預行 演習	野戰 預行 演習
各種物品積載法	各種物品積載法	各種物品積載法
野外勤務初歩	野外勤務初歩	野外勤務初歩
同上	同上	同上

第六表乙

期 五 第	期 四 第	期 三 第	期 二 第	期 一 第
逕旬中月一十	逕旬下月十	逕旬下月十	逕旬下月十	逕旬下月十
機動演習	機動演習	機動演習	機動演習	機動演習
大隊長中隊ノ檢閱及學科ノ檢閱	大隊長中隊ノ檢閱及學科ノ檢閱	大隊長中隊ノ檢閱及學科ノ檢閱	大隊長中隊ノ檢閱及學科ノ檢閱	大隊長中隊ノ檢閱及學科ノ檢閱
射擊 距離 飛馬 騎馬 徒歩 第一 期ノ 課目	射擊 距離 飛馬 騎馬 徒歩 第一 期ノ 課目	射擊 距離 飛馬 騎馬 徒歩 第一 期ノ 課目	射擊 距離 飛馬 騎馬 徒歩 第一 期ノ 課目	射擊 距離 飛馬 騎馬 徒歩 第一 期ノ 課目
野戰 預行 演習	野戰 預行 演習	野戰 預行 演習	野戰 預行 演習	野戰 預行 演習
各種物品積載法	各種物品積載法	各種物品積載法	各種物品積載法	各種物品積載法
野外勤務初歩	野外勤務初歩	野外勤務初歩	野外勤務初歩	野外勤務初歩
同上	同上	同上	同上	同上
大隊長中隊ノ檢閱及學科ノ檢閱	大隊長中隊ノ檢閱及學科ノ檢閱	大隊長中隊ノ檢閱及學科ノ檢閱	大隊長中隊ノ檢閱及學科ノ檢閱	大隊長中隊ノ檢閱及學科ノ檢閱
射擊 距離 飛馬 騎馬 徒歩 第一 期ノ 課目	射擊 距離 飛馬 騎馬 徒歩 第一 期ノ 課目	射擊 距離 飛馬 騎馬 徒歩 第一 期ノ 課目	射擊 距離 飛馬 騎馬 徒歩 第一 期ノ 課目	射擊 距離 飛馬 騎馬 徒歩 第一 期ノ 課目
野戰 預行 演習	野戰 預行 演習	野戰 預行 演習	野戰 預行 演習	野戰 預行 演習
各種物品積載法	各種物品積載法	各種物品積載法	各種物品積載法	各種物品積載法
野外勤務初歩	野外勤務初歩	野外勤務初歩	野外勤務初歩	野外勤務初歩
同上	同上	同上	同上	同上

輸卒教育順次概表

二箇	各種物品積載作業	衛兵勤務概要
期	野外勤務	野外勤務概要
月	大隊長野外勤務ノ檢閲	
備考	第一期末大隊長教練ノ檢閲ハ歐馬小隊教練トス	

○海軍省選第四百三十六號
海軍治罪法執行規則第五十二條中「再審」ノ下ノ「ニ付キ直チニ判決ニ付スル」ノ十二字ヲ刪除ス

明治二十二年十一月四日
海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省選第四百三十七號
海軍下士卒食器給與規則第十條ヲ刪除ス

明治二十二年十一月四日
海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省選第四百二十八號
橫須賀軍港内ニ在ル火藥庫彈藥庫等ノ名稱左ノ通定ス

但浦ノ鄉村ニ在ル火藥庫名稱ハ昨年七月連第六十號ノ如シ

明治二十二年十一月八日
海軍大臣伯爵西郷從道

所在地	名稱
長浦村ノ内字ヒロヤ	比與字火藥庫
同	比與字危險物積納庫
同	比與字給火藥庫
長浦村ノ内字行基町	行基火藥庫

同	同	行基彈藥庫
浦ノ鄉村ノ内字郷戸	郷戸給火藥庫	
横須賀町ノ内字郷々浦	郷々浦火藥庫	

○陸軍省選第四百六十一號
本年三月陸軍第三十五號陸軍軍人軍屬汽船乘込命令書第六條ノ次ヘ左ノ通追加ス

明治二十二年十一月十二日
陸軍大臣伯爵大山 巖

第七條 陸軍新兵入營ノ時大隊區司令部所在地他ノ地ニ召集シヨリ入營地迄ノ間ハ第一條ニ依リ賞金ヲ減却シ乗船スルコトヲ得ヘシ

○陸軍省選第四百六十二號
本年五月陸軍第九十二號私設鐵道乘車手續書第七條ノ次ヘ左ノ通追加ス

明治二十二年十一月十二日
陸軍大臣伯爵大山 巖

第八條 陸軍新兵入營ノ時大隊區司令部所在地他ノ地ニ召集シヨリ入營地迄ノ間ハ木手續書ニ依リ乘車スルコトヲ得

○陸軍省選第四百六十三號
各兵科憲兵也田兵中尉一等給定員ハ將接國毎ニ在職現員ノ上一半トス

明治二十二年十一月十三日
陸軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省選第四百三十九號
海軍通常物品會計規程第七條表中木省ノ部ヲ改正スルコト左ノ如シ

明治二十二年十一月十三日
海軍大臣伯爵西郷從道

本省 第二局 局長 第二局第四課長 第二局第四課員中

○海軍省違第四百四十號 自今新艦ニ備附クル書籍ノ費用ハ艦營需品費支辨ト定ム

明治二十二年十一月十三日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省違第四百四十一號 艦内克府伯砲取扱規則別冊ノ通定ム

但別冊ハ軍艦及之ヲ要スル國隊接觸ニ配布ス (別冊略ス)

明治二十二年十一月十三日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省違第四百四十二號 軍樂器取扱手續左ノ通定ム

明治二十二年十一月十四日

海軍大臣伯爵西郷從道

第一條 軍樂器ハ軍樂練習所ニ於テ管理ス

第二條 鎮守府艦隊ニ配置スル軍樂隊員ニ須用ノ軍樂器ハ隊員ヲシテ各自携帯セシム

第三條 左ニ掲クル軍樂器附屬品ノ豫備品ハ各鎮守府兵器部ニ備置ク可シ

鐵製樂譜臺

樂譜臺ノ鏡

樂譜臺用硝子ホヤ

大太鼓掛革

大太鼓掛革

大太鼓日覆

大太鼓日覆

小太鼓撥

大太鼓撥網

小太鼓撥網

小太鼓掛革

小太鼓掛革

小太鼓日覆

小太鼓日覆

小太鼓響線

小太鼓響線

クラリネットノ舌

クラリネットノ舌

クラリネットノ鈕

クラリネットノ鈕

眞鍮樂器類ノ發條

眞鍮樂器類ノ發條

第四條 鎮守府艦隊ニ配置セル軍樂隊員携帶ノ軍樂器ヲ引換改造分ノ新製改造モ同シトスル

トキハ其理由ヲ明記シ艦長或ハ團長ヨリ軍樂練習所長ニ請求ス可シ

第五條 鎮守府艦隊ニ配置セル軍樂隊員携帶ノ軍樂器ヲ修理スルトキハ兵器造修規則ニ依ル可シ

第六條 軍樂練習所ニ於テ艦團長ヨリ軍樂器引換ノ請求ヲ受ケタルトキ貯藏アルモノハ直ニ其請

求ニ應ジ貯藏ナキモノハ之ヲ第二局ニ請求シ又改造ノ請求ヲ受ケタルトキハ其理由ヲ審查シ改

造ヲ必要ト認ムルトキハ第七條及第八條ニ依ル可シ

第七條 軍樂練習所ニ於テ軍樂器ノ改造修理ヲ要スルトキハ兵器造修規則第四條及第六條ニ依ル

可シ

第八條 軍樂練習所ニ於テ軍樂器ヲ新ニ備附クルヲ要シ又ハ全體ノ改造ヲ要スルトキハ練習所長

ヨリ大學校長ヲ經由シ伺出ツ可シ

第九條 軍樂練習所ニ於テ古式或ハ破損ノ軍樂器ニシテ將來使用ノ見込ナシト認ムルモノアルト

キハ進兵廠ニ還納シ還納ノ理由及員數ヲ明記シタル報告書ヲ第二局ニ差出ス可シ

第十條 軍樂練習所ニ豫備トシテ貯藏スル軍樂器ハ毎年六月十二月末日ノ現在員數ヲ翌月五日迄

第二局ニ報告ス可シ

第十一條 豫備軍樂器ノ缺乏ヲ補充セントスル時ハ毎年二月其翌々會計年度ニ要スル分ヲ豫算シ之ヲ第二局ニ通知ス可シ

第十二條 軍樂器ノ運搬ハ都テ造兵廠又ハ兵器部ニテ取扱フモノトス

○海軍省達第四百四十三號
物件運搬ニ係ル契約書ハ會計監督部若クハ會計監督官ノ調査ニ付スヘキモノトシ主務ニ於テハ其草案ヲ作り大臣若クハ廳長ノ裁決ニ付スルノ前ニ於テ必要書類ヲ添ヘ會計監督部若クハ會計監督官ニ送付ス可シ

明治二十二年十一月十四日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省達第四百四十四號

會計規則施行ノ日ヨリ經費支出ノ證明ハ別冊會計検査院ニ於テ定ムル所ノ支出證明規程ニ據ル可シ
但別冊ハ之ヲ要スル艦隊團ニ會計局ヨリ送付ス (別冊略)

明治二十二年十一月十四日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省達第四百四十五號

雇員備入採用規則第二條中以上各廳ニ限リ使役スルモノトス「トアルヲ」右ノ内印刷工ハ海軍參謀部海軍兵學校ニ限リ使役シ其他ハ各廳ニ限リ使役スルモノトス「ト改メ同條末項中「工場ニ於テ臨時使役スル」ノ十一字ヲ刪除シ第四條中「定員百五十八」ノ下ニ「練習艦ハ練習員ノ割註ヲ加ヘ第五條ヲ改正スル」ト左ノ如シ

明治二十二年十一月十五日

海軍大臣伯爵西郷從道

第五條 雇員及備入ヲ採用シ若クハ補缺スルトキハ經費ニ關シテ軍事費ニ屬スルモノハ第一局長、本省費ニ屬スルモノハ會計局長ニ豫メ協議ス可シ但從僕剃夫及傭團ニ於テ使役スル割烹ハ協議ヲ要セス

○海軍省達第四百四十六號

佐世保鎮守府所轄軍艦海門ヲ砲術練習艦ト定メラレ該役務中横須賀鎮守府ニ屬セラル
明治二十二年十一月二十日
海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省達第四百四十七號

自今軍樂生ノ入籍番號ハ「軍練第何號」ト記シ第一號ヨリ順次付與スヘシ
明治二十二年十一月二十日
海軍大臣伯爵西郷從道

○陸達第四百六十四號

下士以下戰時出征ノ節著帽ノ儀ハ當分專ラ第二種帽ヲ用ユヘシ
明治二十二年十一月二十一日
陸軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省達第四百四十八號

明治二十二年下士學術検査規格ヲ下士學術検査規格ト改メ左ノ通改正ス
明治二十二年十一月二十五日
海軍大臣伯爵西郷從道
舊筆記項目舊主厨項目ヲ左表ノ如ク改メ

水料	全	點	注帳項目
價	三〇	三〇	海軍條例則
費	點十六	三〇	關止略

職名		科目		全點數		項目	
廚夫學術検査規格							
四	制	八	點	二	點	七	百
一〇	刺身流ヒノ仕方	一〇	魚類方	一〇	肉類制キ方	一八〇	三等看病夫ノ諸項目
五	魚類方	五	魚類方	五	出血ノ種類	一〇	上下肢ノ止血法
五	魚類方	五	魚類方	五	醒酒法	一〇	救溺法
一〇	刺身流ヒノ仕方	一〇	魚類方	一〇	刺刺毒藥ノ區別	一〇	定規器ノ用量
							調劑ノ注意
							秤量器及乳鉢ノ用法
							製劑諸法ノ名稱及其概略
							三等看病夫ノ諸項目
							船舶操法

職名		科目		全點數		項目	
廚夫學術検査規格							
三	制	五	點	十	點	四	百
一〇	刺身流ヒノ仕方	一〇	魚類方	一〇	肉類制キ方	一八〇	三等看病夫ノ諸項目
五	魚類方	五	魚類方	五	出血ノ種類	一〇	上下肢ノ止血法
五	魚類方	五	魚類方	五	醒酒法	一〇	救溺法
							刺刺毒藥ノ區別
							定規器ノ用量
							調劑ノ注意
							秤量器及乳鉢ノ用法
							製劑諸法ノ名稱及其概略
							三等看病夫ノ諸項目
							船舶操法

明治二十二年十一月二十六日

陸軍大臣伯爵大山 巖

銃術

第一百十九 此演習ハ操典ニ附スル特別ノ教範ニ從フテ教授ス
第二百一〇ヨリ第四百六十六ヲ削除

○陸軍省第四百六十六號

明治二十二年十一月二十六日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省第四百五十號

豫備炭山開坑委員ヲ母キ定員ヲ左ノ通定メ第二局長ノ指揮ヲ受ケ坑前國豫備炭山開坑事業ヲ掌ラ
シム

明治二十二年十一月二十六日

海軍大臣伯爵西郷從道

豫備炭山開坑委員定員表

委員	員	員
大機關士	一	一
技師 第二局ヨリ	一	二
主任會計	一	一
學生	一	一

○海軍省第四百五十二號

海軍下士卒被服供給規則第二表中毛布ノ下ノ「七箇年」ヲ「無期」ト改メ
シ勤務處ニ於テ旅費ヲ給スル儀ト心得ヘシ

明治二十二年十一月二十六日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省第四百五十三號

明治二十二年十一月二十六日

海軍大臣伯爵西郷從道

横須賀鎮守府所管軍艦高雄ヲ警備艦ト定メラシム

明治二十二年十一月二十七日

海軍大臣伯爵西郷從道

○陸軍省第四百六十七號

野戰電信隊演習田筆銃藥支給表別紙ノ通定メ (別紙略ス)

明治二十二年十月二十九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍省第四百六十八號

各隊備附馬具附屬鞍下毛布ノ儀騎兵隊ヲ除クノ外從來半部一枚宛使用ノ處自今總テ本部一枚宛ヲ
用フ

但時宜ニ依リ半部二枚ヲ以テ本部一枚ニ換用スルモ妨ケナシ

明治二十二年十一月二十九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省第四百五十四號

五等尉夫教育規則左ノ通定メ

明治二十二年十一月二十九日

海軍大臣伯爵西郷從道

五等尉夫教育規則

- 第一條 五等廚夫ハ海兵團ニ於テ教育スルモノトス
- 第二條 五等廚夫入營スルトキハ分隊長ヲシテ先ツ軍人ノ本分即チ 勅諭ノ大旨ヲ教諭セシメ教員ヲシテ左ノ事項ヲ教授セシム
 - 第一 衣服著裝及姿勢
 - 第二 釣床取扱方及衣籠手箱ニ關スル心得
 - 第三 武官ノ階級及敬禮式ノ要領
 - 第四 營内諸規則
- 第三條 五等廚夫ノ學期ハ八箇月トス其學科ハ左ノ如シ

學科	科目	目
學科	科目	炊器炊具使用法
		肉類捌き方
		魚類捌き方
		牛肉煮込ミ方
		刺身洗ヒノ仕方
		ステーキ煮出シ方
		馬鈴薯ノゆで方
		「シチュウ」ノ仕方
		「ポイルド」ノ仕方
		食糧包ノ製法
習字	行書 草書	兵要日本地理小誌 日本小史
		「ビフステーキ」ノ仕方
		「ラムレット」ノ仕方
		「ワイズカレ」ノ仕方
		「キヤベツ」ノ仕方
		「シチュウ」ノ仕方
		「ポイルド」ノ仕方
		「ビフステーキ」ノ仕方
		「ラムレット」ノ仕方
		「ワイズカレ」ノ仕方

算術 四則 分數 諸等 小數 比例
 武科 銃隊操式生兵第一節第一章 槍刀操法 船船操法

- 算術ヲ教フルニハ算珠算ヲ併用スルモノトス
 - 第四條 試驗ハ小試驗及大試驗ノ二種トス
 - 第五條 小試驗ハ二箇月コトニ之ヲ行ヒ大試驗ハ全學科ノ終ニ之ヲ行フ
 - 第六條 小試驗及大試驗ニ於ケル及第點數ハ割算讀書算術ハ全點數十分ノ五以上武科ハ全點數十分ノ四以上トス
 - 割算ノ試驗ハ實地ニ行フヲ要セス平常ノ業前ニ依リ點數ヲ附與ス可シ
 - 第七條 大試驗成績ハ全科小試驗平均ノ得點ト大試驗得點トヲ合算シテ之ヲ定ム
 - 第八條 大試驗ニ及第シタルトキハ四等廚夫ニ進級セシム
 - 第九條 大試驗ニ落第シタル者ハ若干日間復習セシメ再試驗ヲ行フ但再試驗ニ落第シタル者ハ復課程ヲ履マシムルコトナシ
 - 第十條 再試驗ニ落第シタル者ハ練習艦員外乗組ヲ命シ實地ニ使役シ乗艦ノ日ヨリ二箇月以上ニ至ラハ成績ヲ考ヘ四等廚夫ニ進級セシム
- 海軍省達第四百五十五號
- 海軍軍人軍屬食料支給定規中學校病院等ニ起臥スル下士卒「トナル」ヲ「學校病院等ニ起臥スル生徒下士卒及校外寄宿生徒」ト改メ左ノ一項ヲ追加ス
- 但本達ハ明治二十二年十二月一日ヨリ施行ス
- 明治二十二年十一月二十九日
- 海軍大臣伯爵西鄉從道

一各領守府主計部衣糧課ニ於テハ戰時事變若クハ艦船出航等ノ準備トシテ食品ヲ購入貯藏スヘ

○陸軍省第六十九號

兵站電信隊電信材料員數表同各隊馬配賦表同分配表別紙ノ通定ム (別紙略ス)

明治二十二年十二月二日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍省第七十號

兵站電信材料圖彙圖解別冊ノ通定ム (別冊略ス)

明治二十二年十二月二日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○宮内省第二十二號

學習院官制ヲ改定スルコト左ノ如シ

明治二十二年十二月四日

奉 勅

宮内大臣子爵土方久元

第一條 學習院ニ左ノ職員ヲ置キ學生教育ニ關スル事務ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル

學習院長 一人 勅任

學習院教育ノ主旨及學制其他宮内大臣ノ令違ニ依リ院務ヲ總理シ職員ヲ統督シ學生育成ノ責ニ任ス

學習院幹事 二人 奏任

長ノ命ヲ承ケ院務ヲ掌理ス

學習院書記 判任五等以下

幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

學習院教授 奏任

長ノ命ヲ承ケ教育ニ從事ス

學習院助教

判任

教授ノ職掌ヲ補助ス

學習院學生監 一人 奏任四等五等

長ノ命ヲ承ケ學生ヲシテ院内ノ法規ヲ遵守シ軍隊ノ紀律ニ慣熟セシメ且其風俗ヲ監督シ又武
課ノ教習ニ從事シ兼テ寄宿舎及廢舎ヲ管理ス

學習院學生監副官一人 奏任 學生監ノ次等以下

學生監ノ職務ヲ補助ス

學習院學生監助手 判任五等以下

學生監及學生監副官ノ指揮ヲ承ケ其職務ノ細節ニ從事ス

學習院主計

奏任六等又ハ判任五等以上

長ノ命ヲ承ケ學習院會計規則ニ依リ出納ヲ掌理ス

學習院計吏

判任六等以下

主計ノ指揮ヲ承ケ簿記計算ニ從事ス

學習院醫官 一人

奏任五等以下又ハ判任五等以上

長ノ命ヲ承ケ醫藥衛生ニ從事ス

第二條

教授上必要アルトキ又判任官缺員アルトキハ長適當ナル者ヲ撰テ囑托員備員ヲ置クコト
ヲ得

第三條 院内ノ紀律及職員分掌服務規程ハ長之ヲ定メ宮内大臣ニ申牒スヘシ

第四條 高等官俸給ハ宮内省官制第五十條高等官俸給表ニ依リ長ハ第三級俸第四級俸第五級俸第
六級俸ノ内ヲ賜ヒ奏任官五等以上ハ各其等位ニ依リ第一級俸第二級俸第三級俸第四級俸ノ内ヲ

賜ヒ奏任官六等ハ第一級俸第二級俸第三級俸第四級俸第五級俸第六級俸ノ内ヲ賜ヒ判任官俸給
ハ同條副官俸給ニ依ル

第五條 教授助教ニハ其授業時間ノ多少學課ノ難易等ニ依リ官等相等俸給以下ノ額ヲ給スルコ
トアルヘシ

第六條 囑托員ノ報酬備員ノ俸給ハ長適當ニ之ヲ定ム

第七條 宮内省官制第四十八條第四十九條第五十一條第五十二條第五十三條第六十一條ハ此官制
ニモ亦適用ス

○宮内省遊第二十二號

明治十九年二月十日 達 華族女學校官制ヘ左ノ四條ヲ追加ス

明治二十二年十二月四日

奉 勅

奉 勅

宮内大臣子爵土方久元

第八條 高等官俸給ハ宮内省官制第五十條高等官俸給表ニ依リ長ハ第三級俸第四級俸第五級俸第
六級俸ノ内ヲ賜ヒ奏任官ハ各其等位ニ依リ第一級俸第二級俸第三級俸第四級俸ノ内ヲ賜ヒ判任
官ハ同條副官俸給ニ依ル

第九條 教授助教ニハ其授業時間ノ多少學課ノ難易等ニ依リ官等相等俸給以下ノ額ヲ給スルコト
アルヘシ

第十條 教授上必要アルトキ又判任官缺員アルトキハ長適當ナル者ヲ撰テ囑托員備員ヲ置クコト
ヲ得其報酬及俸給ハ長適當ニ之ヲ定ム

第十一條 宮内省官制第四十八條第四十九條第五十一條第五十二條第五十三條第六十一條ハ此官
制ニモ亦適用ス

明治二十二年十二月 勅 宮内省第二十二號

○陸軍部第七十一號

今般勅令第四百二十三號ヲ以テ公布相成候陸軍乘馬飼養條例改正ノ儀ハ砲工學校憲兵司令部陸地測
量部屯田兵及屯田兵隊副官ノ外ハ來ルニ二十年度ヨリ施行ノ儀ト心得ヘン

明治二十二年十二月四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省達第四百五十六號
掌砲兵配置表中扶桑ノ次ニ左ノ一欄ヲ加フ

明治二十二年十二月四日

八重山	二十八
-----	-----

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省達第四百五十七號
掌水雷兵配置表中扶桑ノ次ニ左ノ一欄ヲ加フ

明治二十二年十二月四日

八重山	八
八	八

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省達第四百五十八號

小野濱造船所定員表中專屬員屬三トナルヲ屬二ト改メ製造科判任官ノ部^{上等技士}十一ノ次ニ屬
一ノ一行ヲ加フ

明治二十二年十二月四日

海軍大臣伯爵西郷從道

○陸軍部第七十二號
憲兵下士上等兵補充細則別冊ノ通定

明治二十二年十二月五日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(別冊)

憲兵下士上等兵補充細則

第一條 憲兵下士及ロ上等兵ノ補充ハ左ノ二項ニ恰當シタル者ヲ以テス

一 品行方正志氣確實

二 下士ハ滿二十三歲以上三十五歲迄上等兵ハ滿二十二歲以上三十歲迄

第二條 各兵科ヨリ憲兵下士及上等兵ヲ補充スルハ現役及ロ豫備後備ノ下士兵卒ニシテ二箇年以
上現役ニ服シ補充検査ニ合格シタル者ニ限ル

第三條 憲兵上等兵ヨリ下士ヲ補充スルニハ分隊長部下上等兵ニシテ第一條第一項第二項ニ恰當
ノ者ヲ選抜シ技能ノ優劣ニ由リ順序ヲ定メ下士候補名簿及ロ品行證明書ヲ製シ三月三十一日

迄ニ之ヲ憲兵隊長ニ呈シ憲兵隊長ハ點檢取捨ヲ加ヘ各分隊ヲ通シテ順序ヲ定メ下士候補名簿ヲ
製シ憲兵司令官ニ呈ス可シ

憲兵司令官ハ候補名簿ヲ點檢取捨シ之ヲ陸軍大臣ニ呈シ認可ヲ請ケ各隊ノ缺員ニ應シ下士候補
者ヲ二等軍曹ニ任ス

下士候補者ヲ以テ缺員ヲ補フニハ同隊ニ於テスルヲ例トス

第四條 各兵科ノ下士兵卒ヨリ憲兵下士及ロ上等兵ノ補充ヲ要スルトキハ憲兵司令官ヨリ所要ノ
人員ヲ陸軍大臣ニ上申シ陸軍大臣之ヲ告達ス但各兵科ヨリ補充スルニハ補充ヲ要スル憲兵隊所
在地ノ師管內ニ於テスルヲ例トス

第五條 前條ノ告達アルトキハ近衛都督又ハ師團長之ヲ各隊長大隊區司令官^{歩兵聯隊長及大隊區}
司令官^{旅團長}ニ達シ各隊長大隊區司令官ハ志願者ヲ取調ヘ其人名簿ニ品行證明書ヲ添ヘ近衛都督師團長^兵

聯隊長及大隊區司令ニ呈シ同官ヨリ之ヲ憲兵司令官ニ送付ス可シ
官ハ旅團長ヲ細テ
各官廳ニ在テハ前項ニ準シ志願者ヲ取調ヘ其長官ヨリ人名書及ヒ品行證明書ヲ憲兵司令官ニ送付ス可シ

第六條 憲兵司令官前條ノ書類ヲ受領スルトキハ其書類ヲ添ヘ憲兵隊長ニ送シ該隊副官又ハ分隊長ヲ各地ニ派遣シテ補充検査ヲ行ハシム可シ

其検査ニ合格ノ者ハ副官又ハ分隊長其優劣ニ由リ順序ヲ定メ憲兵下士候補名簿又ハ憲兵上等兵候補名簿ヲ製シ検査書類ト共ニ之ヲ憲兵隊長ニ呈シ憲兵隊長ハ點檢取捨ヲ加ヘ一師管ヲ通シテ順序ヲ定メ下士候補名簿又ハ上等兵候補名簿ヲ製シ憲兵司令官ニ呈ス可シ

憲兵司令官ハ候補名簿ヲ點檢取捨シ其下士候補名簿ハ豫メ陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ所要ニ應ジ候補名簿ノ順序ニ從ヒ憲兵下士又ハ上等兵ニ選任ス可シ但其任命ハ近衛都督師團長其他ノ長官ヲ經由スヘシ

第七條 憲兵下士上等兵補充検査ハ體格及ヒ學科ノ二種トシ其學科ハ筆記及ヒ口述ノ二種トス但體格検査ニ合格セサル者ハ學科ノ検査ヲ行ハズ

體格検査ハ検査場所所在地ノ陸軍醫官ヲシテ從事セシムルヲ以テ憲兵司令官若クハ憲兵隊長ヨリ醫官所屬ノ長官ニ照會ス可シ

第八條 憲兵下士上等兵補充検査格例及ヒ合格規程ハ憲兵司令官之ヲ定メ近衛都督師團長ノ各官廳長官ニ通知ス可シ

第九條 憲兵下士上等兵補充検査施行期日ハ憲兵隊長ヨリ各隊長大隊區司令官及ヒ所屬長官ニ通知ス可シ

第十條 憲兵下士上等兵補充検査ノ場所ニ往復スル者ノ旅費ハ總テ自辨トス

○陸軍省令第七十三號

七珂米野山砲隊備附方別表ノ通定ム (別表略ス)

明治二十二年十二月五日

○陸軍省令第七十四號

天皇皇后兩陛下ニ奉進ノ際敬禮ノ儀左ノ通特ニ定メラル

陸軍大臣伯爵大山 巖

明治二十二年十二月六日

天皇皇后兩陛下公式ノ行裝ナクシテ

陸軍大臣伯爵大山 巖

行幸啓ノ際奉進スルトキハ場合ニ依リ左ノ如ク敬禮ヲ行フ

モ妨ケナシ

一 乗車ノ軍人ハ道路ノ一側ニ駐止シ其儘敬禮ヲ行フ

一 軍隊停止間歩兵及工兵ハ銃ニ劔ヲ裝セス下馬ノ騎兵ハ其儘定位ニ立チ氣ヲ付ケテ姿勢ヲ取リ

其他陸軍禮式第三十一條第一項ニ從ヒ敬禮ヲ行フ

一 軍隊行進間ニ在テハ道路ノ一側ニ停止シ(歩兵及工兵ハ銃ニ劔ヲ裝セス)其隊形ノ儘陸軍禮式

第三十三條第一項ニ從ヒ敬禮ヲ行フ

○陸軍省令第七十五號

皇太后陛下皇太子皇太子妃殿下モ亦 兩陛下ニ準ス

戰時對馬警備隊編制及對馬警備隊補充隊編制別表ノ通定メラル

陸軍大臣伯爵大山 巖

明治二十二年十二月六日

(別表)

戰時對馬警											
司令部						警備隊					
階級	區分	職	員	從	卒	馬	卒	合	計	乘	處
大	中	尉	副官	司	令	官	一	一	二		
一	等	曹	長	下	副	官	一				
二	等	曹					四		五		
三	等	曹									
一	等	尉					一				
二	等	尉					二				
三	等	尉					二				
一	等	兵					六		八		
二	等	兵					二		四		
三	等	兵					二		四		
一	等	曹					一		一		
二	等	曹					一		一		
三	等	曹					一		一		
一	等	兵					七		三		
二	等	兵					三		六		
三	等	兵					三		六		
一	等	曹					一		一		
二	等	曹					一		一		
三	等	曹					一		一		
一	等	尉					一		一		
二	等	尉					一		一		
三	等	尉					一		一		
一	等	兵					一		一		
二	等	兵					一		一		
三	等	兵					一		一		
一	等	曹					一		一		
二	等	曹					一		一		
三	等	曹					一		一		
一	等	兵					一		一		
二	等	兵					一		一		
三	等	兵					一		一		
一	等	尉					一		一		
二	等	尉					一		一		
三	等	尉					一		一		
一	等	兵					一		一		
二	等	兵					一		一		
三	等	兵					一		一		
一	等	曹					一		一		
二	等	曹					一		一		
三	等	曹					一		一		
一	等	兵					一		一		
二	等	兵					一		一		
三	等	兵					一		一		
一	等	尉					一		一		
二	等	尉					一		一		
三	等	尉					一		一		
一	等	兵					一		一		
二	等	兵					一		一		
三	等	兵					一		一		
一	等	曹					一		一		
二	等	曹					一		一		
三	等	曹					一		一		
一	等	兵					一		一		
二	等	兵					一		一		
三	等	兵					一		一		
一	等	尉					一		一		
二	等	尉					一		一		
三	等	尉					一		一		
一	等	兵					一		一		
二	等	兵					一		一		
三	等	兵					一		一		
一	等	曹					一		一		
二	等	曹					一		一		
三	等	曹					一		一		
一	等	兵					一		一		
二	等	兵					一		一		
三	等	兵					一		一		
一	等	尉					一		一		
二	等	尉					一		一		
三	等	尉					一		一		
一	等	兵					一		一		
二	等	兵					一		一		
三	等	兵					一		一		
一	等	曹					一		一		
二	等	曹					一		一		
三	等	曹					一		一		
一	等	兵					一		一		
二	等	兵					一		一		
三	等	兵					一		一		
一	等	尉					一		一		
二	等	尉					一		一		
三	等	尉					一		一		
一	等	兵					一		一		
二	等	兵					一		一		
三	等	兵					一		一		
一	等	曹					一		一		
二	等	曹					一		一		
三	等	曹					一		一		
一	等	兵					一		一		
二	等	兵					一		一		
三	等	兵					一		一		
一	等	尉					一		一		
二	等	尉					一		一		
三	等	尉					一		一		
一	等	兵					一		一		
二	等	兵					一		一		
三	等	兵					一		一		
一	等	曹					一		一		
二	等	曹					一		一		
三	等	曹					一		一		
一	等	兵					一		一		
二	等	兵					一		一		
三	等	兵					一		一		
一	等	尉					一		一		
二	等	尉					一		一		
三	等	尉					一		一		
一	等	兵					一		一		
二	等	兵					一		一		
三	等	兵					一		一		
一	等	曹					一		一		
二	等	曹					一		一		
三	等	曹					一		一		
一	等	兵					一		一		
二	等	兵					一		一		
三	等	兵					一		一		
一	等	尉					一		一		
二	等	尉					一		一		
三	等	尉					一		一		
一	等	兵					一		一		
二	等	兵					一		一		
三	等	兵					一		一		
一	等	曹					一		一		
二	等	曹					一		一		
三	等	曹					一		一		
一	等	兵					一		一		
二	等	兵					一		一		
三	等	兵					一		一		
一	等	尉					一		一		
二	等	尉					一		一		
三	等	尉					一		一		
一	等	兵					一		一		
二	等	兵					一		一		
三	等	兵					一		一		
一	等	曹					一		一		
二	等	曹					一		一		
三	等	曹					一		一		
一	等	兵					一		一		
二	等	兵					一		一		
三	等	兵					一		一		
一	等	尉					一		一		
二	等	尉					一		一		
三	等	尉					一		一		
一	等	兵					一		一		
二	等	兵					一		一		
三	等	兵					一		一		
一	等	曹					一		一		
二	等	曹					一		一		
三	等	曹					一		一		
一	等	兵					一		一		
二	等	兵					一		一		
三	等	兵					一		一		
一	等	尉					一		一		
二	等	尉					一		一		
三	等	尉					一		一		
一	等	兵					一		一		
二	等	兵					一		一		
三	等	兵					一		一		
一											

